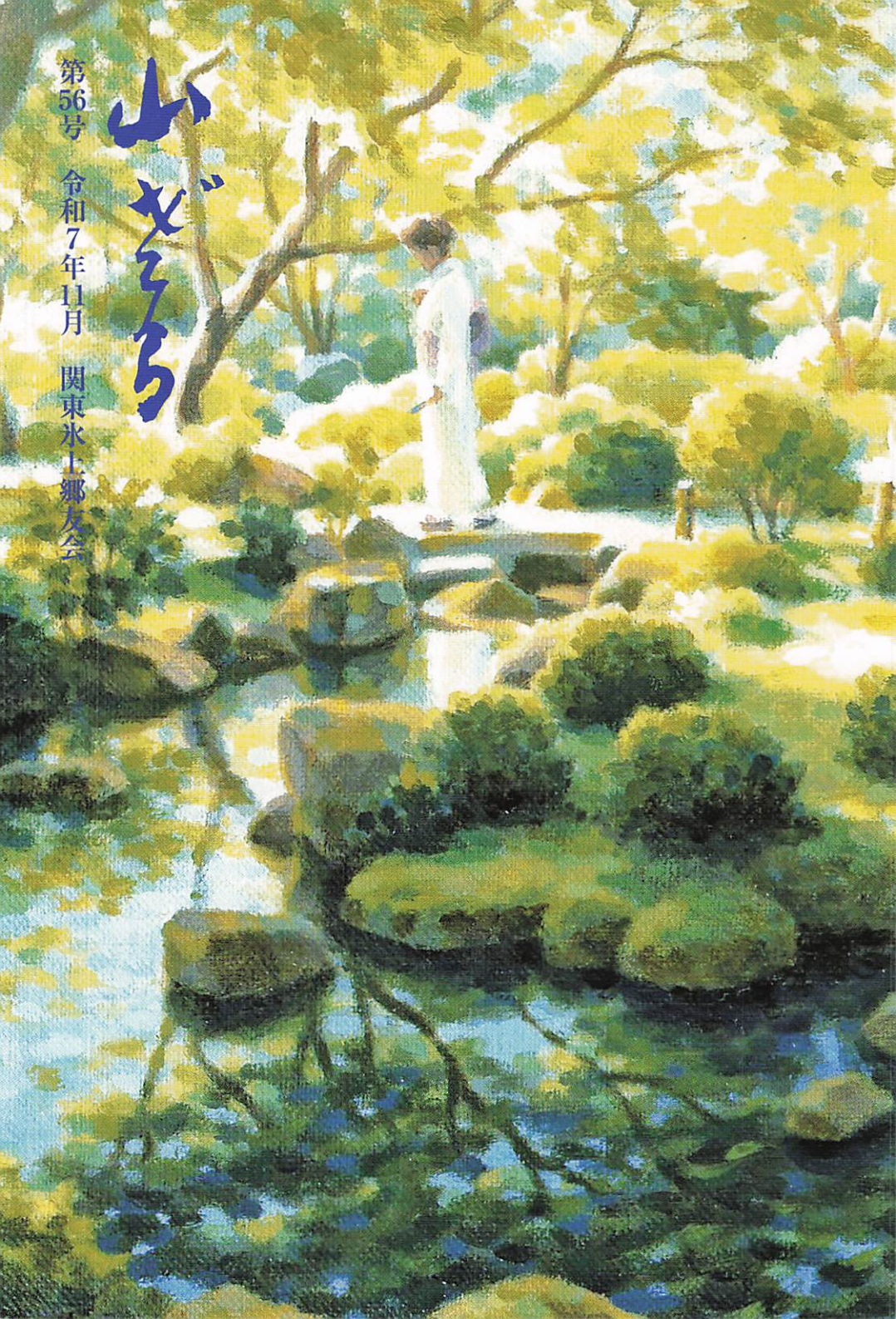


第56号

令和7年11月

関東氷上郷友会

山 ざ ら





兵庫県 丹波市 豊かな自然と歴史ある場所

四季の彩りと伝統を感じながら 輝く未来を創造できるまち



丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、緑豊かで美しい自然にあふれたまちです。

丹波市には“水分れ”と呼ばれる本州一低い中央分水界があります。“水分れ”に落ちてきた雨粒は、この地で日本海側か瀬戸内海（太平洋）側かどちらかに分かれ、川となって海に流れます。それらが、日本海側と瀬戸内海側を結ぶ大きな道の役割を担い、古くから人々が出会い、行き交うまちでした。秋から冬にかけて発生する「丹波霧」は、美しい自然に一層の深み

と神秘さを醸し出します。また、カタクリに代表される可憐な花々や、色鮮やかな紅葉は、四季折々の良さを感じさせます。

美しい自然と風土の多様性は、豊かな恵みをもたらします。その一つ、全国に誇る丹波市ブランドの農産物は、ここに暮らす人々の手で丹精込めて育てられ、丹波の豊かな自然の滋味に富んでいます。

また、2006年には草食恐竜の骨格化石が発掘、のちに「丹波竜」と命名され、古代から続く歴史を感じることができます。



丹(まごころ)の里



丹波市

やっぱり行きたくなる、やっぱり帰りたいくなる。

おかえり丹波

OKAERI TAMBA

国史跡黒井城跡



お申し込み・返礼品の選択は下記のサイトより検索できます

丹波市ふるさと納税特設ページ おかえり丹波

<https://furusato-tamba.jp/tax/>



最新の返礼品情報・
在庫状況をご確認いただけます。

・楽天
ふるさと納税



<https://www.rakuten.ne.jp/gold/f282235-tamba/index.html>

・ふるさとチョイス



<https://www.furusato-tax.jp/city/product/28223>

・さとふる



<https://www.satofull.jp/city-tamba-hyogo/>

・ふるなび



https://furunabi.jp/municipal_single.aspx?municipalid=1179

・au PAY
ふるさと納税



<https://furusato.wowma.jp/282235/>

・セゾンの
ふるさと納税



<https://furusato.saisoncard.co.jp/city.php?n=282235>

● ふるさと寄附金制度に関するお問い合わせ

丹波市 ふるさと創造部 総合政策課
TEL.0795-82-0916 FAX.0795-82-5448
メールアドレス sougouseisaku@city.tamba.lg.jp

● 寄附金の申し込みや返礼品に関するお問い合わせ

たんば商業協同組合
TEL.0795-73-0005 FAX.0795-72-0118
(営業時間/9:00~17:00 土・日・祝・12/29~1/3休み)

山 ざ る

第56号



山ざる 第56号 目次

巻頭言……石橋順子 5

《特集 女性のリアル》

座談会

女も男も何でもできる多様な社会へ 6

それぞれの視点

女性だから…ではなく大事なのは自分の思い……足立真弓 17

優秀なベトナム女性 日本で昇進できず帰国も……上 高子 21

戦後80年―柏原高等女学校 女学生たちと戦争……石橋順子 24

《インタビュコーナー》

コスタンティニ・ヒロコさん 「農の営み」で課題解決……編集部 28

《近況・エッセイ》

安芸の宮島 厳島神社のちよつとほろ苦い体験……葛谷理俊 34

雲はわき光あふれる甲子園……鴻谷正博 38

私のオオクワガタ物語―気づけば親父が一番夢中……山名清博 41

私の趣味 囲碁談義……豊島昭男 45

医薬品業界の約40年を振り返って―今も継続中……大海洋介 47

表紙「青もみじ映す庭」

(23×16cm 油彩 2011年制作)

笹倉鉄平さんのメッセージ

京都・伏見の城南宮境内、“曲水の宴”で有名な「平安の庭」を、若葉の季節に訪ねました。澄んだ空を映す水面の青、生き生きとした樹々の緑、女性の着物の白…そのコントラストに潔い清涼感を覚えました。歳をとるほどに、清々しく在りたいと感じます。

《私の職場》

はじまりは、「ジャケ買い」……松本祥一 51

《山ざる群像》

東大で3本の「新しい旗」を掲げる 54

《山ざる文芸》

俳壇・歌壇……56

《丹波から》

唯一無二の朱印を丹波から世界へ……平出全价 70

次世代に誇りを持てる“ぬぬぎ”を継承……打田哲夫 75

《丹波人物伝》

永井彰一郎教授の三輪小学校……徳田八郎衛 80

《丹波通信》

田艇吉の師「小島省斎」……荻野祐一 84

《山ざる研究》

高山寺の芭蕉句碑が結ぶ縁……上島成和 89

ふるさとの会報告……95

会計報告書……101

祝寿の方々ご紹介……102

《MY Gallery》故・谷敬三／金川和世……61

《丹波を撮る》……徳田八郎衛 63

ふるさとトピックス（丹波新聞）から 井徳正吾……69

BOOKS……106 会員だより……108

同窓会だより……112

インフォメーション……114

寄附者芳名……116 《協賛広告》……117 編集後記……130

倒れ木に
あそび
見たり
野分晴

倒れ木に
遊べる児等や
野分晴

西山泊雲「芋錢泊雲来往書簡集」より
書は上田道代さん

社会も男も女も変わろう



会長 石橋 順子

「山ざる」投稿者の皆様並びに編集委員の皆様と並々ならぬ尽力をもちまして、今年の「山ざる」56号も珠玉の号として発行

することができました。ご協力いただいた投稿者の皆様、手に取って読んでいただく読者の皆様に心から感謝申し上げます。56号は安井編集長の「女性特集で行く！」の確固たる方針の下に企画、編集されました。方針決定の理由の一つは、来期130周年を迎える関東氷上郷友会に初めて女性会長が指名されたことだと理解しております。

なぜこの長きにわたって女性が会長に選出されなかったのかは私たち全員が考えなくてはならない課題だと思います。

私は社会的、個人的に様々な要因が複合的に重なった結果だとは思いますが、今回女性を会長に指名をするという英断を下された、岸本勲前会長始め前執行部の皆様が柔軟で先進的な思想の持主であり、「山ざる」の歴史にターニングポイントを刻まれたといっても過言ではないでしょう。

何が卵で鶏かは分かりませんが、社会が変わり、男性が変わり、女性が変わらなければジェンダーの問題は解決しません。頻繫に引き合いに出される世界経済フォーラム、今年の「ジェンダーギャップ指数」で日本は148か国中118位と相変わらず下位に位置しています。理由は賃金格差が大きい、大臣は増えたが重要官僚ポストが男性で占められている、緊急避妊薬の販売数等多くの項目が数値化された結果です。小さな任意団体の郷友会の会長が女性になったことなど騒ぐうちに入りませんが、後退ではないはずです。

「山ざる」は読者が故郷を思い懐かしむ癒しの場であり、個人の思想や趣味を発表する言わば自己の存在証明の場でありますが、それだけではなく、科学やビジネス、歴史、文学あらゆる分野に関する情報の提供、交換の場でもあります。是非皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

情報の電子化が急速に進み「山ざる」も電子版で読めるようになりました。将来「紙の本」がいつまで存続するかかわりませんが、無機質で不愛想なPCやスマホに対して「紙」の暖かさ、手軽さ、脆さに逆に惹かれもします。「紙の本」がたとえ消滅しても私たち人間の、表現したい、知りたい、伝えたいという欲求は衰えることはないでしょう。

末永く「山ざる」を愛読して下さいますようよろしくお願い致します。

特集「女性のリアル」座談会



女も男も何でもできる 多様な社会へ

左から高瀬明さん、石橋順子さん、上野弥智代さん

日本の男女格差の現状は148カ国中118位(世界経済フォーラムのグローバル・ジェンダー・ギャップ・レポート2025年版)と不名誉な状況が続いています。憲法では男女平等を謳っているのに現状は主要7カ国(G7)のなかでもずっと最下位です。そんな日本ですが、関東氷上郷友会の第12代会長に昨年11月、石橋順子さんが就任、初の女性会長が誕生しました。これを機に会長の石橋さんと高瀬明さん、上野弥智代さんから3人の郷友会女性メンバーにお集まりいただき、女性のリアルな姿とともに女性と男性の未来について語り合ってもらいました。司会は「山ざる」編集長の安井孝之が務めました。

安井 石橋さんが1896年創立の関東氷上郷友会の会長に初めて就任されたのは歴史的な出来事ですが、石橋さんのプロフィールをみると、いろいろ挑戦されていますね。

石橋 高校時代は別になんの変哲もない平凡な生活をしていました。大学に入った1969年は大学紛争の真只中で1年間ずっと授業がないという時代でした。

4年後に卒業して民間企業に勤め、その後結婚しました。子供が生まれ、会社をやめてからは、完全な専業主婦になりました。

安井 当時は結婚後退職したり、出産後退職したりする例が多かったでしょうね。その後、転職があったのですね。

石橋 子供が3人できて、一番下の子が4歳の時に夫がドイツに転勤になり、家族でドイツに住みました。そこでドイツの大学院に行こうと思い、ドイツ語を勉強し、進学しました。夫は自分の仕事の都合で私の人生をかき回しているという負い目があったのか、とても応援してくれました。ところが6年間はドイツに駐在する予定だったのですが、夫が4年でフランスの研究所に異動となり、ドイツの大学院は途中で辞めざるを得ませんでした。フランスでも大学院に通おうと思いい、一からフランス語を勉強し、通ったのですが、帰国となりました。ドイツでもフランスでも大学院での勉強は中途半端のまま終わりました。

安井 帰国後、高校の英語の教師になられたのはなぜですか。

石橋順子（いしばし・よりこ） 関東氷上郷友会会長

1968年柏原高校卒業。大阪大学文学部を卒業し、就職後結婚。夫の海外勤務のため合計8年の独仏で暮らし、3人の子どもを育てる。帰国後、愛知県立高校で英語教師、今も神奈川県立高校で英語教師。英検1級、全国通訳案内士（英語）取得。名古屋大学大学院国際言語文化研究科修了。

高瀬明（たかせ・さやか） 創価大学糖鎖生命科学システム融合研究所教授 1976年柏原高校卒業。北海道大学獣医学部卒業、同大学院獣医学研究科で博士号取得。専門はウイルス学。国立精神・神経センター神経研究所研究員を経て、創価大学生命科学研究所に入り、1997年免疫科学部門・助教、2001年教授となる。同大理工学部及び理工学研究科を兼ねる。

上野弥智代（うえの・やちよ） 日本茅葺き文化協会事務局長・里山建築研究所取締役 1989年柏原高校卒業。短大卒業後、ソフトウエア開発会社に就職したが、建築を学ぶために1998年に筑波大学芸術専門学群建築デザインコースに入り、卒業。一級建築士。里山を生かす住まいの設計に取り組み、茅葺き文化の継承と発展のための活動に取り組む。



石橋順子さん

石橋 8年ぶりに日本

に帰ってきたのですが、
もったい加減に知識を
インプットするのに疲
れて、働きたかったの
です。でも愛知県の高

校で教えている時に2年間、休職し、名古屋大学
院に通い、ようやく修士号を取得しました。

人生が子育てだけで終わるのは嫌だった

安井 修士号を取ろうとするすごい執念があったので
すね。

石橋 一つはヨーロッパでの学びが中途半端に終わっ
ていたの、それでは嫌だと思っていました。それと
子育て中に、私はコーラスやったり、子供を遊ばせ
たりしているのですが、なにか足りないというライラして
いました。そのため英語の塾を始めたり、ボランティ
アでホームステイを受け入れたりしましたが、人生が
子育てだけで終わるのは嫌だったのです。

安井 それで勉強をしないと。何を研究されたのです

か。

石橋 今の言葉で言えば、ジェンダー問題です。女性
を揶揄するとき使う女性の呼び名がどう変遷してき
たかを研究しました。例えば明治時代だと「シャン」
と呼ばれていました。ドイツ語で美人という意味の俗
語から来ています。「あそこにシャンがいるよ」とい
うような表現が明治時代の小説にも出てきています。
時代とともにマドンナやギャルなどの女性に対する俗
称が生まれました。その変遷を研究したのです。

安井 高瀬さんは「リケジョ（理科系に進む女性）」
です。今もリケジョは少ないようですが、なぜウイ
スの研究者になられたのでしょうか。

高瀬 私の父は市島町出身ですが、県職員の獣医師で
したので、兵庫県内の各所をぐるぐる回っていました。
私の記憶が始まるのは加西市（旧北条町）の草むらで
す。田舎のぼつんと一軒家のような家に住んでいて小
学校1年で引越するまでは自然の中で暮らしていま
した。中学校からは春日町の明徳中学へ転校しました。
柏原高校3年生の時に理系だったのも自然の中で育っ
たためか生物に、なんとなくひかれたためです。よく

よく考えてみると哺乳類に興味があるんだなと思い、獣医学部に進むことにしました。

安井 お父さんが獣医だったことも関係していますか。

高瀬 父と母からは「あなたは一人っ子で、お父さんとお母さんが死んじゃったら1人になる。ちゃんと自分で食べていけるようにならないといけません」と言われていたので、何か資格があれば役に立つかなと子供ながらに思っていました。でもウイルスの研究者になつたので獣医師の資格は何の役にもなっていないませんが。

「ウイルス・ラブ」で続けた研究

安井 ずっとウイルスの研究をなさつたのはすごいですね。

高瀬 それはウイルス・ラブだったからです。獣医学部4年でインフルエンザウイルスを研究する研究室に入り「ウイルスって面白いなあ」と思いました。今もお付き合いがある指導教官はすごくいい人でした。修士号を取った後、ここで終わるのも寂しいと思い、ド

クターに行きたくなりました。親は「ああ、そうか」でしたが、指導教官からは「ドクターとはどんなものかわかっているのか」と言われましたね(笑)。

安井 今でもドクターコースに進む女性は少ないですが、抵抗感はなかったですか。

高瀬 当時の獣医学部はクラス40人のうち女性は4、5人でした。そもそも母数も女性の数も少ないので、そのうち女性がドクターに進むのが少ないのか多いのかわかりませんでした。特に壁があったとは思いません。修士課程までの研究を止めるのが寂しいという気持ちと、もっと研究したいという気持ちが強かったのだと思います。

安井 博士号を取った後も研究を続けられた理由もウイルス・ラブだったからですか。



高瀬明さん

高瀬 就職も考えましたが、しつくりきませんでした。隣の研究室の先生に「ポストドク(給料をもらいながら研究できる博士号取得



上野弥智代さん

者のポスト」を探しているところがあるよ」と勧められ、東京の小平市にある国立精神・神経センター神経研究所のウイルス学を研究されている先生の元に行くことになりました。その後研究所でお世話になった先生が創価大学に新設される生命科学研究所に行かれることになり、「君どうする？」と誘われ、一緒に着いて行つたのです。いろんな偶然が重なり、結果的に今もウイルスを研究し続けています。とても安直な人生のように思えます。

安井 いろんなチャンスをしつかり掴まれた結果でしょう。上野さんもプロフィールをみると、紆余曲折がありますね。

上野 神戸市生まれですが、5歳から母の実家がある山南町で育ちました。中学のころまでは語学を学んで海外で働く！、というようなほわっとした夢を持っていました。でも高校に入ってから、あんまりパツとしなくて、ぼーっとしていま

した。外大に行きたかったのですが、短大の英文科に進みました。あつという間の2年でした。今はキャビンアテンダントと呼びますが、スチュワーデスになろうと思ひ何社か受けましたがダメでした。それならば、今でいうIT関連の業種で、住友ゴム系列のコンピューター会社にプログラマーとして採用されました。

安井 希望職種とはずいぶん違いますね。

上野 昔からモノを作ったり、数学などパズルのように解いていくようなことは好きでした。プログラマーとして働き始めると「天職かな？」と思いました。課題に対して、自分で考えてプログラムを組み立て、答えを出すことにとても面白みを感じました。この会社は元気な会社でいろんな人がいました。当時のOLというより情報エンジニアとでもいうような専門的な技術も身につけられました。実は、小さい頃からおとなしい子ではなかったのですが、丹波ではみ出しちゃいけない、ちよつといいお嬢さん、普通でいなきやいけないと勝手に思ってたのですが、ここで働く中で、そこから解放され、このままでいいんだ、と楽になりました。

一冊の建設雑誌が人生を変えた

安井 面白かった仕事なのになぜ別の道に進まれたのですか。

上野 1995年の阪神大震災が転機でした。親しかった先輩の女性社員が亡くなりました。私は震災後、丹波の実家から神戸に通いましたが、「なぜ彼女が亡くなって私が生きているのか」と思い詰め、かなり鬱的な状態になったのです。そんな状態を「サバイバル症候群」というらしいですが、そのころは生気がないと周りから言われていました。そんな時、会社の雑誌コーナーで手にした一冊の建築雑誌に目が留まりました。中東イエメンの家の特集が載っていたのです。人の手で土を塗り固めたような自由な造形の家の特集でした。身の回りの資源を生かして人が作り上げるのが家なんだ、と興味を惹きつけられました。今思えば、里山の資源を生かしてつくる里山建築につながっていくきっかけでした。

安井 そこから建築の世界に入られたのですか。

上野 いきなり建築事務所に「就職したいのですが」

と電話をしました。英文科卒で未経験では無理でした。では勉強をしようと大学に入り直すことにしました。会社は25歳の時に辞めて、センター試験の勉強や受験科目にあるデッサンを学びました。学費のことも考えて、国立大学を目指し、芸術を学びつつ建築も学べる筑波大学が面白いと思い、志望校にしました。実家に戻って、お花や料理を習いながら勉強していたので、近所の人は「花嫁修行かな？」と思われたのではないのでしょうか。筑波大学には27歳で入学し、9歳下の同級生らと勉強しました。

安井 31歳で大学卒業ですね。

上野 楽しく同級生たちと充実した大学生活を送りましたよ。元々やりたいと思っていたのが木造建築でした。筑波大学で里山の資源を生かした家づくりを研究している先生に出会い、今もその先生と一緒に筑波の里山建築研究所という設計事務所に住まいの設計をしています。一方で日本茅葺き文化協会の事務局長も仰せつかり、ずっと里山建築の世界で暮らしています。

男性が仕事で潰れる「歪んだ社会」

安井 みなさん、これまで女性是不利だなあ、とか思いませんでしたか。石橋さんは子育てを一手に引き受けて、このままで終わりたいくないと思われていたわけですか。

石橋 夫は企業の研究者で、いわゆる企業戦士でした。家を朝早く出て、夜中の2時とかに帰ってくるんですよ。私は一人ですべてをこなしてました。家で子供を遊ばして、趣味のコースにも行って、一見のん気にやっていたわけです。でもすぐ男女格差を感じていました。なんで男性がこんなにいっぱい働いているのに、女性はこんな軽い仕事ばかり……。もちろん子育てや家事は軽い仕事ではないのですが、当時はそんな風に思っていました。ちょうどそのころ愛知県で男女共同参画室という組織ができ、論文を募集していたので、「今のままでは男性が仕事で潰れてしまう。一方、女性は子育てばかりに精を出している。この社会は歪んでいる」という趣旨の論文を出しました。今では共稼ぎが普通になっていますが、私は「夫と妻

が平等に子育てをする、その上で平等に仕事をする」という社会になってほしいと思っていました。

安井 石橋さんは「社会が歪んでいる」と思われたようですが、高瀬さんは大学などで働いてきて、女性だから不利だった、という思いはないですか。

高瀬 私が鈍感なだけかもしれません、そういった感覚はあんまりなかったです。もともと私の中に女だから、男だからという意識はあんまりないかもしれません。物心がつき始めていた保育園か幼稚園の時に、先生が「赤は女色で、青は男色です」と言ったのですが、その時「色に男色も女色もないだろう」と思ったのを覚えています。そんな私ですから、一度くらい「女だからかな」とちらつと思いましたが、そんな思いはすぐに消えてしまいました。でも最近は大卒がいぶん変わりました。親御さんからも「女性教員がない大学」と見られると困るので、女性教員が増えていきます。

安井 建築の現場は男の社会ではありませんか？

上野 職人さんはほとんど男ですね。9年遅れで大学を卒業したとはいえ、職人さんにとっては若い小娘で



す。もしも若い男の子だったら、もつときつく言われたかもしれないというのがありますが、謙虚に職人さんたちに教えを請うつもりで働きました。建築の現場で設計者は、ややもすると職人さんからは「現場をわからずに設計している先生」と陰口を叩かれる存在です。職人さんと対話し、経験を積んでくると「こうしてほしい」とはつきり言える力も必要になってくる。それに対処するのは男か女かという問題ではなく、経験を積んできたかどうかという問題だと思います。

安井 最近の若い夫婦は夫も育児を取り、家事分担も変わりつつありますが、家庭内の生活で不満はなかったですか。

石橋 夫は確かに企業戦士でしたから、子育てにはほとんどかわらなかつたですが、私が大学院で学びたいという時にはいろいろ応援をしてくれ

ました。夫は大学生のころ下宿していましたので、布団を干すなど家事も手伝ってくれました。すでに夫はなくなり一人暮らしです。重いものを運んだり、家具を動かしたりする時に一人住まいの苦労を感じますね。

高瀬 私は大学の研究室の後輩と結婚しました。博士号を取って、東京に出てきた時に、彼も修士課程を終えて、東京で製薬会社の研究所で働き始めました。その後、結婚しましたが、子供を持つというイメージがなくて、そのまま二人の生活です。夫は最初から食器洗いも洗濯もしてくれています。北大はほとんどが下宿生ですので、家事には抵抗感はないようです。研究所で博士号も取って、早期退職し、独立しました。これまでの経験を活かして、関連の仕事の家でしています。「僕は長い間、あなたのつくった朝ごはんを食べさせてもらったから、これからは僕がつくる」と言つて、朝ごはんはつくってくれています。自営業となり自由を獲得したようで、私が更年期などで調子が悪い時もずいぶん助けてくれました。

丹波で母と暮らす二拠点居住へ

上野 お二人の家庭はとても対等な感じですね。私はずっと一人なので家庭での不満とかはないですが、「二人で老後どうするんやろ」という心配は少しあります。東日本大震災の時に筑波にいたので、災害時のコミュニティのありがたみを改めて痛感しました。父が3年前に亡くなり母が一人で丹波に暮らしています。実は母が元氣なうちに丹波に帰ろうと思っていたところです。筑波での仕事を続けたまま丹波で暮らすという二拠点居住の道筋が見えてきたためです。里山建築の設計の仕事も関西を含めて全国に増えていますから**安井** リモートで仕事もできますしね。

上野 母が日々営んでいる丹波の四季折々の暮らしやお料理も、やっぱり母が元氣なうちに教わって身につけたいと思っています。若い頃田舎では近所の人の噂も気になりましたが、災害時のコミュニティの大切さもよくわかりましたので、よい里山暮らしができればいいなあと思っています。

丹波を出て人に対する許容範囲が広がった

安井 みなさんの人生を拝見すると、とても自由に歩まれてきたように思います。転機の際にいろいろとそろばん勘定をせずに新しいものにしなやかに挑戦されたようにみえます。昔からそうでしたか。私の場合を考えると、丹波を出てから、考えや行動の自由度が高まったように思います。

高瀬 私も同じように感じています。高校を出て、1年間、京都で予備校に通いました。そこでいろんな人がいるのを知りました。5浪の人がいたり、すごく優秀な人がいたり。小さな丹波のコミュニティから出ると、世の中にはいろんな人いるんだなと思いました。北大に行ったら、もって全国から学生が来ていて、留学生もいました。真面目な人もいるし、変な人もいる。大学に行つてよかったのは、人に対する許容範囲が広がったように思います。

上野 それは多様性を認めるということでしょうね。私が丹波にいたころは、「上野さんとこの子はどうしてる」とみんなが知っていることや、どこかはみだし



安井孝之さん

てしまうことが気になっていました。そこから解放されたのは最初に就職したプログラム会社の時だったことをお話ししましたが、どんな生き方をしてもいいんだな、と多様性を受け入れたことが転機になったのではないかと思います。

安井 27歳に大学進学ですから、ご両親から結婚はどうするんだとか言われませんでしたか。

上野 言われました(笑)。いわゆるいいお嬢さんでいてほしいという思いが両親には多分にあったと思います。でもいいお嬢さんからは若干はみ出しましたが、志した建築の世界で生きています。今では「まあいい人生でよかったね」と受け止めてもらっていると思います。

安井 世の中にはいろんな人生がある。それなのに回り道をせずに、いい大学に入って、いい会社に入らないと幸せにないみたいない思っています。最近話を聞い

た国立大学工学部の女性教授によると、娘を持つ親御さんの中には女性が工学部に行く就職できないと思っている人が、今もいるようです。

高瀬 私も最近、親御さんから「娘は大学院にも行きたいと言っているんですけれど」と聞かれの、「大学院に進まれたら就職先は広がりますよ」とお話ししました。

安井 女性はどうあるべきだとか、女性はこのことをしてはいけない、という思い込みがまだ残っていますね。そもそも男もこうあるべき、というのもおかしいと思います。

石橋 私の子供たちが幼稚園や小学校のころは、学芸会などの会場に入ってくるのも出るのも男の子が先でした。そのたびに「なぜ男の子がいつも先で女の子が後なのか」とモヤモヤした気持ちを感じていました。

さつと手を上げる女子学生と考える男子学生

安井 男は小さい頃から大事にされるとともに、ちゃんと家族を養って、長男ならば家を継いでほしい、と求められて「男はつらいよ」という面もあります。

上野 里山建築などのワークショップをしていると、さっと手をあげて発言するのは女子学生が多い。男子学生はまず頭でしっかり考えてから行動するイメージで、男女の感性が少し違うようにみえます。

高瀬 積極的で成績がいいのも女子学生です。

安井 男は保守的、慎重というか失敗をしたくない、という気持ちが強いのかなあ？。男もみなさんのように直感的に自分の選んだ多様な道を歩むことが必要ではないでしょうか。

石橋 60歳の時にイギリスにホームステイした時のことです。ホストの人たちも同じぐらいのお年で「もつと若い子が来る」と思っていたようで、びつくりされました。ホストも定年後の第2の人生を歩み、オックスフォード市内観光バスの運転手をしていました。どこの国でも定年後の人生を考えているのだなど親近感を覚えました。人生は本当に十人十色です。

上野 多様性が大事ですね。今の社会には閉塞感がありますね。男と女の話に限らず、いろんな違いを認め合うおおらかな社会であってほしいと思います。

思い込みを排し、多様性を認めよう

石橋 女か男かではなく、人間としてどうなのかという問いかけが重要ですね。

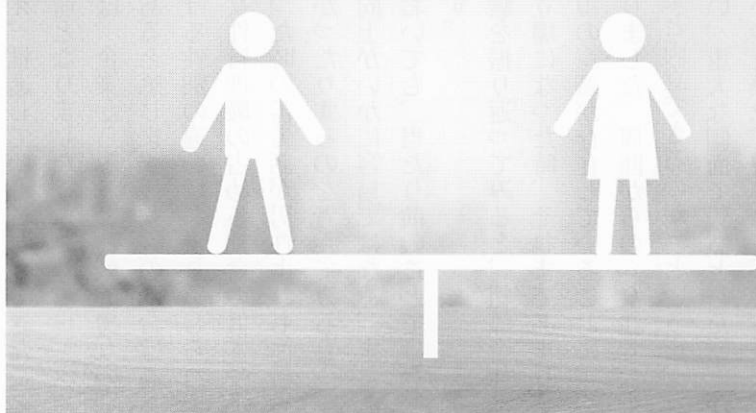
安井 つまり女も男も何をしてもいい、女だから、男だからダメ、というのはおかしいということでしょうね。人間としてダメなことはダメですが。

高瀬 人間には意識せず持っている偏見や思い込み、つまり「無意識のバイアス（アンコンシャス・バイアス）」があります。まずはそれが自分にもあるんじゃないかと気づくこと。「無意識のバイアス」を自覚して、多様性を認める、ということが大切でしょう。

安井 多くの人が無意識のバイアスを自覚して、女も男ももつと多様な人生を自由に生きていける心地よい社会になつてほしいですね。今日はみなさんありがとうございました。

特集「女性のリアル」

それぞれの視点



女性だから…ではなく
大事ななのは自分の思い

足立 真弓（神奈川県横浜市）



関東氷上郷友会会長に、初めての女性会長として石橋順子様が就任されましたこと、心よりお祝い申し上げます。

そこで、「山ざる」56号が女性特集を組まれるとのことで、女性の人生の苦楽についての原稿依頼を思いもかけずいただきました。丹波を離れて40年以上、故郷への思いは、自分を育ててくれた大切な場所（礎）として心の中に息づいています。その故郷への恩返しのため、寄稿させていただきます。

大学進学を機に横浜に出て、そのまま教育の道に進み、35年間、横浜の教育に携わってきました。教員、指導主事、管理職といういろいろな立場で教育に関わることができたこと、また現場と行政という両側面か

ら横浜の教育を捉え、推進していくことができたことは、私の大きな財産となりました。

学校という職場は、企業からみると比較的男女の別なく働ける環境にあると感じます。女性の割合は高く、日常的な業務における性別の違いはあまり感じられません。それでも、女性管理職の占める割合の低さや上司という立場に立った時の苦労話が男性よりも注目されたり、話題にあがったりするのを考えてみると、やはり女性の地位の向上がいかに容易ではなく、また能力主義の現社会においても、当たり前のことではないのがよく分かります。

実際に自分の経験を振り返ってみると、組織全体に対する重責を担う立場になった時、それまであまり感じなかった女性軽視の意識が存在していることに気づかされることになりました。周囲からの「女性で大丈夫なのか」「母親業と両立できるのか」という声、女性イコール頼りない、重大な側面で毅然とした態度がとれないのではといった懸念、安心して任せられないという心配。それは制度等の問題だけでなく、保護者や地域、ひいては社会全体に漂う「無意識の偏見・先

入観”です。また同世代の男性からは、やはり女性には負けたくないとするプライドが、厳しい言動や過剰な反応として返ってきました。本質や本来の能力ではないところで、相手を見たり評価したりする姿を、目の当たりにすることになりました。

しかし、私の場合はそういったことが逆に気持ちを奮い立たせてくれる原動力となったのがよかったと思います。どうしたら理解してもらえるか、協力しようという気持ちを引き出させるために必要なことは何か、自分のすべきこととあるべき姿を考えるよい機会と捉えました。自分が納得いかないと思うような言動も、組織をまとめていく立場として考えたとき、客観的に現状を把握・分析し、相手の立場を考えながら、粘り強く向き合いました。

主任時代うつなぐ役割

国が示す指導の大事なポイント「生きる力」をどう考えるかを基に、学校職員みんなで学校教育目標（育てたい子どもの姿）を見直し、新たに創ったときのことです。若い校長は思いが溢れ、突っ走る傾向があり、

若い職員はついていけず、経験豊かな職員はそれぞれの思いがあり、「みんなで創る」という同じ方向を向くことが厳しい状況でした。教務主任をしていた私は、校長の思いを具体的に伝えながら、その思いを実現する学校を創り出すのは私たち職員一人ひとりだと、時間をかけて話して回りました。もちろん、校長への要望や不満も丁寧に聞きました。

職員とのやり取り、校長とのやり取りを何度も重ね、夏休みの2日間をフルに使って、全職員でどんな子どもたちを育てたいかを考えました。職員・子ども・保護者それぞれの願い、地域性、未来の子ども像を合わせ、みんなが納得できる学校教育目標ができました。職員みんなの達成感、そのまま私の幸せな充足感と組織をマネジメントする確かな力となりました。責任職への魅力を感じた瞬間だったと思います。

管理職の仕事は、人事、保護者対応、地域との連携、教職員間の調整、教育課程管理など多岐にわたります。誰がやることになっても、どれひとつ容易なものはありませんが、意思決定や決断を迫られる場面、男性なら「的確」と評される言動が、女性となると「感情

的」などという言葉で返され、受け入れてもらうまでに時間や根気を要することもありました。こうした無意識の先入観が、人によっては自己抑制や迷いを生み出すことに繋がり、意欲や情熱が諦めに変わってしまった同僚もいました。

それでも管理職を目指す理由は、こんな子どもたちを育てたい、こんな学校を創りたいという熱い想い、ただ一点だけです。加えて、近年では多様な課題を抱えている子どもや保護者が増える今の学校現場において、女性ならではの強みが、確かに求められていると感じる場面が増えていることも事実です。

例えば、トラブル対応の場面では、経緯や事実確認だけでなく子どもや保護者の「気持ち」や「背景」に目を向け、丁寧に関係を修復していく姿勢が求められます。その際、相手に寄り添い、言葉にならない思いを引き出す対話力や空気を読む感性は、しばしば「女性らしさ」として語られる資質とも言えるのではないのでしょうか。けれど、それは単なる性差ではなく、育ちや経験を通して磨かれてきた確かな力であり、現場に安心と信頼をもたらす大切な要素だと思います。

管理職時代へ諦めない

軽い知的障害の生徒（高校生）が通う、就労を目的とする特別支援学校に副校長（教頭のことを横浜市では副校長と称する）として着任した時のことです。入学して3年後には社会人として働くわけですから、言葉遣いから所作全般にわたり、厳格な指導のもとで生徒が学んでいます。しかしながら、ついていくことが難しい生徒も出てきます。

受検して入学してくるので、当然その進退について職員は厳しい現状を突きつけます。学校が教育の場である以上、教職員には「どの子も導き育てていく責任



読み聞かせボランティアを月一回小学校で

がある」「どの子も見捨ててはいけない」と言い続けました。職員からは、「だったら副校長が責任もって見てください」などと言われる始末です。

来づらくなった生徒に、いつ来てもいいよ

と声をかけ続け、登校した際には、池のほとりで何気ない会話を交わしながら、やる気が失せないように毎日寄り添いました。無事、就労先が決まり、立派に卒業していく姿を見たときは、感慨深いものが込み上げてきました。私の姿を見続けた教職員の中から、一人二人と教職員のあるべき姿を見つめ直す人たちが出てきました。諦めない先に得るものの喜びを実感した瞬間でした。

多様性が尊重される今の時代において、生き方もそれぞれです。理不尽な理由で諦めることなく、誰もが自分の望む生き方を当たり前に歩める社会は、始まつたばかりです。女性の地位向上もその一つです。ワーク・ライフ・バランス支援や管理職の意識改革、ロールモデルの存在が女性登用を進める大きな要です。女性たちがより自然に責任あるポジションに立てるよう、また、性別ではなく個々の能力が認められ、発揮できる社会が、必ず近い将来、確かな形になっていることを願ってやみません。

第二の人生／近況

私は60歳で退職し、現在は不登校の子どもたちの支援をしています。不登校の原因は様々ですが、子どもの姿に心を痛め、悩みを抱えて傍に居るのは、母親が大半です。未来を担う子どもを育てるのは大人の役目であり、女性の役目ではありません。とはいえ、まだまだこれが現実です。

今の私にできること、教育現場で培ったノウハウと学んだことを生かしながら、共感し、寄り添い、話を聞き、励まし、「来てくれてありがとう」と笑顔で見送る毎日を過ごしています。

(氷上町出身、柏原高校1982年卒業)

優秀なベトナム女性

日本で昇進できず帰国も

（留学生に聞く日本の実情）



レ・ゴック・トゥイさん

日本の女性活躍の水準はアジアの中でも必ずしも高くない。それはなぜなのだろうか。ベトナム人留学生のレ・ゴック・トゥイさんに、日本

とベトナムの女性の働き方の違いを聞いた。トゥイさんは聞き手（上高子）が顧問として関わっている「アジアの新しい風」というNPOから奨学金を受給し、早稲田大学大学院で「昇進機会とジェンダー障壁」という修士論文に挑んでいる。トゥイさんは日本でも働き、日本の企業社会の実情にも詳しい。

——ハノイ貿易大卒業後（2019年）に来日されま

した。それまでの日本の印象と実際とは違っていましたか。新発見はありましたか。

トウイ 大学の日本理解の授業では、日本女性の大半は専業主婦と学びましたが、私が来日後に5年間働いた兵庫県加西市にあるメーカーの工場では、女性が主力で大勢働いていました。ベトナムと違うなあ、と思ったのは、保育園で子供が熱を出したとき、ベトナムでは夫か妻かどちらか都合のつく方が迎えに行きます。日本は妻が迎えに行くというのが当たり前です。私が勤めた工場では、妻にしか連絡がない、ということに驚きました。

——そこで働いている間に、日本のジェンダーギャップについて大学院で研究したいと思うようになったのですね。

トウイ 日本で働くベトナム人女性たちに事前に当たってみたのですが、職場であまり性差別を感じない、という回答が多かった。ところがインディードというリクルート会社の調査によると、日本女性5200人対象のアンケートでは、70パーセントが「職場で女性差別を感じる」という逆の結果が出ました。多分それ

は、上さんからアドバイスを受けた「会社経営陣が抱く日本人女性への期待と外国人女性への期待との違いがあるのかもしれない」という事情が反映しているのかもしれません。

——私の印象も日本企業では女性は昇進などで不利になっていると思います。

トウイ 私が5年間働いた職場をみると、35年間働いた男性は取締役になっている人がいるのに、同じ期間働いた女性は係長どまりです。それ以上のポストについている女性はいませんでした。確かに日本人女性の印象の方が正しいように思います。会社には、マネージャーになるには何歳までに何級という内規や昇級試験があります。女性の場合は産休を数回とると、受験資格年齢を超えるなど、デメリットが生じます。現状は産休や育給を、女性が男性よりも多く取るので、女性是不利になりますね。そのような実情を踏まえた結果は日本で働くベトナム人女性のアンケートからは得られないので、10名程度の個別の対面インタビューをしているところです。

——もしよかったら、インタビュー例から印象深いケ

― スを紹介していただけますか？

トウイ ある日本企業のベトナム支社に採用された20歳半ばの女性のケースですが、支社で非常に優秀な成績を収めたため、東京本社へ異動になったベトナム女性がいいます。彼女は本社でも良い成績を収め、人事評価が高かったため、人事面接で「マネージャーへの昇格」を希望しました。ところが「年功序列や性別などを考慮して、社内ステップを踏まなくてはならないので、すぐは難しい」と否決されました。そのためやむなく帰国を決めたとのことでした。私から見てもとてもリーダーシップのある人材でしたから、その日本企業には大損失だったと思います。

― ちゃんと処遇すればいいのにおかしいですね。

トウイ ベトナムと日本は産休制度も違います。日本では産休が長いのでその間に派遣社員など代わりの人がアサインされて、一年後に元の職場に戻りにくいという状況があります。ベトナムでは産休は最長半年で、その期間は代替のスタッフを入れず、職場のみんながカバーします。それに保育園は必ず確保されているので、日本のように保育園に入れないという理由で退職

することはありません。またベトナムは長く二人つ子政策でしたが、今は大分緩和されています。

― 日本でも産休後に元の職場に戻りにくいという状況は改善されつつあると思いますが、ベトナムは社会主義国として各職場で男女平等ということですが、昇進についてもそうですか？

トウイ はい。その通り、男女平等だと思います。

― 日本企業で働いた経験から、「ベトナムに居た方がよかったのに」とは思わなかったのですか。

トウイ いいえ、日本に来たことを後悔したことはありません。日本での体験を肯定的に捉えています。まず自分が選んだ道ですし、何より異文化体験は私に成長をもたらしました。将来のキャリアはベトナムへ帰国後にNGO（非政府団体）などで働き、日本とベトナムの懸け橋になりたいと思っています。

― 政治体制とは別に、日本とベトナムとの文化の違いは、なんだと思いますか？

トウイ 日本人は細かいことにこだわりますが、ベトナム人は大雑把です。それに「ホーレンソウ（報連相）」とか言って、部下に任せ切らない、というのは

驚きでした。「手紙を投函しておくように」という指示に対して、「投函しました」と報告するように求めるのは、いかがでしょうか。ダブルチェックの大事さもわかりますが、過剰な対応だと思います。

——確かにね。すべていい面と悪い面、両面ありますね。来春の卒業後はベトナムへ帰国されるようですが、その前に日本国内で旅行したいところはありますか？ トウイ 5年間ほぼコロナ禍のもとで勤務した元の職場の近辺が懐かしいです。何もない、静かな郊外で、イオンモールなどのショッピングセンターがあつて、落ち着いた小都市でした。東京は人混みが多いので、あまり好きになれません。

——加西市は丹波市にも近いですよ。丹波でも近年はベトナムの人たちが大勢住むようになっていそうです。それから、ぜひ脚をのばしてくださいね。

聞き手 上 高子（氷上町出身）

戦後80年——柏原高等女学校 女学生たちと戦争——

今年2025年は戦後80年にあたる。ついこの間、戦後70年だった気がする。月日の経つのが加速している感じだ。それだけ戦争の記憶は遠ざかつていく。私は戦争を知らない世代だが、戦争を経験した父母たちもこの世を去って行き、私たちも若いとは言えない年代になった。幼い孫たちを見ていると戦争のことなど知らないで生きていつて欲しいと思うが、私たちが今、伝えておかなくてはという思いにも駆られる。戦後80年と言わず毎年反省と平和への希望を込めて語り継いでいきたい出来事である。

そんなことを考えていた矢先、「山ざる」をいつも応援してくれている友人から「氷上（ひかみ）」という郷土誌が送られてきた。そこには「柏原高等女学校学徒動員の記憶」という記事が記載されていた。さらにある先輩が「柏原高校百年史」の中に収蔵された「もんぺ姿の女学生」という記事をコピーして送って

くだった。

奇しくもこれらの冊子に載った二人の女学生は柏原高等女学校を昭和20年3月卒業の43回生として同じ経験をしておられた。そこでお二人の記事を引用させていただくことで、当時の女学生が経験した「戦争の実態」を少しでも浮き彫りにできるのではと思った。戦地に赴いた男と同様に女も戦争に翻弄された時代を生きていたことがよくわかる。

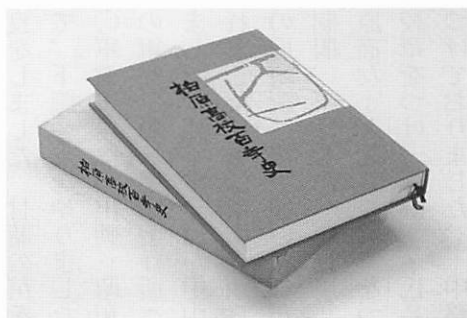


もんぺ姿の女学生

第43回生 源光恵（細見）

―「柏原高校百年史」より引用―

私が入学した当時、柏原高女の制服は、赤いラインの入ったセーラー服にひだのあるスカートだった。上級生の長いスカートに目をやりながら、いずれ私も、と胸をときめかせていた。でもこの頃の日本は軍事物体制がきびしく、入学しても出征兵士を見送ったり、その留守宅へみんなで勤労奉仕に出かけたりもしていた。「作業は即ち我らの生活にして修練の基底なり」と作業訓を唱え校内での作業にも精を出していた。英語は



しに行き、軍服を着た先生が大声で指示し、きびしい監視のもと、一生懸命に仕事をした。

四年生になると、戦局はますますきびしくなり学徒勤労動員報国隊を結成し、尼崎の甲陽製作所へ鉄砲の弾造りに行った。初めて親元を離れての寮生活だったが淋しいとも思わず、ただお互いに「勝つまでは頑張らしよう」を合言葉に、防空頭巾とカバンを作ってもらって出発した。みんなが集まると歌った歌は

「花の蕾の若桜、五尺の命ひっさげて国の大事に殉ず

中学校の先生の出張授業。十二月八日、太平洋戦争となるや、二年生からは廃止となってしまう。その上、大好きだったセーラー服の衿も切ってヘチマ衿に、あこがれのスカートは禁止、もんぺ姿の女学生となった。授業中にも山へ木を切り出

るは、我等学徒の面目ぞああ、紅の血は燃ゆる」

工場では、工員さんたちと一緒に油まみれになつて働いた。しかし、昼夜かまわず飛んでくるB 29からいつ爆弾を落とされるか分からない恐怖の中、「タイヒ！」の声があれば防空壕の中へ逃げ込んだ。

雨で水たまりのある壕の中でお尻をぬらして時を待つこともあった。「もう死んでもいい！防空壕の中へは入らない」と叫ぶ友だちをなだめたこともしばしば……。

B 29の襲撃も激しくなり、工場が私たちの女学校の雨天体操場に疎開することになり、九カ月間の寮生活を終え、全員引き上げた。すっかり親しくなった工場の方の寄せ書きに「B 29撃つ弾は、柏原高女で造ります。その意気、その力、頑張れ学徒係吉田」とあった。こんななか、私たちは卒業を迎えた。卒業後五十年を迎えた私たち、苦楽を共にした友との絆は強く、今も大事にしている寄せ書きノートは生きてきた証であり、なつかしい母校の思い出でもある。

「柏原高等女学校 学徒動員の記憶より」

第43回生 横谷（黒田）都

——水上郷土史研究会会誌「氷上」第八号より引用——
○農園作業…僅か二ヶ月の間に食糧事情が深刻になって来ました。食糧の増産に寄与する意味で、学校の空き地は殆どなくなっていました。腰をおろして友と夢を語った芝生も、洋風作りで好きだった中庭のたたずまいも、もう見る事はできませんでした。かたい運動場の土には、自給自足の堆肥を施肥して土壌の改良をしました。甘藷の苗を植えて、二名で肥桶を担って、下肥や水をやりました。

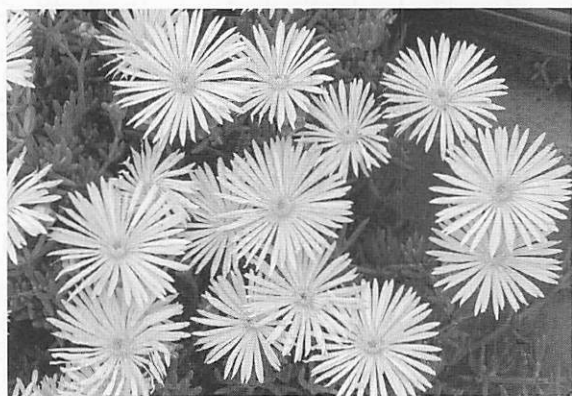
○軍需工場への出勤…昭和19年7月1日、私達は尼崎の軍需工場・甲陽製作所へ学徒動員として入所いたしました。4年生全員が中山寺と立花の二つの寮へ分かれました。私は中山寺から福知山線で、神崎駅（現在の尼崎駅）まで通いました。戦闘帽をかぶり、上着は制服、下はもんぺを着用し「勤労報国隊 兵庫県立柏原高女」と記した腕章をつけ、胸には学徒のマークと校章をつけ、血液型・氏名・住所を明記した布を縫いつけておりました。——中略——私達と共に、第三高等学

校、鳳鳴中学校、琴の浦高等女学校、沖縄挺身隊の皆様と一緒に。大きな旋盤に向かって工作機械を操り、ジュラルミンや真鍮を削って弾殻や芯頭になる部分を作りました。高射砲の弾丸の一部であること、私の作っているのはごく最初の工程であることを聞きました。――中略――中山寺で下車して、六甲おろしの暗い道を「撃ちてしまん、我等はみんな力の限り、勝利の日まで、勝利の日まで。」と歌いながら寮へ帰って行きました。

○学徒出陣の日（作詞ノートより）

建国ここに三千年 神つ国なる皇国の 興亡賭する一戦に こぞりて立たむ学徒我 堅き覚悟のひとすじにつとめ果たして帰るまで しばし別れん 故里の 野山よ川よ いざさらば

（謝辞）氷上郷土史研究会会長 山内順子様にはお忙しい中資料提供にあたり大変お世話になりました。ここに感謝申し上げます。（石橋順子）



撮影・岡 吉明



「農の営み」を通じて 高齢社会での 包摂性の在り方 を見つめ直す

東京大学大学院農学生命科学研究科准教授

コスタンティニーニ・ヒロコさん

●インタビュー 長澤孝昭、上高子

『プロフィール』 柏原町生まれ。実家は料理旅館「三友楼（さんゆうろう）」。旧姓は「梅垣」。5人姉妹の末っ子。柏原高校1989年卒業。社会人のときに長年の海外志向を実現すべく猛勉強。米ハーバード大学に留学し国際政治を学ぶ。そこで学生結婚し、卒業後、夫婦でシンガポールに渡った。さらに英オックスフォード大学、ケンブリッジ大学でも研究した。その後高齢社会問題に関心が移り夫と3人の子どもを海外に残し、2022年に帰国。東京大学で「ケアリテラシー」を中心に研究を続けている。准教授。

——丹波で生まれ丹波で育ったコスタンティニーニさんが25年間の海外生活に区切りを付け、帰国されたのは3年前ですね。

コスタンティニーニ そうです。日本の大学を卒業し、宮崎放送、NHK（東京本部）でキャスターをしていたのですが、それを辞めて丹波にいた頃からずっと憧れていた米国への留学を決意。2年間猛勉強して米ハーバード大学に入学しました。ところが大学で今の夫と出会い、学生結婚。その夫がイタリア人とイギリス人のハーフだったこともあり、結局私は次々に生まれてくる3人の子どもを抱えながら夫の勤務先のあるシンガポールや英国、フランスで研究を続けました。ハーバード大学では修士号、ケンブリッジ大学では博士号を取得しました。

東京大学で高齢社会問題を研究

——今は東京大学大学院の農学生命科学研究科。何を研究されていますか？

コスタンティニーニ 高齢社会における（自然も含んだ）包摂性についてです。ハーバード大学では国際政治の

現場で活躍するリポーターになりたくて政治学を勉強していたのですが、日常生活とあまりにかけ離れていて「どこかおかしいな」と感じ始めていたのです。そのとき、たまたま取った人類学の授業に興味を持ち、「社会人類学」にのめり込んでいったんです。きっかけは丹波に住んでいた祖母の介護問題でした。

——介護ですか。

コスタンティニ 私は5人姉妹の末っ子です。家業が料理旅館で結婚式などもやっていました。お手伝いは当然で、20キロもあるテールを運ぶのは我々子どもたちの役割でした。母は仕事をしながらも祖母の介護をしていました。ずっとおばあちゃん子だった私は祖母から手紙をもらいました。その手紙には「厄介者ですみません」ということが書かれていた。誰も祖母のことを厄介者だなんて思っていないのに、と思いました。なぜそんなことを言うのだろうと不思議に思いました。祖母はまだ頭がはっきりしていて母が自分の面倒を見ていることも分かっていたと思いますが、体が思うように動かない状態でした。一方、母は介護に時間をとられ、体も痩せていった。祖母には自分の存在が「家

族に厄介をかけている」と思えたんでしょう。彼女の表情は悲しそうです。母に面倒ばかりかけて申し訳ないという気持ちがあったんでしょう。そんな経験があったので、祖母の言う「厄介者」の正体を知りたくなったのです。

「ケアリテラシー」を提唱

——「ケアリテラシー」を提唱されていますね。

コスタンティニ 2015年頃、パリに住んでいた頃の話です。たまたま非常に細い道を通っていたら、私の前に80歳くらいの腰の曲がったおじいさんがゆっくり歩いていました。追い抜こうとしたのですが、もし急にアジア人の私が追い抜くと、スリだと思って転倒でもされたら困るなと思います。こんな時にどうしたらいいのか。とっさに分からなかった。家族介護者などの高齢社会課題の研究をしているのに、日々経験するこんな日常的なことが分からない。私って、高齢者のことをケアするリテラシー（特定の分野に関する知識や理解力、態度、行動力）がないなと思ったのです。

——聞き慣れない言葉ですね。

コスタンティニ ケアリテラシーという言葉を作ったのは実は私です。日本は世界でも一番高齢化が進んでいる課題先進国です。介護施設もたくさんあるし、病院の数も多い。でもそれらの施設がお互いに遮断されていて、地域社会に住んでいる人と無関係な存在に



福島県飯館村復興プロジェクト「飯館村ホッププロジェクト」発起人リーダーの畑上太陽さん（東京大学大学院農業生命科学研究科博士課程学生）と一緒にホップの手入れ

なっている。高齢者を「ちよつと気に留める」ケアリテラシーがあればもっと住みやすくなるんじゃないかと考え、今取り組みを始めたところです。

野菜や「ホップ」の栽培を介して高齢者と交流する場に

——いまインタビューしている畑も研究現場ですね。

コスタンティニ そうです。埼玉県人間郡三芳町（みよしまち）は東京から一番近い緑のオアシスといわれ、特にサツマイモの産地で有名です。その一画にある農地を東京大学がお借りして野菜やホップの栽培を始めました。

——なぜビールに香りや苦味をつけるホップなのか。

コスタンティニ ホップは雑草のように強く、世話をした分、育つかわいらしい植物です。だから素人でもグループでも育てやすいのです。また、プロの農家の方が作られている野菜とも競合しないので、栽培しています。高齢者に一番必要なのは社会性です。2人住まいの時はいいですが、独りになったら外に出る機会も気力もなくなってくる。社会性がなくなるとだん

だん要介護になっていきます。独り暮らしの高齢者を誘って、一緒に農作業をしようとしているのです。近所の独り暮らしのおじいちゃん、おばあちゃんを誘うという条件を付けて、そこに企業の人にボランティアにきてもらいます。ホップの収穫時期には、この畑にテーブルを並べて3世代混ざってビールと地産の野菜を頂きたい。そんな光景を私は夢見ています。

農業に対するイメージを変えたい

——自然の中で飲むビールは何とも言えませんね。

コスタンティニーニ　やはり自然と触れあうことによって自然に対する気持ちも変わってくると思います。最近、日本でも女性や障がい者、外国人を対象とした関係性を「インクルーシブ（包摂性）」と言いますが、私は人だけではなく、自然も対象に加えたいと提唱しています。自然と人間との関係を、もう少し気に留める。農業はとても自然に近いので、それを意識して「アグリ（農的な営み）＋カルチャー（文化）」とも読み換えています。「農業は男の仕事」という日本にあるイメージも何とか変えたいのです。15年住んでいたフ

ランスでは若い人、女性が喜んで農業をしているのですから。

——日本の農業を変えたいというのは壮大ですね。

コスタンティニーニ　ある意味で文化的価値観を変えるのですから大変です。今の日本は物価高と言われていますが、野菜などはヨーロッパに比べて断トツに安い。農業なしの有機農法で育てるのはとても大変です。それなのに日本の消費者は安さを求めるので、農業は儲からない仕事になっていくのです。「これくらいなら払ってもいいよ」と消費者が思えるような農業に対するリテラシーが必要です。日本人の社会規範、価値観を変えていくことは、とんでもない時間がかかるかもしれない。まずは農業の実態を知ってもらいたい。誰かがやらなければいけません、それは大学であり、自治体の役目だと思います。

——企業社会も変えたいですね。

コスタンティニーニ　農業に関わるボランティア活動（「アグリ・ボランティア」）を社員が幸せに生きているための福利厚生に使っていただくことで変えていきたいと考えています。自然の中で作業をすると嫌な



東京大学飯館村ホップ復興プロジェクトの学生のみなさんと、八木信行教授（右から3人目）、林伊佐雄・三芳町長（同4人目）を囲んで

ことを忘れます。私のように大学で働いていてもストレスがたまります。大学からは1時間半ほどかかりますが、ホップ畑がある広い農園に来ると、頭の中にあつた嫌なことが帰るときには少なくなっています。企

業の皆さんにも、そんな経験をしてもらいたいです。
日本語を話す外国人みたい

——日本の暮らしはストレスがたまりますか。

コスタンティニ 私日本人にみえる顔で、日本語ネイティブです。だから東大のどの先生も私は日本の文化を完全に理解していると思っているでしょう。しかし長い間日本に住んでいなかった。日本に戻ってきても、すぐに100%日本人の感覚には戻れません。東大のある友人の女性教授に「コスタンティニ先生も、最近、ずいぶん日本人らしくなりましたね」と言われたのですが、3年では日本人にはまだまだ戻れないですね

——東大も異質な世界ですか。

コスタンティニ やはり「男の世界」ですね。教員の90%は男性です。多くの先生は「自分は男だ」と強く思っていないでしょうが、男性中心の価値観で動いてきたものが短時間で変わることはない。そこはヨーロッパとは全然違います。たとえば、研究プロジェクトをする場合、大学当局との折衝や申請書類の作成な

どすべてを、私がしても最終的な署名は上司が上司の名前でします。上司もそれが当たり前のように思っている。上司のために部下が裏方を務めているのです。そんなことはヨーロッパではまったくありません。自分のことは自分でやります。

私の価値観は丹波産

——今も丹波との関係はありますか。

コスタンティニーニ まだ母が丹波で健在です。長男家族も元気にしています。帰国してから改めて考えると、私の価値観はやっぱ丹波に生まれて育ったことから育まれたのだと再確認しました。丹波で生まれ育っていないかったら、全然違うことをしていたような気がします。家族みんなが働いている9人家族で暮らしたことも大きかったかもしれません。リングゴが食べたければ、自分で皮を剥くしかない。皮を剥いたリングゴは出てきません。丹波は夏暑く、冬は実に寒い。そういう日常の中で自然と忍耐力も付いたと思います。

——コスタンティニーニさんは努力家ですね。

コスタンティニーニ 自分で言うのも変ですが、私はす

ごく努力をする人なんです。ヨーロッパ育ちの私の子どもたちとは違います。もう少し努力をなさいと言っても、「努力する意味が分からない」と反論されます。——丹波で培ったことが今になって生きていますね。コスタンティニーニ 非常に有り難いと思っています。田舎で育って田舎で価値観ができたということは嬉しいですね。高齢者を地域社会に誘い出すための仕掛け作りの一環として三芳町でホップや野菜の栽培を行っています。丹波でもやりたいですね。スポンサー企業を探しますが、実現の可能性はあると思います。

インタビュアーひと言

長澤孝昭 自然の中で精力的に語る彼女は実に魅力的だった。（柏原町出身）

上高子 このまま日本を離れてもいい、と思った国際結婚だったが逆単身赴任で東大に就職してから、「自分のルーツは丹波人と気づいた」との言葉が印象的だった。（氷上町出身）



安芸の宮島 厳島神社の ちよつとほろ苦い体験

葛 谷 理 俊（札幌市）



昨年の夏、義妹夫婦から旅の誘いがあった。実は、義妹のつれあいは私の学友で、お互い忌憚のない間柄である。これまでもなにかと四人

で旅することが多かった。

彼が、これまで、ギリシャのキクラデス諸島をはじめ内外の集落の調査に取り組んできたことから、小豆島の道の駅にキクラデスの風車を再現するにあたり相談があったとか。風車が完成したので見に行くが、ついでに瀬戸内周辺の歴史遺産や日本のモダニズム建築（注）との邂逅を一緒にどうかとの提案である。

大阪住まいが長かった私達にとって中国・四国地方は身近ではあったが、尾道から西は全くの未踏。とりわけ、安芸の宮島には行きそびれた悔いがあり即座に



厳島神社の大鳥居

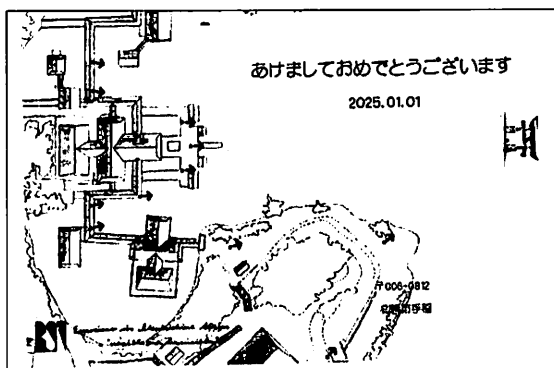
賛同、秋に同行を決行した。

しかし、ここでは、私達の下手法旅行記でもあるまいと、標記のタイトルに掲げた、厳島神社参拝の個人的な体験とその感懷を記してみることにした。

先ずは、廿日市で高速を降り、参拝者であふれかえる宮島口のフェリー乗場へ。さほど待つこともなく乗船。わずか10分のサービス精神旺盛な航路、グイッと半円を描いて迂回、大鳥居を間近にした後、宮島の栈橋に上陸した。年甲斐もなくチョットわくわくする。神社入口までは、参道商店街を抜けるルートもあるが、大鳥居が視野に入る海沿いの参道を行くことにする。

順路には、所々に配された像、記念碑、小さな末社などもあり、巡りつつ進んで行くと視野の中で朱色の大鳥居が徐々にその大きさを増してくる。また、所々曲がり角などのポイントにはチョットした木立の塊があり鳥居を隠して、抜けた時の不連続な変化が新鮮である。

着いた社殿の入口前広場は、木立に囲まれやや閉鎖的で厳肅。ここで、今一度ふり返って、垣間見える鳥居を確認の後入場。鳥居を背に客神社を抜け回廊を進み、向きをかって東回廊に。ここで社殿に入ってから初めて鳥居を拝するが、短い回廊ですぐに向きをかわすその姿を隠す。こうして、長短の見え隠れを繰り返しながら期待感を高めつつ参拝者のごった返す正面の平舞台へ、更に楽房などの間から海に向かって張り出した火焼前（ひたさき）に至る。ようやく、高さ約16メートルもの堂々たる大鳥居の姿に、行程の変化で盛り上がった高揚感に浸りつつ対峙する。ちょうど干潮時で干潟に立つ柱の周りにはかなりの数の人々がまとわりつくように群がっている。いささか神聖さを欠くものの、風景の浮き立つような空気に染まってし



厳島神社参拝時に体験した「見え隠れ」のシチュエーションの一部を今年の年賀状の図柄に仕立てた。矢印は全て大鳥居を見ており、それぞれが「見え・隠れ」の起点と終点を示し、矢印の間が「見えてる・隠れてる」を表している。

まいそう。また、インバウンドの人達の多さを、当時の国際派だったとされる清盛公が眼にしたならば、その感慨は如何ばかりかなどと思いを馳せて一刻を過ごした。

つづいて、背後の高舞台の奥の拝殿へ、中の余りにも閑散とした様子に戸惑いつつ本殿に、ひいては、最後に聳えているであろう弥山に向かって型通りに拝礼

して参拝を終えた。帰路は、往路の見え隠れをそのまま逆にしたどり、信仰の思いを高めていく映画のカットの巧みな組み立てのようなシチュエーションを反芻しながら、日常に戻り、フェリーに乘船、宮島口に戻った。

この後、岩国の錦帯橋に寄り道の後、広島へ。皆高齢者なので早めにホテルにチェックイン。その夜、行程を振り返って、メモなどを読み返し、神社の配置図を見ながら順路とポイントなどを確認していると、閑散とした拝殿と大鳥居をめぐる大賑わいとのあまりの落差を思い出した。神社であれ、寺院であれ、本来詣でることは御神体とか御本尊にお参りすることのはず。しかしここでは、ほとんどの人達が異様に立派な大鳥居を、ひいては対岸の山体や中腹に張り付いた街並をひたすら遙拝しているではないか。しかしこれは何か違うのではないか。

それについて思い当たるふしは、昔はフェリーなどなかったということだ。たぶんそれ以前は、満潮を期して櫓を繰って海を渡り、そのまま鳥居を潜って社殿に直接上がったのではないか。やはり、鳥居は鳥居、

神域への入口で、拝礼の対象としてではなく、神殿を正面から眺めながら潜り、先ずは、拝殿に入り、本殿に参拝し、お祓いなどを頂いた後、舞楽や舞などを楽しんでに違いない。

つまり、詣でることは、楽しみであり娯楽だったのだらう。そう思えば、後に付け加えられたであろう能楽堂などの存在も納得できる。まさに、厳島神社は海に浮かぶ別世界、いわばテーマパークだった。鳥居の見え隠れも風景の変化として楽しんだのかもしれない。また、やんごとなき方々のご参詣ともなれば、それ相応の船、今でいうちよつとしたクルーズ船が仕立てられたと考えれば、五、六階建のマンションの正面にも相当する巨大な鳥居が必要だったと納得する。

白状するが、実は私自身もやはり大鳥居の存在に引きづられて「見え隠れ」のシチュエーションの展開にはまり込んで、拝礼が付け足しになり、ひたすら鳥居詣でをしていたことを自覚した次第である。

(注) 日本のモダニズム建築…昭和30年代から40年代にかけての日本建築の一大潮流。この時から戦後の日

本建築界が高く評価され、世界の最前線に立つようになった。丹下健三をはじめ多くの名だたる建築家を輩出している。私達も学生時代から駆出し時代、大いに刺激を受けた。とりわけ、中国・四国地方には、地元の各知事や自治体の努力で積極的に推進がはかられ、多くの名作が残されている。

(山南町出身、柏原高校1961年卒。大学院修了とともに建設会社に入り、企画や設計に携わる。定年後、札幌市に移住)

雲はわき光あふれる甲子園

鴻谷 正 博（横浜市在住）



昨（令和6）年8月1日、甲子園球場は開設100周年を迎えた。テレビに映し出される歴史の歩みを見て、懐かしい思い出が蘇った。

小学5年の春休み、後に進学予定の柏原高校の“セブンバツ初出場”を応援するため、父や兄とハイヤー貸切で未明に佐治の自宅を出た。試合は第3試合だが開会式の日だったので、それに間に合うよう早出したのだが、当時は高速もなく、かなりの時間を要した。昭和36（1961）年3月29日のことだった。

初めて訪れた甲子園球場はとても大きく、輝いて見えた。柏高健児（お兄さん方）の堂々の入場行進（写真参照）には鳥肌が立った。

待つことしばし、午後3時頃に試合開始。対戦相手



柏原高校の甲子園入場行進（柏原高校100周年誌より）

は栃木県の作新学院という無名校。柏高・井尻投手と作新・八木沢投手の息詰まる投手戦となったが、終盤に作新に攻められ、柏高アルプス席の声援むなしく0-2で敗れ去った。

高校進学後、セブンバツ出場時の野球部長だった化学の木寅三司先生が「甲子園に行ったのが私の人生の“華”だった。本当に忙しく、自分の時間はトイレの時ぐらいだった。皆さんも、どこかで人生の華を咲かせてほしい」と述懐されていた。

以後、春夏を通して柏原高校の甲子園出場はなく、正に100年に1度の歴史的快挙となっている。一方、

作新学院は翌年、八木沢・加藤投手の活躍で高校野球史上初の「春夏連続優勝」という快挙を成し遂げ、後に江川投手の台頭もあり、作新学院は強豪校として全国にその名を知られる。

八木沢投手はその後、東京六大学に進み、プロ野球のロッテオリオンズで活躍された。ロッテ監督も務められた。

星霜移り61年、令和4（2022）年秋に奇しくも八木沢投手こと八木沢荘六さんと湘南方面でお会いする機会に恵まれた。以下はその時のやりとり…。

鴻谷…私は八木沢さんが甲子園初出場時の初戦の対戦相手だった兵庫県の柏原高校の出身です。当時は小学生で、一塁側内野席での観戦でした。八木沢さんといつかお会いしたいと願っていました。

八木沢…ああ柏原高校、よく覚えていますよ。良いピッチャーでしたね。攻めあぐみしました。なんて名前でしたか、その後どうされましたか。

鴻谷…井尻英毅投手ですね。たしか、社会人野球の道に進まれたようです。肩か肘の不調で苦労されたとか

聞きましたが、定かではありません。

八木沢さん、「センバツ甲子園」の印象は如何でしたか。

八木沢…栃木県の今市という地方でやっていたので、とにかく甲子園は広くて、緊張しましたね。柏原高校との対戦は甲子園初勝利で私の大きな第一歩でした。大変懐かしい話を聞かせていただきました（相手を崩された）。

鴻谷…柏原高校OBで、後に近鉄で活躍する佐々木恭介選手をご存知ですか。実は私の「竹馬の友」です（保育園・幼稚園・小学・中学・高校と一緒）。

八木沢…へえー、よく存じています。同じパリーグで投手と打者で対戦していましたから。素晴らしい強打者でした。近鉄の監督もしましたね。

鴻谷…はい、そうです。作新学院といえば、江川投手（後に東京六大学やプロ野球の巨人で活躍）を思い出しますが…。

八木沢…彼は別格、怪物ですね。他の選手とはスケールが違い過ぎました。

鴻谷…今シーズン（令和4年）、佐々木朗希投手が完

全試合を達成し、ロッテでは八木沢投手以来と紹介されていましたが。

八木沢…私の時は、村田兆治（エース）が投げる予定でしたが、具合が悪くて、代役が回ってきました。最後はラファイバー選手へのセカンドゴロで完全試合達成でした。

鴻谷…さすが、よく記憶されていますね。話は変わりますが、私は偉人・二宮尊徳の子孫と関わりがありますが、尊徳終焉の地が八木沢さんの故郷である日光の今市というのはご存知でしたか（今市二宮神社に墓所がある）。

八木沢…そうですね。知りませんでした。

鴻谷…兵庫県の強豪・報徳学園やドジャース・大谷翔平選手の母校・花巻東高校は、尊徳翁の教えを継承しています。

（八木沢さんは現在、公益社団法人・全国野球振興会理事長を務められている。大変気さくなお人柄で、幼き日の敵愾心？は一気に解消。お会いして良かった。）

そのセンバツの後、私は甲子園球場を何度も訪れた。

高校野球兵庫県予選は甲子園でも開催されるので、佐々木恭介君の応援に行ったこともある。たしか4回戦で育英高校に負けた。その後、プロに入って最初のオールスター戦出場（ファン投票で選出）が甲子園で開催だったので、東京から新妻と一緒に駆け付けた。後部席に両親がいらして、「金やん（全パ指揮の金田正一・ロッテ監督）は自分とこの選手ばかり使って、恭介の出番がない」と嘆かれていたのが印象に残る。

ところで、本（令和7）年6月3日に長嶋茂雄さんが亡くなられた。近鉄監督として、オープン戦ではあったが、憧れの「ミスタープロ野球」長嶋巨人監督に果敢に挑んでいた「われらが恭ちゃん」の勇姿に胸が熱くなったことが思い出された。

（昭和24年生、柏原高校昭和43年卒、青垣町佐治出身、会社顧問）

私のオオクワガタ物語 （気づけば親父が一番夢中）

山 名 清 博（川崎市）



私が40歳にしてオオクワガタにハマリ、それから30年近くが経ちました。気づけばガチな「クワガタ親父」になっていました。クワガタはまさに「大人のおもちゃ」だったのです。

1996年の初夏、5年間のロンドン赴任から帰国、8月に家族で丹波・市島町市島の実家へと里帰りしました。子供たちと一緒にセミやバッタ、クワガタを網で追いかけて、キャッキャツと楽しく遊ぶ…はずだったのですが、えっ!? 子供たち、まさかのまさか昆虫が触れない!

思えば無理もない話で、亜寒帯のロンドンではリスは庭に、ウサギはゴルフ場に頻繁に出没するのに、昆虫なんてほぼ見かけません。触れるどころか実物を見

る機会すら無かったのです。

採ったクワガタたちは、プラスチック格子状の虫カゴに入れて、次の目的地の家内の実家・仙台へ移送されました。ですが、東京に戻る頃には、カゴの中は……全滅。隠れるスペースが無い虫カゴはストレスが大きかったのです。

子供たちは泣きべそです。

少しでも元気づけようと、皆んなで二子玉川の高島屋の屋上ペットショップへ。1匹500円のみどりガメ数匹で手を打つつもりでしたが、人生は思い通りに転がってはいけません。

【黒いダイヤ入荷しました!】の立派な宣伝の旗が目に見え込んできました。そこには、まさに黒光りのヒラタクワガタのペア（オス70mm & 45mm）! 子供たちの目はキラッキラ、私の目は値札にくぎ付け——15000円!?

ママさんは目で「ダメよダメ!」のサイン。

駐車場に向かう最中、子供たちのシクシク泣きに背中を押され、ついつい私はひとり屋上へ引き返して……買っちゃいました。

帰宅後、子供たちと一緒に図鑑や絵本を見よう見まねでプラスチック・ケースにまずオガクズを敷いて、隠れ木を置き、ルンルンでヒラクワガタのマイホーム作り。

ところが、こちらが見たい時に限って、ヒラタくんたちは隠れて姿を見せません。

子供たちがケースをじーっと覗く姿がなんとも微笑ましかったのを覚えています。

そんな風情もヒラタくんたちが半冬眠に入った10月頃にはすっかり見られなくなり……子供たちはあつという間に飽きた!? やっぱりオモチャと同じだったのですね。

ところが、ところがなんです。晩秋の頃、ふとブラ・ケースを下から覗いてみると、モゾモゾ動く「イモムシのようなもの」が数匹。えっ何!? 幼虫!? 産卵木は入れていなかったのに……おそらく隠れ木の中に産んでいたようです。

これがビギナーズ・ラックというやつでしょうか。私は勿論大興奮!

でも子供たちの反応は……「ふーん」。えっ、そう

なの!? ガックリ!

思い返せば、小学生の頃——市島町岡本の奥深くにある、仲間たちだけで他には誰にも教えていない「秘密のクヌギの木」がありました。スズメバチに気をつけながら、ドツと木を蹴ると、「バサッ!?」という音とともにノコギリやミヤマ、ヒラタなどのクワガタたちが落ちてきます。

あの瞬間のワクワクとドキドキは、今も鮮明に覚えています。当時は採ったクワガタをただ虫カゴに入れて、「おー!生きてるー!」と喜んで、一夏の短い命を見送るだけ、越冬とか繁殖とかなんて、考えたこともありませんでした。

さて秋も深まり、子供たちの興味が薄れていく中、なぜか私のクワガタ熱は再燃しました。いつしかブラ・ケースは父親の「管理下」に置かれることになりました。

翌1997年にはカブトムシやノコギリ、ミヤマにも手を出しましたが、結局越冬できず。そこで「冬を越えてもっと長生きする種類を求めたい!」と辿り着

いたのが――

1998年、渋谷・東急百貨店本店屋上のペットシヨップで、初めて購入した16000円のオオクワガタのペア（オス60mm、メス40mm）でした。

それまでに何回か訪れて、その度に、昆虫に2万円かよーと怯んでいたのですが、ある時に、特価の文字（16000円へ値下げ！）に釘付けになり、ついに決断したのです。

このペア（大阪能勢産）が我が家の「オオクワガタのルーツ」となりました。

そして2000年のことですが、なんと週刊誌に『オオクワガタ1000万円』の記事が掲載され、ビックリ！。販売店は池袋の「ワクワ克蘭ド」という昆虫専門店でした。

興味本位で訪れて、親しくなった店長から「買い手は埼玉の若手ベンチャー社長で、富山産天然のオス80mmで、標本用!?に購入された」という話を聞きました。それ以来、週末にワクワクしながら通い、オオクワの奥深さや楽しみを学びました。その後、海外産の巨

大ヒラタクワガタも飼育し、産卵にも成功。100mm級も誕生しましたが、サイズが大きすぎて羽化不全が多く、しかも短命で、楽しみに至らずです。

やはりオオクワガタのような用心深さによる長寿とその育て甲斐にはかきません。結局、こうして、私は「オオクワ一筋」となっていき、その後はブリーディングにどっぷりハマり、毎年新しい世代を紡ぎ続けることが出来て、今年で27代目に至ります。中でも最も長生きしたオスの個体は成虫で4回越冬しました（交尾はさせず）。最大はオスが77mm、メスが52mmです。

2016年7月下旬に、私の勤務先で「ファミリィ・デイ」というイベントが開催されることになりました。社員のご家族を職場に招いて相互理解と親睦を深めるための企画ですが、その中の子供向け企画でジャンケン大会の景品としてオオクワガタ成虫のペア数セット（ブラ・ケースと共に）を私が提供することになりました。

子供たちやご家族が戸惑い少なく楽しめるように、飼育の解説手引きと図鑑を添えたいと思い、それまで

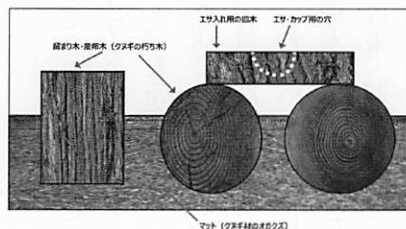
オオクワガタ 物語

不思議な生態 と 飼育の楽しみ



2016年度版 (監修 K.Y : 図解/編集 Y.M)

クワガタ・ハウス 【プラスチックケース内の断面図のイメージ】



日本 オオクワガタ

日本は本州・九州・四国の上に琉球列島にも生息する。日本固有種。クワガタで、
卵 → 幼虫 (一部二回) → 蛹 → 成虫 と変化する。完全変態型。の甲虫類です。



オオクワガタは梅雨時期から初夏にかけて蛹 (さなぎ) から羽化して成虫となります。
その生態は飛行で、とても勇猛で、初めに蛹は枯れ木の中心部やクワガタの中心部に潜り込み、半角程度の状態で
居ります。カブトシなどとは異なり、初めに蛹は枯れ木の中心部やクワガタの中心部に潜り込み、半角程度の状態で
居ります。人間に発見され、成虫は大人と現れて驚かすのでそれ以上大膽になることなく、子供時代に習得する
幼虫の段階で知ることになるか、それが フリーデング (飼育・観察) の楽しみの一つです。

に少しずつ書き溜めていた記録やメモ、そして生態の様子を捉えた写真などを纏め直して作ったものが「オオクワ物語」(全16ページ)です。

I T リテラシーの高いオオクワ一弟子に作成サポートしてもらった自信作です。ご希望の方にはPDFでご提供できますので、「山ざる」編集部 (yamazaru.hensyubu@gmail.com) まじゅう連絡ください。

丹波出身の皆さんにとっても、ふるさとの雑木林やあの虫取りの懐かしい日々を思い出すきっかけになれば幸いです。

(市島町出身、柏原高校1976年卒。一橋大学を経て、野村證券に入社、現在は無職、無所属でMLB大谷にハマる)

私の趣味 囲碁談義

豊島 昭 男 (川崎市)



私は、若い頃に囲碁を覚え、一時は週2〜3回のペースで碁会所に通う生活を送っていた。しかし、最近

は碁会所も極端に少なくなり、近所の碁会所もなくなったこともあり、今では、もっぱらパソコンの前に座り、ネットでの対戦を楽しんでいる。

これまで、勝負事として、将棋や麻雀等も遊びとしてやってきましたが、いつの間にか興味も薄れ、今ではほとんどやらなくなった。しかし、囲碁に関して言えば、始めてから50年以上もたつのに飽きることもなく、むしろ、囲碁の深さの魅力に取りつかれている。

私が囲碁を始めた動機は、若かりし頃、仕事上で知り合った韓国の友人の影響である。彼が私の勤務会社（富士通）に出張で来日した時に、我が家に招待し、その会話の中でたまたま彼の囲碁談義を聞いた。

自称5段格の腕前の彼が曰く

・ 囲碁は、人間の能力の限界を見せつけてくれる最良のゲームである

・ 囲碁は、ある面では人生の縮図のようにも思える

・ 打てば打つほど、思考の範囲が益々広がっていくゲームである

囲碁をほとんど知らない私にとって、この話を聞いてももちろんピンとこず、彼の境地に入り込むすべはなかった。

しかし、彼の性格と詳細な囲碁談義を聞くにつれ、何となく囲碁ゲームの雰囲気を感じることができた。彼の話を聞いてから、好奇心も手伝ってか私も囲碁の勉強を始めた。最初の一年ほどは、市販の囲碁雑誌や書籍類を読みあさった。

半年後ぐらい経つと、碁会所にも通い始め、実践と勉強に明け暮れる日々が続いた。徐々に囲碁の棋力も上がり、友人の言わんとしたことも実感できるようになった。囲碁大会等にも参加し、それなりの結果を得るようになったが、現在は、もっぱらネットでの囲碁対局を楽しんでいる。

次に囲碁の特徴と魅力について少々触れてみたいと思う。囲碁のルールは、きわめて単純である。一般の碁盤は、縦19×横19の361の点の集合で構成されている。二人の対局者は、黒石か白石を碁盤上の空いている点に交互に打っていき、自分の石で囲んだ領域（地と言う）の大小で勝負を競うゲームである。

盤上のどの場所に石を打つかは、空いている点であれば対局者の自由である。ルール上の制約条件としても、禁止手等で4つの規定が定められているだけである。

碁盤上の黒石と白石で展開される模様（パターン）の数は、いったいどれくらいの数におよぶのかを詮索してみたい。前提条件として、結果として同じ模様であっても手順が違えば別パターンとして数えるとした場合、19×19の碁盤上では、その総数は10の760乗以上の数となる。

この数が、下記の二つの事象と比較すれば、如何に途方もない数であるかがお分かり頂けると思う。

① 人間の体を構成している細胞の数は40兆個程度

と言われており、この数は4×10の13乗に過ぎない。

② 日本語で数字の位を表す語は、一、十、百、千、万、億、兆、京、亥……と続き、無量大数で終わるが無量大数でも10の88乗である。

囲碁の面白さと難しさは、模様の種類の多様さに起因するといっても過言ではない。10の760乗という天文学的世界は、人間の能力の限界をはるかに超えたものであり、読みだけで碁を打とうとしても無理なのは明白である。囲碁の場合、同じ相手と何度打つても同じ形にならないのも面白い現象である。

将棋は読み、囲碁は広さを追求するゲームと言われるが、前者は読みの深さが重視されるが、後者は読みと直感が同等レベルで要求されるように思える。一流プロの話の中でも囲碁は“非常に奥が深い”という言葉がよく聞かれるが、これも囲碁の広さのなせる結果でしょう。

囲碁を打っていて興味深い、もう一つの現象としては、対局者の性格が勝負の途中に表れることだと思う。盤上に打たれた一つ一つの石は点の集まりだが、それを線として見た時、初めて碁としての意味が生まれ

る。対局者は、盤上で、既に打たれている石とこれから打とうとしている石との間をどのような線で繋げていくかを想定しながら対局を進める。しかも碁の場合、無限ともいえる線の中から自分の好みの線を選んでいくため、その選択は対局者の棋力とは別に個性に依存する部分が多いのも碁の特徴と考える。

・相手の打った石にあまり捉われず、自分独自の道を進む人

・喧嘩好きで、力碁で押し通す人

・接近戦での戦いを好まず、おとなしく堅実な碁を打つ人

・常識的な手を嫌い、自由奔放に振舞う人

・攻めと守りにバランスの取れた人

確かに、人は様々であり、囲碁は、盤上にその性格が現れることで、その楽しみを倍加してくれているようだ。

(氷上町出身、柏原高校1963年卒業。福井大学工学部から大阪市立大学理学研究科修士課程修了、1969年に富士通入社)

医薬品業界の約40年を振り返って／今も継続中／

大河 洋介 (目黒区)



私は高校を卒業するまで柏原で過ごし、大学は東京の星薬科大学に進学しました。あの頃は東京で生活してみたいという気持ちが高く、自分としては良い結果になったと思っておりました。大学卒業後は何とか薬剤師国家試験に合格し、薬剤師資格を取得して就職いたしました。

当時、薬科大学卒業後の就職先は大きく分けて、医療機関の薬剤師、製薬企業に入って新薬の研究・開発関係、もしくは医療用医薬品の営業(MR: Medical Representatives/医薬情報担当者)の3つでした。その中で、私はMRとして協和発酵工業株式会社という製薬会社に入社しました。MRというのは基本的に営業職であり、自社の医薬品の情報提供や有害事象(い

わゆる副作用です）等の情報収集を行うと同時に、自社医薬品を普及させる事が重要な仕事でした。

その後、医薬業界も大きく再編される時代となり、当社も2008年にキリンホールディングス（キリンビールの持ち株会社）の製薬部門であるキリンファーマと合併して協和キリン（株）という会社になり、キリンホールディングスの製薬関連会社となりました（毎日飲んでいるビールは、今もキリンビールです）。

在職中はMR↓営業所長↓企画推進部長として現場の業務を行った後、54歳の時に本社のCSR推進部という部署に異動し、コンプライアンス関係の責任者として会社全体をみる統括的な業務を行いました。その後、会社の規定により57歳で役職定年となり、部下を持たないマネージャーとして札幌支店と名古屋支店でMRにコンプライアンスを指導する業務に従事し、2022年3月に定年退職した次第です。

勤務した38年の中で、企業人にとって宿命の転動も多く経験しました。特に、管理職になってからの22年は殆どが単身赴任でした。その中で、札幌勤務時代には柏原高校で同級生だった友人2人が転勤で札幌在住

だったので、3人で飲む機会がありました。丹波の同級生が札幌で飲んでいる事が不思議な気持ちだったのを今も覚えています（私が札幌から名古屋へ転勤して直ぐに、近藤君が札幌に転勤で来られ、同じような交流があったようです）。

会社には転勤で多くの場所を経験させていただきました、見識が広くなつたと感謝しています。今も会社の後輩には「一度の人生、いろんな所で生活する事は悪くない。会社の命令がなかったらできない事だから」と話しています。

協和キリン（株）退職後は、「せっかく薬剤師免許を持っているのだから、最後は本来の薬剤師の仕事をしてみたい」「実際に患者さんに接する仕事をしてみたい」と思うようになり、調剤薬局勤務を目指してハローワークに通いました。が全くダメでした。後で人から聞いた話によると「企業に勤めて定年になった薬剤師は実際の薬の扱い方を知らず、また、それなりの役職に就いていた年配者が多い。その為、若い薬剤師の先生と人間関係が上手くいかないケースが多く、経験者が優先される」と聞きました。そう言われればそ

うかなと自分なりには納得した次第です。

就職が決まらずブラブラしている時に、協和キリン（株）を退職して医療機器メーカーのニプロ（株）に勤めている元部下とお酒を飲む機会がありました。その時は「また飲みましょう」で別れたのですが、1ヶ月位経った頃に電話がかかってきて「当社で再生医療の新規事業を立ち上げます。その為、医薬業界の営業を知っている人を探しています。興味ないですか？」「大河さんは企業で働く方が向いていると思いますよ」と言われました。できれば企業から離れた仕事をしたいと思っていたましたが、周囲にも相談したところ「いい話だと思うよ」「オマエには向いているよ」というのが大半で「Yes」の判断をしました。その後は、役員面接等を経てトントン拍子に話が進み、2022年9月からニプロ（株）の再生医療事業部営業アドバイザーの参与として再就職し、現在も同社に勤務しています。

入社してみると、医療用医薬品と再生医療等製品は色々な面で大きく異なる事、また、会社の文化の違いというものを痛感しました。60歳定年退職者の再就職

としては厳しいなと思っていました。

また、当初はアドバイザー的な業務という事で入社し、1年間は大阪の本社勤めでしたが（単身赴任でした）、2年目には東日本の責任者に就いて欲しいと言われ、現在は北海道も含めた関東以北のエリアで活動しています。拠点は東京で自宅通勤ですが、出張が多く、老骨に鞭を打って活動しているというのが現状です。

ここで再生医療について概略を少し説明しておきます。当社の再生医療は「外傷性の脊髄損傷に対する治療」です。交通事故やスポーツ外傷によって脊髄に障害を受けると、歩行ができなくなる等、多くの神経性障害が出現します。そこで、患者の脊髄液と大量の血液を採取して当社の工場に搬送し、血液中の血清を培地にして骨髄液中の間葉系幹細胞（神経等の幹となる細胞）培養し、患者さんに投与する（戻す）ことによって、神経を再生させるという治療です。それによって歩行できなかった患者さんが歩けるようになるという効果が多く報告されており、NHKでも報道されたことがあります。患者さんにとっては朗報といえる治

療法ですが、現時点では仮承認の状況であり、本承認に向けて活動しているところです。

取り留めもない内容の文章になってしまい申し訳ありません。以上、柏原を出てから現在までの会社人生を記載しました。

大学卒業後は医薬業界に身を置き、定年後も同じ業界に身を置いて仕事をしております。新規事業ということもあり、メンバーは殆どが20代です。娘よりも若い世代で、昭和生まれの小生には考え方が理解できないことも多々あります。ただ、この年になって再生医療という新しい分野と接することができ、また、自分の子供より若いメンバーと仕事ができる環境は恵まれていると思っております。

(柏原町出身、柏原高校1980年卒)



撮影・岡 吉明

私の職場

グラフィックデザイナー 株式会社 Peg 代表取締役

松本祥一



会社のロゴ「Peg」と

はじまりは、
「ジャケ買い」。

私の職業はグラフィックデザイナー。グラフィックデザインとは平面のデザインをする仕事で、具体的にはタレントなどを起用したポスターや電車の中吊り、ビルの看板、みなさんの身の回りにあるお菓子や飲料・化粧品などのパッケージ、そして企業やブランド・商品のロゴなどを幅広く手がける職業だ。

2年前に、前の職場のチームで「Peg」という会社を立ち上げた。社名の由来は「テントを押さえるペグのように大切なものをしっかり支えるデザインをすること。人、ブランド、企業に寄りそうこと」。現在は私を含め6人の小さな会社で、主に大手広告代理店からの仕事がメイン。最近は飲料のパッケージデザインに携わることが多い。

私はもともと理系の勉強をしていた。ただ正直それほど興味がなく、将来のビジョンも見えなかった。学生時代、好きなことはギターとレコードコレクションだった。毎週通っていたレコード屋が新宿にあった。そこに置かれていたのは限定版で数十万円するレコードや有名なバンドの海賊版、そのバンドの無名時代のもの、バンドリーダーの弟が在籍していたバンドのもの……辿っていきばキリがない。

今みたいに情報がなかなか手に入

らない時代なので、店員から少しづつ情報を仕入れた。膨大な数のレコードのなかから目当てを探すのは楽しく、丸一日お店にすることもあった。とくに目当てのレコードがないときは気に入ったジャケットで買っていた。いわゆる「ジャケ買い」だ。誰のアルバムかわからないけれど、ただただジャケットがカッコいいから買ってみる。アルバムの情報は買ったあとから調べればいい。曲を聴くとアタリもあつたが、だいたい退屈で音質もひどいのが多かった。最後は曲すら聴かなくなっていた。

理系の勉強がどうしようもなく退屈でそろそろ将来を考え始めたとき、レコードやCDなどのデザインをしたいとなんとなく思った。もともと絵が得意だったこともありデザイン学校への進学を決めた。半導体よりデザインの勉強のほうが私には楽しく、寝る時間も惜しんで絵を描いた。デザイン学校を卒業して、いくつか



制作した商品パッケージとレコードコレクション

のデザイン事務所やプロダクションに勤めてたくさん経験を積んだ。

私がデザイナーを始めた時代は、パソコンでデザインするのではなくすべて手作業だった。文字も写植屋さんに書体や級数を指示し、印画紙に焼いてもらったものを切り貼りし、版下（印刷する前の台紙）を作成する気の遠くなる作業を毎日続けた。写植屋さんは職人気質で、指示を聞

違えるとにかく怖かった。当時のデザイン業界は残業という概念があまりなく、またデザイナーも明確な終わりがないもので、自分が納得するまで会社に泊まって仕事をした（今の時代なら大問題）。

パッケージなどのデザイン制作は個人プレイだが、広告制作はチームプレイだ。商品の特性をどうアピールするかをコピーライターとアイデアを出しあい、ビジュアルとキャッチコピーのバランスをプレゼン直前まで詰める作業だ。一瞬で कोरोをつかみ、コピーを読ませ商品特性を理解してもらわねばならない。商品の本質をユーモアを交えてわかりやすく表現する作業は、コピーライターと言いたい喧嘩になることが多いかった。そして見た目だけではないデザインの奥深い所も大切だと学んだ。

始まりはレコードジャケットのデザインをするのが目標だったが、お

菓子や飲料のパッケージをデザインしてみると案外楽しい。またそれが売れて、みんなが知る商品になると、やりがいを感じるようになった。

お客様が求める方向のデザインを、少し幅を持たせて作る。「5案ほどください」と言われたら結果的に8案になったり10案になったりするものもある。それらを整理してプレゼンする。そこからいくつか絞ってもらい最終的には1案になり、お客様と詰めていく。

ジャケットもパッケージも、中身に興味を持ってもらうためのフックという点では考え方が似ている。店頭で数ある商品のなかから欲しい物を選ぶ感覚は「ジャケット買い」に通ずるものがあると思う。商業デザインとは、お客様の意図を理解し、商品の魅力を伝えたい人に的確に伝える仕事なのだと思うようになっていった。

商業デザインのおかげで趣味も見



自作のルアーで釣り上げた桜鱒（洞爺湖）

つけた。20代の頃に大手釣具メーカーの広告を担当してから釣りにハマった。撮影でいろんな場所に行きさまざまな釣りを経験した。一番好きなのは湖で大型マスを狙うルアーフィッシング。市販のルアーでは満足できなくなり、15年前からルアー製作を始めて今では販売もしている。今年が私が主催する釣り大会があり、たくさんの方々が集まってくれた。ルアー製作で心掛けているのは「人が釣れるルアー」。人を釣らない

と使ってもらえないから魚も釣れない。ルアーの動きが完璧でも、デザインに魅力がないとそもそも活躍の場が与えられない。結局ここでもデザインの話になってしまう……。

私たちの仕事は美容師や料理人に近い。みんなそれぞれ得意なデザインがあり、デザイン会社は腕のいいデザイナーで成り立っている。その優秀なデザイナーがいなくなるとお客さんも一緒にいなくなることが多く、「お仕事ください」と営業をかけたところで仕事が来るものではない。

そして時代の流れは早く、デザインの仕事も常に変化している。昔はポスター、雑誌、新聞など紙媒体が中心だったが、今ではサイネージやパソコン、スマートフォンなどデジタル媒体が中心。憧れたレコードやCDのジャケットデザインはほぼ存在しない時代になった。また仕事相手も若くなり、自らデザインをする

より吸収が早くトレンドに敏感な若手を育てて仕事の幅を広げたいと思っている。

今後は故郷の丹波などのローカル企業の商品などあまり知られていないものをデザインのチカラでより多くの人に魅力を伝えていきたい。決して景気は良くないが、まだまだデザインの可能性はあると思っている。

デザインの世界にどっぷり浸かってきたが、僕は何も変わっていないと思う。カッコいいだけで買ってしまう、大学生の頃にハマった「ジャケ買い」。そんな衝動に駆られるモノが、今でもいちばん好きだから（1989年柏原高校卒業、春日町出身）

株式会社ペグ (Peg Inc.)



東大で3本の 「新しい旗」を掲げる

山でる 群像



左から平田岳史さん、コスタンティーニ・ヒロコさん、八木信行さん。
東大本郷キャンパスの「三郎池」で。

日本国中の秀才が目指す「東京大学」で、彼らを教える立場にある約4千人の教員のうち3人もが、現在同時期に柏原高校卒業生である。毎年何人も東大に入る高校ならあり得る話かもしれないが、その高確率に驚く。「このまれな現象は何故？」と3人に聞いてみると、次のように答えが返ってきた。

八木信行さん（大学院農学生命科学研究科教授、柏原高校1980年卒）は「振り返るに、人生は巡り合わせで、たまたま、とも言えますね。ただ、学生たちを見ていると、難関校からの一部の超秀才と、都会の2番手校からの受験秀才、私たちのような田舎の高校から来た伸びしろのある学生との3層に分かれるかなあ」と解説。つまりエリートコースではなく、紆余曲折の後に現在があるらしい。自身は「これはヤバイ。もっと真剣に勉強しなければ外国に負ける」と思っ猛勉強したのは、前職の農林水産省から米国ペンシルバニア大学院へ留学した30代初めのことだそう。

平田岳史さん（大学院理学系研究科教授、柏原高校1981年卒）は、「僕は入学した東京理科大が補欠合格だったので、これはヤバイと思って無茶苦茶勉強

しました」。卒業後は東大大学院に進学し、修士号・博士号を取得し、東工大、京大の教員を歴任。2016年に東大教授となった。やはり英国サザンプトン大学院で1年間を過ごした33才の時を振り返り、「心が柔軟でなんでも吸収できる勢いのある若者になっていた。丹波でのんびりとした雰囲気ですくすく育ったことがよかったと思う」と留学体験が財産になったことを語る。

コスタンティニ・ヒロコさん（大学院農学生命科学研究科准教授、柏原高校1989年卒、28ページ参照）は、テレビ局のアナウンサーとして働いていた27歳の時、「もつと世界を知りたい、という熱い想いに突き動かされ、ハーバード大学を目指して猛勉強しました」。同大学で留学生仲間の子供を育てながら「アオガエルのように」世界を渡り歩き、2022年に東大へ。幼少の頃テレビ番組で夢中になった「兼高かおる世界の旅」に惹きつけられた。結婚時には「このまま日本を離れてもいい、と思っていました」。

こんな話を聞きながら、筆者は急に思い出したことがある。お付き合いのある中国の難関大学・清華大の

教授が「北京出身の学生は入学後には伸び切ったゴムのよう。ところが地方の学生はいずれ潜在能力を発揮する。メンタルが強いのか」と話していたこと。日々の生活体験を通じて雑多な能力が蓄えられて、いずれ顕在するということなのだろうか。3人には丹波の野山を駆け巡った幼少期があったに違いない。

「フサコ先生はご健在ですか」と、雑談の中でヒロコさんが八木さんに話しかけられた。八木さんのご母堂はヒロコさんの崇広小学校の恩師。崇広小学校出身の平田さんはヒロコさんのお姉さんと同級生。ついであら、筆者もフサコ先生から氷上中学校で国語を習った。まるでご近所さんの人間模様のようなだった。

3人は現職について口をそろえて、「若い学生たちと接するのが楽しい。自分でだれもやっていない研究分野で新しい旗を立てることができる魅力的な職業です」と言う。デカンショ節の「山家のサルが花のお江戸で芝居する」の一節が浮かんだ。3人に共通する資質は「たまたまのチャンスに捨て身で挑む根性もち」だと思ふ。

（上高子）

俳壇……………

歳を取るとはこういうことかと、毎日気づかされていくこのごろです。

坂上 勝朗（板橋区）

冬草も枯れずロシアの戦止まず

年忘れ年ごとに減る頭数

梅咲けり千葉一族の城の跡

田植機の農婦一人に雨注ぐ

植ゑられし早苗は首まで水貰ふ

はなたれの児は誰も居ず夏祭

※

小生の趣味は囲碁です。古来遊びの中で、尤もすぐれた遊びは囲碁であると、中国の随筆『五雜俎』に記されています。生涯この深奥幽玄なる世界を追求し、その面白さを堪能して止みません。

坂上 豊（千葉市）

子等去んで正月三日過ぎにけり

旭日や成人の日の健やかさ

新緑や小雨の注ぐ朝の庭

貝塚の縄文遺跡柿若葉

遠く近く童謡奏で灯油売り

※

友達がみんな彼方へ行ってしまった。

上田 道代（大田区）

逝く人の窓辺に夕陽血の色の

死化粧やはり美人だったね

梅雨入りや家族葬のひっそりと

菊そえて、じゃあ皆によろしく！

※

劇場も水掛け不動も今井にも

ひとり行く身の如何に寂しき

※

この所の気温の上下に体がついていきません。何を着ていいのか、毎日とまどっております。八十歳になり俳句もやめておりますが、私の句で

もよければ、とポストまで歩きました。

島津 和子（人間部）

薫風やラジオ体操一、二、三
蔓の先追っかけっこ天道虫

堀の上Vサインだすでんでむし

娑羅の花古里丹波墓じまい

まといつく妣の化身か梅雨の蝶

歌壇……………

新緑の美しい季節となりました。徒然として暮らしている私、老いたとて希望を持って前進せよと励まされているようです。

白寿がすぐそこまで……老いに負けじと思いますが、世界中変遷めまぐるしくあらゆることについていけません。新聞を読みましても理解できない面ばかりが増えてきました。それにしても、世の中どうして平和になれないのでしょうかね。

中西 節子（丹波市）

朝焼けにピンクの雲が流れゆく優しく一日我も生きなん

ふと見上げると朝のひととき、流れるピンクの雲の色。私も優しくひと日を生きたいと思った。

名も財も成さずに生きし我なれど清貧の暮らし満ち足りてあり

何ひとつ成し遂げることなく生きてきたけれど、

誠実で潔白な生き様であったと満足している。

人知れず山間に咲く白梅に老いゆく我を重ねてぞ観ん

華やぎはなけれど、また人に接することも少ない、

それでも凛然と咲く白梅。私もそうありたい。

唇に歌 手にはペン持ち三十年心の襞に華の咲くやも

歌は下手でも大好き。人生の千千を見聞し四季を

愛で、その想いを短歌に託したい。

百歳の峰目指してぞいざゆかん阻む山野をさへあ乗り越えて

大正・昭和・平成・令和と生を頂いてきた私。感

謝の心を忘れないよう気概をもって歩いてゆこう。

※

先頃、同居の長男と三女の三人で東武動物公園へ行った。大人だけで動物園は照れ臭いが、考えれば九十二歳これが最後の動物園になるかも知れないと行く気になり三人で入場した。

観覧車はゆっくり廻り始めた。遠くに霞む富士山を眺めながら、故郷丹波を想ったり、古利根の春日部に住む日々を思った。

足立 美都子（春日部市）

音も無く降り続く雨に庭隅のおにゆり重く花垂れており

庭隅に伸びしおにゆり何時の間につぼみつけたか気付かず居たり

三年前の正月用の百合根とか 娘がうめたるしなびた根っこ

庭隅に三年がかりで根を張って見事に咲いた五輪の鬼百合

携帯の待ち受け画面に収めたり時折ながめる
楽しみとして

古利根の川に群れなすゆりかもめ海無し県の
春日部の地に

※

庭の豊後梅ぶんごのオレンジ色の落ち梅、ヘルパーさんがひろってくれ小瓶2この最後のジャムが出来ました。

テレビで放映中の「あんぱん」で私のあの時代を思い出しました。早生まれの5歳4か月で荻窪小学校に入学した私は、お年を召した男の先生にほつたを叩かれ、何が何だか解らないまま未だに心に残っています。物判かりの悪い軍国少女らしくない子どもだったのでしょうか。1年上の姉はとても利巧でしっかりしていたのですが、ハルピンの日本人国民学校で女の先生からひどく理不尽ないじめにあっていたそうです。

もともととひといい目にあっている世界中の子どもたちに届きますように。

木呂子 惠美子（清瀬市）

ただ祈る世界の子等に平穩^{へいぜん}を食べもの住み家^{すみか}
心の平和を

※

年齢を重ねるにつれ行動範囲も狭くなり、近場での楽しみに限定されますが、感謝しながらこれまでより一層丁寧に生活するようになってきました。毎朝、小学生を送り出すスクールガードをさせて頂き子供達からパワーを貰ったりしています。

山本 述子（三浦市）

桜の道一年生を庇ひつつ登校の列ゆるり進みぬ

静かなる銀杏並木に日の差して黄の葉のジュウタン踏みしめ歩む

波静か白きタンカーすべりをり湾入口の浦賀水道

童謡と昭和歌謡の発表会場内一体大合唱に
山清水青竹の樋を通り抜け池に流るる音清清し
(長谷寺)

富士の山今年の雪は深深と一際白く冬空に映ゆ

※

子ども達に老後の負担をかけないようにと努めてきましたが、まさか子の命にかかわる心配をすることになるとは……半年近くただうろたえる日々でした。

田中 一美（八王子市）

膀胱の全摘息子より告げらるるひたすらムカ
ゴ里山に摘む

命だけは助けてください神仏に手合わす日々の心もとなし

どんな手を使っても生きぬくからと息子は
告げ来師走を前に

初春に十二時間の手術終え転移なしとの知らせありたり

よく喋りよく食べ吞みて久しぶり返りし日常のまぶしかりけり

※
元気で過ごしています。また会える日を楽しみにしています。

福田 治子（横浜市）
施設にてとられの身となりけりわが家へ
帰るも間近となるも

※

寒の一日を手前味噌作りに費やします。大豆は丹波の「錦白」を。麴は徳川幕府とともに江戸に出て来たという、400年続く湯島天神の三河屋で買います。もう隠居した店主の「塩はね、上等ほど味噌の味を尖らせて漬すので普通がいいよ」と禅問答のような言葉が妙に心に留まり、食塩を使います。

原谷 洋美（杉並区）
新豆と年経る豆の蒸し具合手触る固さは人のやうにも

寒仕込み手前味噌なり春夏を醸されゆくを癒しと思へば

蔵出しは柿の色づき初めし日の澄みたる秋を味噌に浴びせむ

柿色の油単の褪せたる五十年一年味噌の香はやさしく

塩蓋は今日降る雪の吉事なり味噌の仕込みもわが一里塚

「ご寄稿のお願い」

「峠見ゆ十一月のむなしさに」

丹波から但馬への国境の峠道・遠坂峠を見遣った細見綾子の代表句。

交通網やＩＴ手段の発達で、瞬時に峠を越えられる現代においても、誰にも心の峠はあろうかとおもいます。

皆様の峠越えを、ぜひ教え
て下さい。

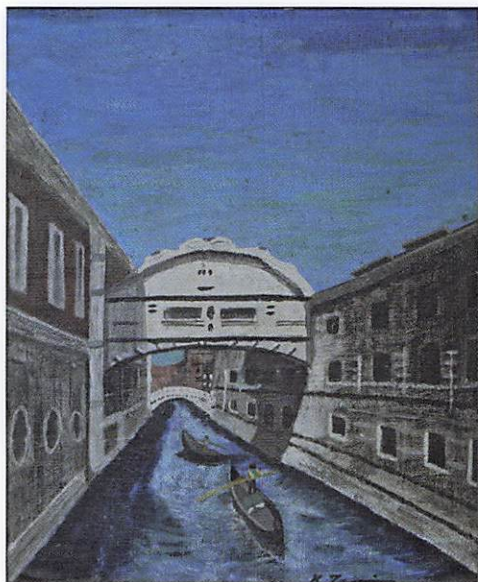
会費振込用紙の通信欄でも、総会返信集書の余白にでも、もちろん編集部宛でも大歓迎です。

丹波の底力が漲る文芸欄になりますように、投稿をお待ちしております。

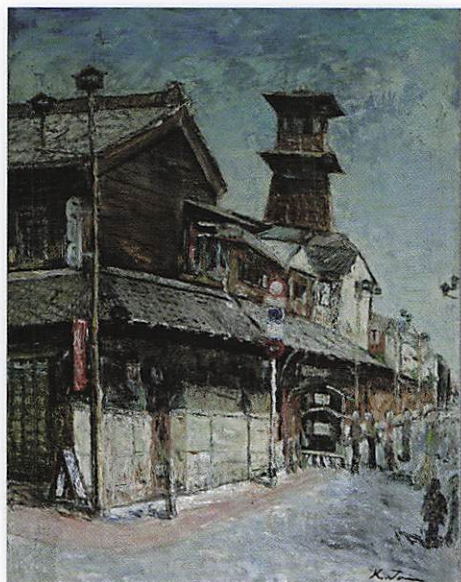
（山ざる編集部）

My Gallery

(故) 谷 敬三さん (柏原町 出身) 当会の監査や柏陵同窓会支部長等歴任



ベニスにて



時の鐘のある街



自画像



ゆり

50歳を境に絵画に興味を移す

平成12年、手術を含め20日間の入院、今後は、腰の痛みのない生活へと！今まで楽しんできたラグビーに代え、絵を描くことを思い浮かべた。地元の広報で、油絵の練習会が近所の集会所で行われていることを知り、早速の門を叩いた。形

に捉われずタッチを利かし、子供が描くような絵を描けば良い、との指導は初心者には心地良かった。練習仲間とのグループ展や展覧会に出展することで自分を発表することへの楽しみが広がっていった。「山ざる」44号エッセイより

My Gallery

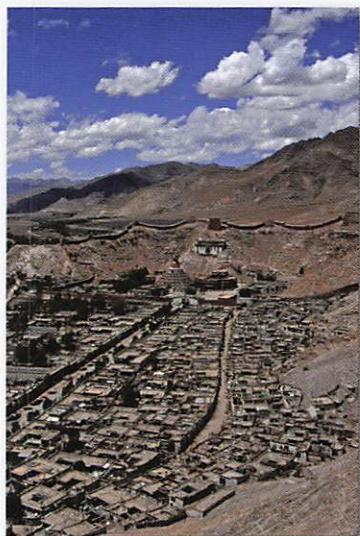
金川 和世さん（山南町 出身）



大北線を五体投地で行く巡礼たち



梅里雪山神女峰
：雲南省徳欽（デチェン）
カイラスと並ぶ聖山。
1991年日中共同登山隊が大量
遭難した山として知られている。



江孜（ギャンツェ）の街



マナサロワール湖（マパム・ユムツォ）

蔵出し写真と私の冒険譚

子育てを終えた頃2006年から2009年にかけて
4度中国チベット文化圏を旅しました。

河口慧海や天路の旅人・西川一三辿った道を。
旅したルートと懐かしい数枚の写真を引越しを
機に段ボールの中から久々に取り出しました。

丹波を撮る

文・写真：徳田八郎衛、撮影協力：和久靖之

(1)市島町旧美和村を往く①：「五大山」白毫寺



←昔の美和村の方々が生き返ったら
先ず驚かれるのは、兵庫50山に選ばれた五台山(654m)山麓を活用したキャンプ場の活気であろう。夏になると地元・与戸の人口を凌ぐ人数のキャンパーが光害のない星空を仰ぐ。



(1)市島町旧美和村を往く②：白毫寺の太鼓橋



←明智光秀の兵火で焼け落ちたが、早くも天正年間（1573年～1592年）に中興された。しかし明治維新後の廃仏毀釈で諸塔頭は荒廃し、現在の諸堂宇を残すのみとなった。



←幸いにも心字池に架かる太鼓橋は残っている。現世と仏界を結ぶ橋である。さや堂と呼ばれる覆銅板葺きの覆屋で覆われ、さや堂と共に元禄時代に建てられたものと推察されている。丹波市指定文化財である。

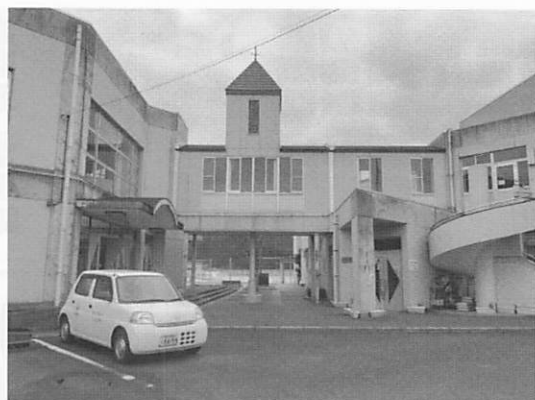


←チベットやブータンではお馴染みの摩尼車がある。これを回転させるだけで経文を唱えるのと同じ功德があるとされる。奥の薬師堂には秘仏の薬師瑠璃光如来が祭られている。赤松貞範の供養塔は県指定の文化財である。郷土史ファンなら一読したい黒井城主・斎藤内蔵助利三が発簡した感状も残されているが、何の指定も受けていない。

丹波を撮る

文・写真：徳田八郎衛、撮影協力②和久靖之

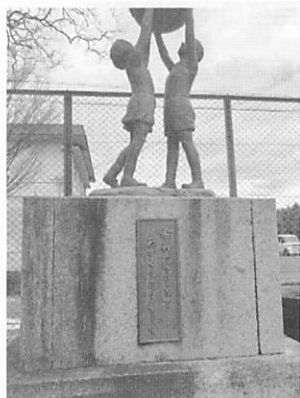
(1)市島町旧美和村を往く③：統廃合を迎える三輪小学校



←旧人類は戸惑うが、これが最新の三輪小学校である。戸坂村、白毫寺村、乙河内村、与戸村、酒梨村、勅使村、東勅使村の七か村が集まり「美和村」が誕生したのは明治22年（1889年）だが、三輪小学校は、「学制」発布の明治5年（1872年）に設立され、上記七か村から東勅使村を除いた六か村の組合立で発足している。



←大化の改新の翌年、里を改めて郷とした。律令時代には氷上郡に16郷があり、竹田郷、前山郷、加茂郷等と並んで美和郷が在った。荘園時代には三和庄となり、加茂庄（旧鴨庄村だけでなく吉見村および春日部村のうち小多利と池尾を含む）とともに京都・下賀茂神社の社領荘園であった。三和小学校とせず三輪小学校とした理由はよく判らない。



←戦前・戦後の正門位置を伝えてくれる「希望の像」。三輪小学校の統廃合でどうなるだろうか。二人の少年少女が地球を支える青銅像で礎石には「希望にもえてあかく逞しく」とだけ記されている。背後へ回ると「大東亜戦争のため供出した楠公像に代って之を建てた昭和四十五年三月 在東京 永井彰一郎」と寄贈者の想いが記されている。生家は学校の直ぐ近くなのだが、寄贈者の人物像は見えてこない。

文：徳田八郎衛、史料協力：①永井俱子②芦田繁昭

(1)市島町旧美和村を往く④：「希望の像」贈呈式

昭和四十五年四月八日
希望の像
除幕式



昭和45年（1970年）4月8日。寄贈者の永井彰一郎東大名誉教授を迎えて寄贈式・除幕式が行われた。前列椅子に左から三崎好雄校長、永井東大名誉教授、甥の永井壮一郎柏原高校教諭（後に第13代校長）、神官。後列は、来賓、三輪小学校教職員、永井家ご一族。なお、判明している当時の同校教職員は次の通りである。

校長：三崎好雄、教頭：竹安一幸、教諭：北山幸実・足立勇・近藤崇子・渡辺哲朗・山本みちゑ・荻野邁・芦田喜代子、主事：吉見与志郎、用務員：山川初江



←高学年児童の前で神官が除幕式。

丹波を撮る

文・写真：徳田八郎衛

(2)知られざる柏原①：小南山



柏原に住みながら「ワシそんなとこ、知らんわ」という人が多い場所2か所を紹介する。一つは柏原駅からよく見える小南山。相対高度100mそこそこの丘陵だが周辺の高山や上空がよく見える。戦時中は対空監視哨が設けられ、山小屋のような哨舎や退避壕も造られたが、「そんな物騒なものは無かったことにしよう」と取り払われてしまった。「丹波の山の中で監視して何にナッジャ」と酷評した人も居たらしいが、大阪湾へ侵入した敵機が福知山・舞鶴方向へ北上するのか、豊岡や敦賀の方へターンするのかを追尾するのは重要だった。

これは陸軍・中部軍の対空監視網には属さず、内務省・兵庫県の監視網に属し、現代用語の「民間防衛」の一環だった。委託された青年団員2名が二交代制で山に登り、電話は県庁に直結していたという。

近年建てられた展望写真台の側に4等三角点「小南山」がある。

丹波を撮る

文・写真：徳田八郎衛

(2)知られざる柏原②：丹波柏原教会墓地



柏原に100年近く住んできた旧友の中で、東奥の奥谷川上流にある、この墓地を知る人は一人も居なかった。筆者の高校の恩師も級友も眠っている。特急列車を逃がしたら、ここで1時間過ごす。「我らの国籍は天にあり」と記されている。



佐治と福知山を結ぶトンネル、2026年開通へ

青垣町中佐治と福知山市を結ぶ、国道429号榎峠トンネル（仮称）が貫通した。供用開始は2026年の予定。全長1092メートル。兵庫県工区と京都府工区は、ほぼ同じ500メートル余り。30年以上前からの悲願のトンネルだった。開通すれば、この区間の所要時間は約15分短縮される。丹波復興の一助となつてほしい。

丹波にもルートインホテルが誕生

全国的に展開するビジネスホテル「ルートイン」が丹波の氷上町市辺に誕生する。氷上インター近くで交通も至便。客室数188室。駐車場108台。鉄筋コンクリート造の地上6階建て。丹波にはいいホテルが少ないとお嘆き

の人たちも多かったので福音だろう。オープンは、榎峠トンネルと同時期の2026年の春。ホテル近くには氷上工業団地もあるし、全国高校女子硬式野球の会場もある。需要は見込めるという目論見である。ルートインにズーム・イン！

「たんば恐竜博物館」リニューアルオープン

改修工事を進めていた兵庫県丹波市山南町の「たんば恐竜博物館」（旧丹波竜化石工房）がリニューアルオープンした。化石の標本展示数、約2倍の300点ほどに倍増。丹波竜のレプリカの全身骨骼を中心とするのは「丹波のキセキ」コーナー。ここでは恐竜の卵化石、獣脚類、角竜類、爬虫類などの化石を展示している。また学習・交流スペースが新設されるのは嬉しい。

氷上町鴨内にもコウノトリ

コウノトリというと豊岡と言われそうだが、そうでもない。コウノトリ3羽が丹波に飛来した。3羽そろって鴨内の田んぼにくちばしを突っ込み、しきりにカエルをついばんでいたそう。夜は近くの電柱に止まっているのが目撃されており、営巣しているわけではなさそう。ぜひ氷上町にも幸せを運んで来てほしいな。

丹波に子グマ出現

イノシシには驚かないが、「丹波に熊」には驚く向きは多いに違いない。6月のある日、丹波市青垣町の稲土川堤防で、草むらに潜んでいたツキノワグマの幼獣2頭が見つかった。市農林振興課職員が捕まえ、山に放したことなきを得たが……。2頭とも30〜40センチほどの子グマだったそう。

お母さん熊はいつたいどこへ行ったのか？ 丹波に熊は驚くべア。

さよなら水分かれ桜祭り

丹波市水分かれ公園で30年以上親しまれてきた「水分れ桜まつり」だが、今年限りで幕を下ろす。主催団体の部員数の減少が原因だ。具体的な動きはないものの、今後、祭りを引き継いでくれるグループが現れることを期待したいフェス。

丹波でミュージカル

「関西MEBIGこどもミュージカル」による「His Story ヒストリー」が、7月12日丹波ゆめタウンポツブアップホールで上演された。石生にあるキリスト教会の日曜学校に通う子どもたちが中心。出演者のひとり田野昊雅さんは氷上中学3年生。輝け若きエンターテナー！

丹波から



撮影：徳田八郎衛 犬岡橋から下流を見る

唯一無二の朱印を丹波から世界へ

平 出 全 价 (丹波市青垣町)

20年かけて息を吹き返した禅刹



丹波鶏足禅寺は青垣町から朝来市山東町へと抜ける峠、遠阪峠の手前の村、遠阪今出村にある臨済宗妙心寺派の禅刹です。鶏足寺のほぼ隣に位置する熊野神社は無形文化財の「裸祭り」という奇祭で有名な由緒ある神社で、鶏足寺は明治時代の廃仏毀釈以前は熊野神社の神宮寺でした。廃仏毀釈以降、真言宗から臨済宗となつて現在に到りますが、戦後からは平成8年に私が住職として入寺するまでの間、住職の暮らしが成り立たないことを理由に無住の時期が長く続きました。

現在は現住職が更地から20年掛けて造りあげた庭「達磨西来庭」、住職個人の借金で新築した座禅堂兼住職の表現の場としてのアトリエ、屋根裏から発見され修復した摩利支天像など、布教活動には十分な環境を

新たに整え、檀家と住職の友人を繋げるジャズ飲み会、お説教の会、今回取材して頂く動機となった絵画による御朱印など、廃寺寸前であつた寺院が息を吹き返し始めています。ここで改めて、鶏足寺の歴史とその名前の由来について簡単に紹介致します。

インドの鶏足山を連想させた山並み

寺伝によると奈良朝の天平時代に行基菩薩が現在の境内地にあつた草庵で教典を写し、壺に納めて庵前の峰に埋め（その峯はその所以から現在も「経の尾」と呼ばれ、教典を入れた壺「須恵壺」は町の重要文化財として鶏足寺に保存されています）、病氣平癒のために祈祷したのが鶏足寺の発祥の所以とされています。鶏足寺の名前の由来は、鶏足寺から眺める山並みがインドの鶏足山を連想させたというのが諸説ある中で最も有力な説です。

インドのマガタ州にある鶏足山（グルパ山）とは釈尊の一番弟子である摩訶迦葉尊者が入滅した山で、摩訶迦葉は自身の入滅後も釈尊からの伝法時に授かった袈裟を着衣すること無く左腕に懸けて、釈尊滅後二十

六億七千萬年後衆生救済のため鶏足山に來迎するとされる弥勒菩薩にその袈裟を手渡すべく待ち続けていると伝えられる山の事です。

禅語にもその逸話から「鶏足守衣」「鶏足の遺風」



ペットも描く鶏足寺の御朱印

という語があり、「鶏足」は仏教徒、とりわけ禅宗では大事にされている言葉です。鎌倉時代の亀山天皇（1259～1273）に至って、奉祀した熊野権現が山を下って現在地（鶏足寺の隣）に移ったことを契機に真言宗の別当寺（神仏混合）となりました。

その別当寺が鶏足寺と名乗ったのは、明応9年（1500）に和州由良（現在の和歌山県）興国寺末裔の臨済宗の禅刹となつて霊地を讃えて以降のことで、その時山号も改め正眼山と定めたそうです。

延宝2年（1674）京都花園の妙心寺東海派の祖師仏徳広通国師を勧請開山として妙心寺派となり、現在に到ります。

巡礼の証「御朱印」が人気に

朱印とは神社やお寺を参拝した証として授与される「参拝の証明」です。朱印帳に朱印が押印され、そこに文字、日付、寺院名が添えられます。もともとは、写経を奉納した際に渡される「納経印」が起源とされ、巡礼の証として広まりました。

現代では、参拝の記念や、神仏とのご縁を記録する意味合いが強くなっているようです。朱印の人気はコロナ前後より特に脚光を浴び始め、人気に伴って朱印のスタイルも絵画やイラスト、切り絵等を添えた「アート御朱印」など、工夫を凝らしたものが登場してきました。そして多くの出版社が旅専門誌で御朱印巡りの特集を組むなどして一層朱印の知名度を上げたことに加え、SNSの浸透によって日本のみならず世界中にその魅力が伝えられるようになりました。

現住職は学生時代から絵画を通して様々な活動をし

てきたという経歴から、この御朱印ブームに乗ったというわけです。

朱印で住職の絵画を気軽に手に

現住職が僧堂（修行道場）での修行を一旦休憩して廃寺寸前、葬儀や法要が一年に数回ほどしかない鶏足寺に入寺したのは、元々生業にしたかった絵画の仕事、そして禅宗の説教師として広く活動することが目的でした。入寺後は説教を依頼されて講師として飛び回る中、兼務寺が三ヶ寺できたため多忙な法務に追い回されて、絵を描いて仕事するという願いは成就しませんでした。

しかしながら、20年ほど経って漸く兼務寺の復興も目処がつき始め、時間的余有ができたことで、改めて絵画と取り組むこと、そして大学院で絵画と社会の関わりについての研究に没頭することができるようになりました。

それ以降開催する個展では、自己発表の場としては満足でしたが、自身の画家としての価値、材料費やギャラリーとの兼ね合いもあり、作品が高額になる



ことは住職にとって解決したい問題点でした。

なぜなら、住職の絵画は誰でも気軽に手に取って、皆の暮らしに寄り添える民芸品のようなものであつてほしいという願いがあつたからです。そのためには、

作品ができる限りオリジナルの状態（コピーや印刷ではない）のまま手に入れやすい価格で取引されることが必要でした。そこで思いついたのが朱印です。朱印なら布教の一環ということで参拝者の気に入るように描いて住職唯一の作品を高くても数千円でお渡しすることができそうです。

参拝者の希望通りに鶏足寺の朱印

鶏足寺の朱印に添える絵画は、参拝者の希望（オーダー）通りに参拝者の目の前で描き、描きながら紙面に載せる禅語の解説や仏教法話をします。時には「空飛ぶ象と観音様」とか「ペットと仏」なんていうものもあります。禅の法話は対機説法といって、話すその場相手の状況に対応して自由自在に仏法を説くことが求められます。

また、臨済宗で行われる禅問答も、師匠の問いに対して修行者は素早く自身の境涯を吐露する必要があります。その点では、鶏足寺の朱印に添える絵画は、オーダーにすぐ対応し、禅語や詩歌を用いて対機説法するところは、まさに生きた禅問答であり、禅の説法と

いえるでしょう。住職も朱印において絵を描くことで
禅僧としての境涯が鍛えられるわけです。

唯一無二の朱印を日本中、世界中へ

現在住職は鶏足寺に加えて、氷上町香良の聖徳太子
開基円悟寺、同町南油良の瑞雲寺の住職として再興に
努めています。円悟寺は堂宇の改築も叶い、現在は遺
されている貴重な文化財的価値のある文献や書画を整
理しつつ、その価値を檀家さんや地域に広める活動に
務めています。どの寺院も住職が自活できるほど十分
な檀家はなく、現住職の不徳により後継者は今のとこ
ろおりませんが、「地域の歴史や文化の記憶装置」と
して何とか堂宇だけでも先の日本に遺してゆきたいと
願って活動しています。

朱印の活動においても、丹波の山奥の小さな山寺が
発行する唯一無二の朱印がSNSや様々な媒介を通し
て、日本中、世界中の人々の記憶に刻まれてゆくこと
が目的です。関東にお住まいの丹波をルーツとされる
皆さん、どうかまたは非丹波の山寺鶏足寺にお立ち寄
り下さい。

(昭和43年、京都市生まれ。神戸大学人間発達環境学研究
科前期課程修了(学術修士)、禅僧(臨済宗)、画家、社
会教育士。青垣町の鶏足寺住職、氷上町香良の円悟寺兼
務住職、南油良の瑞雲寺兼務住職、臨済宗大本山妙心寺
派布教師、兵庫県西宮市の大衆禅堂喝雲会主催。画家の
作品として、京都市の妙心寺塔頭金牛院内陣襖絵、京都
市の妙心寺塔頭長興院本堂十牛図屏風、宮城県の東園寺
玉虫塗り釈尊の生涯壁画下絵、丹波市の正覚寺本堂十牛
図襖絵など)

次世代に誇りを持てる “ぬぬぎ”を継承

打田 哲夫（丹波市）



丹波市氷上町と青垣町に広がる平地の多くはかつて沼地でした。その沼の中心は今の氷上町幸世地区「沼」地域です。「沼の水を抜く（貫く）」

地域であったと言われる沼貫地区で安全で安心な地域づくりを目指し、活動を続けています。沼貫地区の取り組みを紹介いたします。

1. 沼貫地区の概要

沼貫地区は丹波市の西南に位置し、東西が山に覆われ中央には一級河川の加古川が流れています。自然豊かな田園風景が広がり、加古川の左岸に国道175号線、右岸に県道109号線が南北に走っています。利便性や生活環境の良好な沼貫地域は、山の裾野に集落を形成し、9つの自治会から構成されています。

沼貫地区も人口減少・少子高齢化が急激に進むとともに、自然災害が多発甚大化、未曾有の災害の発生が危ぶまれています。ますます安全安心で住み良い地域づくりが求められます。

安全安心で生き活きた地域づくりや生活環境の向上を図るためには、地域コミュニティの役割が重要であり、住民一人ひとりが地域社会の一員として主体性を持ち地域に関わり柔軟性や創造性を活かした自主的な活動が不可欠です。そのためには地域づくりに参加する意識の向上と積極的な住民参加が望まれます。

2. 長期（10年間）の地域づくり計画について

沼貫地区では次世代に誇りを持てる地域を継承するために次のビジョンと活動スローガンを掲げ、地域づくり計画を実行しています。

【ビジョン】ここに住みたい「きらめくぬぬぎ」（小学校、子ども園と共有）

【活動スローガン】人が輝き、自然と文化の薫る、活気と安らぎのある心豊かな地域づくりをめざします

こうしたビジョン、活動スローガンを掲げ、（1）

自然・文化の調和と伝承(2) 高齢者の支え合いと子どもの健全育成という二本柱の地域づくり計画を策定し、展開しているところです。地域づくり計画について具体的にご説明いたします。

(1) 自然・文化の調和と伝承

① 沼貫ふるさとまつり

1973年から毎年8月第1土曜日に開催され、今年には記念すべき50回を迎えました(コロナ禍で2回中止)。地域の子どもたちからお年寄りまで皆さんが楽しみにされ、近隣の地域からも丹波の夏の風物詩として称賛を頂いて



ます。丹波市・丹波篠山市では一番大きな花火を「豪華絢爛」に打ち上げ、舞台や夜店では地域の皆さんや団体、子どもたちが創意工夫を凝ら

した企画や楽しい手づくりイベントを展開しています。50回を迎えた今年は「第50回 受け継ぐ伝統輝く未来の夏まつり」をテーマに開催。これまでの先輩諸氏のご努力を継承し、地域の絆と連携を図り、力と情熱を結集しました。地域の皆さんが一堂に会し親睦や連帯感を深めるとともに、地域出身者の帰郷や市外からの来場者を呼び込み、流動人口、関係人口の拡大を図り、活性化を目指しました。

② ぬぬぎよさこい一心貫

2013年に沼貫地域の子どもから大人まで60名の有志で地域の活性化と連携を図るために設立しました。現在は地域外からも多くのメンバーが参加。週2回小学校のグラウンドや体育館等で練習しています。近畿圏内や北陸、中国地方で開催されるよ



さこい大会に出場して、多くの賞を受賞。小学校や中学校で、よさこいを指導し、丹波市

をはじめ近隣で開催されるイベントにも参加しています。

③沼貫の自然、生き物観察会

沼貫地域の誇りである貴重な自然や生物を見学、観察し保全や保護を図り、後世に継承して行く必要性や大切さを認識します。

(ア)ヒメボタル観察会

ヒメボタルは山深い所でないとも見ることができず、発見が困難です。また雌は飛ぶことができないため繁殖範囲は非常に狭いです。沼貫地区では子どもたちが夜、安全に安心してヒメボタルを観察することが出来るように林道や周辺の整備を実施しています。

(イ)野鳥観察会

加古川にはカモやサギ、タカ、ヒヨドリ、ミサゴをはじめ50種類近くの野鳥がやって来ます。野鳥とふれ合い加古川を中心とした豊かな自然を来場者に、体いっぱいに感じて頂けるよう保護活動や環境整備にも力を入れています。

(2)高齢者の支え合いと子どもの健全育成

◆高齢者の支え合い

①黄色い旗を掲げて「元気の証」

超高齢化社会を迎え「元気で安心・安全な地域づくり」を目指し、65才以上の方に生活の不安や困りごと、地域への要望等についてアンケート調査を実施。アンケート結果を踏まえて、高齢者の見守り活動として毎朝玄関等に元気であることを知らせる「黄色い旗」を掲げる運動を開始。旗が出ていれば、ご近所の方は元気で暮らしていることがわかります。地域での見守り活動を通じ、ご家庭の異常を早期に見出し、必要な支援に繋がります。それにより地域の絆が強くなり、災害時の住民同士の助け合い（共助）も円滑になります。

②子どもたちと一緒に行う一人暮らし高齢者等のお宅への見守り訪問活動

南小学校やPTA保護者と連携しながら、高学年の子どもたちが、各自治会や民生委員、福祉委員の皆さんと同行して、一人暮らし高齢者や高齢者世帯宅への見守り訪問活動を行います。

③100歳いきいき体操

11年前から沼貫交流館に毎週火曜日、地域の高齢者50名が気軽に集い、「筋力の維持向上」や「閉じこもり防止」のために体操をしている。その場を「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪に広げ、高齢者同士の支え合いにつながり情報交換やお知らせの場とし、健康講座の案内や交通安全、振込詐欺等の啓発や地域の課題や問題についても話し合っています。

◆子どもの健全育成

①地域とともにある学校づくり推進フォーラム2022年全国大会出場

「正しく学ぶこれからのコミュニティスクール」という目標を掲げ、南小学校学校運営協議会は「参画・協働・共汗・共創の地域学校協働活動」子どもたちが主役の地域に開かれた、地域とともにある学校、口も手もだす、コミュニティスクールを目指しています。子どもの楽しいは、大人の楽しい（元氣と癒しを与えられる）です。子どもを育てることは大人が学ぶことでもあります。大人同士が互いに学び合い、協力し合っ
て、子どもたちがふるさとに誇りを持ち、進取の氣性溢れる「南っ子」に育ってくれることを願っています

す。それが、地域の維持・活性化、低迷する日本の再生を担う子どもたちの健全育成につながることを目指しています。

②南小学校学校協働活動

学校運営協議会メンバーをはじめ自治会長、民生委員、民生児童協力委員、PTA役員、登下校見守り隊、子どもふれあい食堂のメンバーほか、各団体や個人の有志の方75名の皆さんが参加されています。「できる人が出来る時にチョット」を合言葉に気軽に参加いただいています。活動に参加して頂く皆さんが楽しく無いと継続はできません。主な活動は以下の通りです。

- ・校内清掃・整備活動を月2回程度
- ・学校行事への参加や準備、手伝い
- ・早寝・早起きプロジェクト
- ・給食試食会（25名参加内男性5名）
- ③「第1回ぬぎマルシェ」を開催

2023年9月23日の運動会終了後、地域が繋がり活性化を図るため「マルシェ」を開きました。400食のカレーを炊き出し、大人300円、子ども100円（お変わり無料）、ペットボトル飲料100円で販

売。食材のお米は5年生が授業で収穫、野菜は地元農家より提供。人口減少に伴い地域社会の持続可能性が揺らいでいますが、多くの人達が関わり繋がる社会を子どもたちと一緒につくっていける可能性を示すことができました。

(3) まとめ



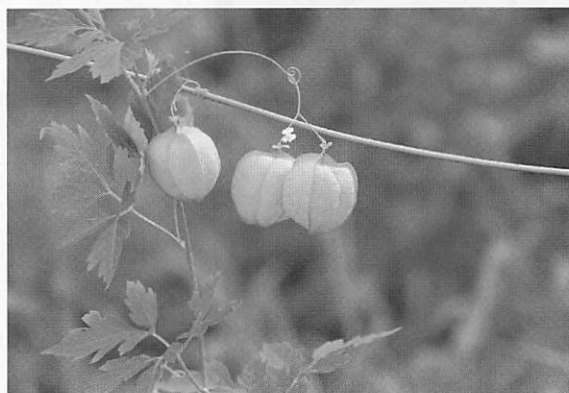
これらの活動が認められ、令和4年度文部科学大臣賞を受賞し、報告会では地域の小学生や皆さまと喜びを分かち合い

ました。また兵庫県連合自治会大会で、兵庫県自治賞表彰を受けました。

先輩から引き継ぎ、沼貫9自治会の力を結集する「沼貫ふるさとまつり」をはじめ、それぞれの行事を子どもも大人も知恵を出し合い、「受け継ぐ伝統・輝く未来」を大きく華開かせたいと思っています。

(氷上町出身。柏原高校昭和43年卒、丹波市氷上町沼貫地区自治振興会会長、兵庫県民生委員児童委員連合会・代

議員、丹波市氷上民生委員児童委員協議会・会長)



撮影・岡 吉明

永井彰一郎教授の三輪小学校

——二度も銅像を寄贈した愛校心

徳田 八郎衛（浦安市）

1 はじめに

三輪小学校の来年春の閉校が近づいてきた。同校のシンボリックな存在だった「希望の像」はどうなるのだろうか。統合の受け皿である吉見小学校は、この像も受け入れてくれるのだろうか。三輪小学校の卒業生以外は、いや、今は卒業生も知らない像のいわれと寄贈者の永井彰一郎（旧美和村勅使出身、東大名誉教授）について書き残しておきたい。

2 32年後の寄贈・第二弾

昭和45年（1970年）4月8日、1学年1クラスのこじんまりした三輪小学校（児童数185人）には氷上郡教委や町内の他校からの来賓が溢れていた。ま

だ小学校が四・四制だった明治38年（1905年）に三輪尋常小学校を卒業した大先輩、永井彰一郎が寄贈する「希望の像」の除幕式と贈呈式が始まるのだ。二人の男女児童が地球を高々と持ち上げた青銅製の像である。高さは約1.5メートルもあり、児童の身長ほどの礎石に載っている。

「児童が朝夕、像を仰ぎ、たくましく成長していくシンボルに」との思いで寄贈したと永井は述べたが、



希望の像の前で六年生と思われる児童に講話する永井彰一郎東大名誉教授

もう一つの伏線があつた。永井は32年前の昭和13年（1938年）8月に楠公像を寄贈しているのだ。校門の横から二宮金次郎像と並んで登下校の児童を見守ってきたが、戦局の悪化で銅

製品として供出され、礎石だけが残っていた。それに続く寄贈・第二弾だった。



二つ目の寄贈であることを記した銘文

ろうか。だが礎石には「在東京永井彰一郎」としか記されていないから、同校の卒業生に尋ねても、どんな人

礎石には「大東亜戦争のため供出した楠公像に代わって之を建立」と記されているから、楠公像にも希望の像にも、寄贈者の強い思い入れがあるのが判る。この他に、永井は「いい本を沢山読むように」と30万円を同校に贈っている。丁度、大阪万博が始まり、物価も給与も上昇し始めた時期であったが、現在の300万円に相当するだろう。功遂げた人なら、誰しもお世話になった母校へは何か恩返しをしたい。一般には、中等教育での母校へ向けられることが多く、筆者の周囲にも旧制中学校や新制高校へ拠金した先輩は多かった。永井の三輪小学校への熱情は稀有な例ではないだろうか。だが礎

物なのか誰も知らないものである。贈呈後の5か月後に永井が急逝したことも……

3 生い立ちと活躍

永井は筆者の縁者である。祖父の妹「ぬい」が明治初期に美和村勅使の永井騰（のぼる）と結婚し、その長男なのだ。母の実家である徳田家に下宿して柏原中学へ通い、大正2年（1913年）に卒業している（12回生）。三高から東京帝大工科大学校（現東京大学工学部）へ進み、工業化学を専攻し、大正8年（1919年）に卒業して講師となる。柏原中学の3年先輩である筆者の父・富二とは仲が良く、生徒時代、学生



京都・三高生時代の永井彰一郎（右）と従兄の徳田富二（左）

時代、社会人時代を通じて数多くの写真が残されている。

祖父・徳田庄三郎が大正6年暮に90歳で大往生した際、難題が生じた。狭い山道を僅か4名で遺体を載せた重い輿を担いで登るのは甥か孫でなければならぬ。ところが甥たちは還暦過ぎの高齢だし、孫たちも都会へ出ている。そこへ東京から夜行で帰省し、徳田家へ直行したのが永井だった。従兄たちと一緒に「輿かき」を務め、実家へも寄らずに夜行で帰京。親戚中の褒め者になった。葬儀の際に「配役」と題して貼りだされる葬列の役割分担表が残っているが、確かに「永井正一（近所のボランティア書記による誤字）」が記録されている。

伯母

徳田八郎重三

輿

徳田興三
依藤政次
徳田富次
永井正一

天竺

依藤源三

祖父の葬儀に夜行で往復し輿かきを務めた

当時の大
学は、9月
入学、6月
卒業である
が、東京帝
大卒業前に
帰省した永

井は、両親、嫁いだ姉や嫁ぐ前の妹、大学予科の次弟、柏中生の三弟と四弟を伴って勅使の神社で撮影した記念写真を残している。学校ごとの制帽の違いが判る。

卒業後の永井は、ドイツ留学の機会も与えられ、セメントや耐火物など窯業分野の研究で活躍する。昭和8年東京帝大工学部教授に昇進。14年には日大教授となり、25年には横浜国大教授を兼任し、30年に東大名誉教授となった後も芝浦工大教授、千葉工大教授に迎えられ、窯業協会、日本化学会各会長も務めた。

4 エピソード

エピソードは多い。学者や実業家、文武高官を輩出した旧氷上郡であるが、美和村の人々は特に永井を誇りとした。昭和12年、長女彰子（あきこ）が学習院初等科へ入学し、天皇家の三女孝宮和子内親王の御学友に選ばれたが「毎朝、宮内庁から菊の御紋の自動車が萩窪の自宅まで迎えに来るげな」と村民は、我がことのように喜んだ。美和村への永井の想いも強い。二女には美和子と名付けている。

戦時中に永井は工学部長に選出され、公用車の送迎



1917年6月東京帝大卒業前に一家で記念撮影

を受けることになるが、陸・海軍省からも顧問として月に何度か送迎がある。各々国旗が軍艦旗を翻した車であり、これも村民の誇りであった。

ただ郷里に錦

を飾る際は、永井も大変だった。それまでは黒井駅から小型タクシーで勅使へ向かっていたのに、教授になると遠い柏原駅で下車し大型タクシーで帰村せねばならない。黒井出身の秋山徳三郎陸軍中将（柏原中学第8回生）も、ロンドンでの技術駐在官を終えて帰国し大佐に昇任すると帰省時には同じ「憂き目」にあっている。帝大教授や陸海軍大佐は、並みの高等官とは違う「偉い人」なので、体面のための出費もかさんだ。

この大先輩に筆者も一度だけお会いした。昭和40年

代に入り、それまで米国政府が機密文書としていた「戦略爆撃調査報告」が公開され、アメリカンセンターや国会図書館で読めるようになる。終戦直後の11月から翌年1月まで日本の官民軍各階層の責任者に面接し、国民の士気や食糧事情から原爆への反応まで幅広く聴取した報告である。その調査項目の一つに「日本の戦時化学工業」があり、「我らの推定通り貧弱であり、戦略爆撃の対象から外したのは賢明だった」と結ばれている。

「この見方は正しいでしょうか」との素人の問いに「悔しいけど事実です。貴方の専門の通信電子と同じです。戦後の〇〇化学、△△化成の繁栄は、欧米の特許で成り立っています」と明快に返えて下さった。親戚らしい会話は一切ないまま上体を45度傾けて別れた。公的な場に私事を持ち込まないのが両家の家風だが、今では残念に思っている。青山葬儀場での葬儀では、山のような会葬者の背後から「正三位・勲二等 永井彰一郎」の靈に合掌した。敬神崇祖の科学者だった。

（満州奉天市生まれ／浦安市在住／元防衛省勤務／（財）平和・安全保障研究所客員研究員）

田艇吉の師「小島省齋」

荻野 祐一

(丹波新聞社会長)

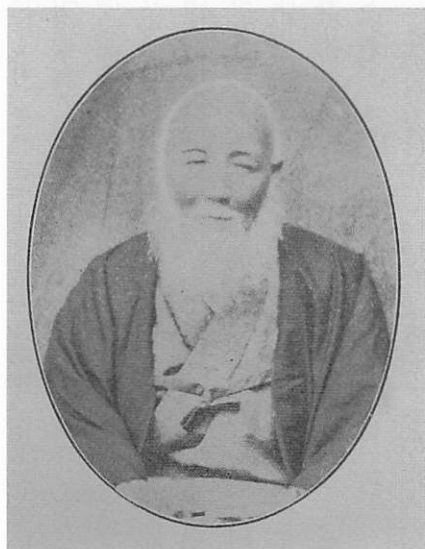
歴史上、丹波市の礎を築き、発展に導いた最大の功労者は誰か。こんな問いが、もしも出されたらとすれば、「田艇吉」との回答がもつとも多いのではなからうか。明治の鐘ヶ坂トンネル、阪鶴鉄道の開通などに力を尽くし、「丹波開発の父」とまで言われた田艇吉は確かに功労者の筆頭に違いない。しかし、私はあえて「小島省齋」を推したい。田艇吉が少年時代から教えを受け、生涯、師と仰いだ儒学者である。

柏原藩の中枢を担う

省齋は文化元年（1804）、氷上郡佐治村で刻み煙草を扱う家に生まれた。幼い頃、父親は行商に行った先で客死し、母ひとり子ひとりの貧しい環境

で育った。「梅檀は双葉より芳し」しながらに、幼少時代から大器の片鱗を見せた。家にあった数少ない書籍のひとつ、『孔子家語』を精読し、その聡明ぶりには周囲の大人たちも一目を置いた。

十分な教育が受けられないまま家業を継ぎ、仕事のかたわら独学に励み、妻もめとつた。しかし、向学心を抑えきれず、23歳の時、遊学を決意した。母親や妻の許しを得て、経学（四書五経など、経書の研究をする学問）の泰斗として名をはせていた京都の猪飼敬所の門に入った。敬所も感嘆するほどに成



小島省齋

長した省齋だったが、入門から3年後、母親が病に倒れたとの知らせに矢も楯もたまらず帰郷した。

ふるさとに戻っても学問に打ち込んだ。その名声はいっしょに広まり、教えを請う者が少なくなかった。このため、地元佐治の素封家が建てた別邸「竹西亭」を借り、私塾を開いた。省齋の評判は柏原藩主の耳にも届き、6代藩主の織田信古が省齋を登用した。以来、最後の10代藩主、信親に至るまで歴代の藩主に仕え、柏原藩の中核を担った。

薩長と共に勤皇の急先鋒に

省齋の功績の中で特筆すべき一つが、柏原藩を勤皇に導いたことである。嘉永6年（1853）、ペリーの率いる軍艦が浦賀に来航したのに端を発した幕末の動乱期に柏原藩は各藩に先んじて勤皇の態度を明確にした。それは省齋の信念に基づくものだった。

勤皇が佐幕か、国論が沸騰し、各藩は形勢をうかがい、去就を決めかねているなか、省齋は、徳川氏から受けた恩は軽んじることはできないものの、皇

国に対しては、その恩は私情に他ならないとした。徳川氏に加担するのは、柏原藩の太祖である織田信長公の意でもないとし、「私恩を捨てて大義に就き、皇室と存亡を共にすべきである」と説き、柏原藩の意思を統一した。

慶応4年（1868）、鳥羽伏見の戦いが勃発し、兵力において圧倒的に不利だった新政府軍が旧幕府軍に勝利した。この戦いで御所を守った柏原藩は、戦いのあと、朝廷からの命で西園寺公望の率いる山陰道鎮撫軍に加わった。薩摩、長州の兵と共に総勢400人足らずの鎮撫軍を結成し、錦旗を押し立てて京都から鳥取、岡山を進軍した。途中、各藩は競うように朝廷への帰順を誓い、従軍を願った。

柏原藩は、薩長の雄藩と共に勤王の急先鋒となり、各地の警備に奔走し、鎮撫軍の一角もなしたことから、明治新政府は柏原を氷上郡の行政拠点と位置づけた。このため、柏原区裁判所、柏原税務署、柏原公共職業安定所など国や県の出先機関が集まった。明治以降、柏原が発展していく礎が築かれた。

「名利の念を捨て去れ」

省齋の功績で最たるものが教育の振興である。藩を支える人材を育成するため教育がいかに重要であるかを再三にわたって藩主に説いた。その進言もあり、安政5年（1858）、藩校の「崇廣館」が開校した。「崇廣」の名前は、儒教で尊重される5種の經典をいう「五經」のひとつ、「易經」から採られた。校名の由来に見られるように、崇廣館では「四書」（論語、孟子、大学、中庸）や「五經」（易經、



柏原藩陣屋跡の前に立つ省齋の頭彰碑

書經、詩經、礼記、春秋）などを素読を中心にして学んだ。省齋の意見を取り入れて崇廣館の教育システムが整えられ、省齋が講義をする時もあった。

省齋が信奉した教えは朱子学だった。朱子学とは、南宋の朱熹が大成した儒学の体系をいい、個人の内的完成をめざした。個々の人間が道徳的になってこそ理想の社会が実現すると考えた。きわめて厳格な道徳主義だった。

朱子学を奉じる省齋の教育は当然、人として徳の陶冶と完成をめざすものだった。藩主に対しても徳を高めるよう求めた。柏原藩は当時、財政難にあえぐなど難題を抱えていたが、困難な事態を打開していくためにも家臣や領民たちが藩主に忠誠を尽くす必要がある、信服を得られるよう徳を磨き、高めなければならぬと藩主をいさめた。

省齋の教えを端的に伝えるものとして、「名利の一念心上に留ませば、天真束縛せられて自在なるを得ず」という名言をあげることができる。「名をあげたいとか、ひと儲けしたいがしたいという思いがわずかでも心中にあれば、そんな思いに心はひきず

られ、自由闊達でなくなってしまう」という意味である。名利の念を捨て去り、利己に走らず、聖人への道を歩むよう努めることを教え、みずからも律した。

省斎のまいた種が結実

無私なる個の形成を通して理想の社会をつくりあげる。そんな省斎の教えはやがて地域の風土と化し、現実として結実した。その一つが、明治16年（1883）に完成した明治の鐘ヶ坂トンネルである。

トンネル開通の陣頭指揮を執ったのは、明治12年、28歳で氷上郡長になった田艇吉だ。艇吉は12歳の時、柏原の生家を離れ、佐治にあった省斎の家塾に入り、省斎と起居を共にしながら漢籍を学んだ。

氷上郡と多紀郡を分かť急峻な鐘ヶ坂峠につくられたこのトンネルは、日本では初めてとされるレンガ積み工法が採用された。難航を極めた工事に費用は当初の予想よりも大幅にかさみ、4万円となったが、注目すべきことにそのうちの3分の1強を有志からの寄付でまかになった。今のお金に換算すると、



青垣町佐治に残る「竹西亭」

およそ3億円
だという。

このトンネルの建設は、そもそも艇吉をはじめとした両郡の有力者の間で持ち上がったものだったが、当初は、工事費の3分の2を寄付で負担し、残りは公の補

助金に頼るという算段だった。最初から公に寄りかかろうとせず、自分たちがそれぞれに身銭を切って取り組みとうとした。地域が発展するならば寄付は惜しまないという当時の人々の気骨が感じられるこの大事業をリードしたのが、省斎の膝元で人格を形成した田艇吉だった。

明治の鐘ヶ坂トンネルのほかに、明治18年に建てられた氷上郡各町村組合立高等小学校（今のたんば黎明館）にも郡民から多額の寄付が寄せられた。そこには、教育が明日の地域を開くという当時の人々の熱い思いがあった。

トンネル、高等小学校のいずれも省斎のまいた種が実を結んだものと私には思えてならない。

死後半世紀、遺徳をしのばれる

省斎の死後に門下生たちが建てた顕彰碑の前で昭和8年（1933）、省斎をしのぶ式典が執り行われた。省斎が亡くなってから49年目で、五十回忌にあたる年だった。柏原町や佐治町の町長、省斎の薫陶を受けた者をはじめ、崇広小学校の児童も参列した。式典の発起人総代を務めたのは田艇吉だった。

艇吉は顕彰碑に向かって「私たち門下生がそれぞれの分を守り、道義を踏み外すことがなかったのは先生の恵沢によるものです」と語りかけ、改めて省斎に感謝した。

亡くなってから半世紀が過ぎてなお、遺徳をしの

ばれる人物。それが「丹波聖人」と仰がれた小島省斎だった。



撮影・岡 吉明

山ざる研究

高山寺の芭蕉句碑が結ぶ縁

上 島 成 和（氷上町）

一 丹波市内の芭蕉句碑

丹波市内には、芭蕉句碑が四基ありその碑面には、次のように刻まれています。

① 青垣町檜倉 高源寺

何の木能花登も志連ぬ句ひ可那 翁

② 春日町野村 観音堂

粟稗尔貧しくも阿ら寸草の庵 はせ越

（左側面） 朝ま徒盤独流るゝ清水哉 感山

（右側面） 文化二乙丑年二月上旬（裏面） 竹菴

白人

③ 山南町和田 法性寺

梅可香耳乃川登日能出流山路哉

（左側面） 文化十四歳丑孟秋

④ 氷上町常楽 高山寺

名月尔麓のき里や田乃曇り

芭蕉

（右側面） 靄乃久るミ知盤何處そ秋の空 由儀

（裏面下） 我冽 古文 雪峯 真之 浦橋 美

参 元居（七名）



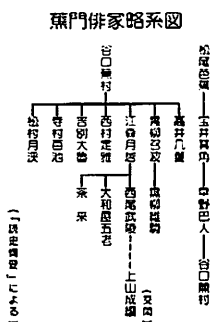
真言宗大覚寺派別格

本山の高山寺は、かつて葛野地区長野の弘浪山（五二〇メートル）の山頂にありましたが、山上の不便から寺は荒れ、昭和三十三年四月に現在の常楽の地に移築されました。先々代三十三世住職、上井寛圓師は「山上にはまだ他にも碑がありましたが大切なものだけを下ろしました」と振り返り、「この句は、芭蕉が旅の道すがらこの寺を訪れ、山頂より丹波の雲海の素晴らしさを詠んだもの」と、俄には信じがたい事を話されました。今は十数年も前の成松ペンクラブ定例研修懇親会でのことでした。これが切っ掛けでこの碑の謂われを考究することになりました。

「明月に麓の」の句は『続猿蓑』秋の部に出ており、

支考評に「ことしは伊賀山中にして明月の夜、この二句をなし出して、いづれかはいづれか非ならんと侍りしに、この間わかつべからず……」とあり、また『伝土芳筆全伝』には「此三句新庵の月見也新庵を門人三見スルト多く招テ各句アリ」と記してあります。

二 句碑建立の人々



ようと考え阪神の古書店を廻りはじめました。

西尾家は、醸造業を営み、篠山藩青山家の御用達を仰せ付けられ名字帯刀を許された名家でした。武陵は家業や公務の傍ら俳諧を嗜み多くの句集、日記・来簡等の記録を遺しています。これらは翻刻され『武陵集』『武陵来簡集』となつて出版されています。天理図書館には、武陵の俳諧撰集『東西四歌仙』（文化九年・版本）が所蔵され、これには伊予国梶堂らと一座した歌仙を巻頭に連句や発句を収めてあります。発句の作者は、陸奥、江戸、尾張、甲斐、能登、加賀、伊賀、丹波、淡路、安芸、長崎、肥後、讃岐、薩摩等遠隔の地にまで及んでおり、武陵の交遊の幅のひろさを物語っています。

丹波としては、臺秋以下四十八名の発句が入集して

を風流とてつてゆふ川、そち
 なか連ル添ふて夏の月由儀
 と云う高山寺句碑建立衆の一
 人の名前と句をみつめました。
 この砂川は葛野川でしょうか、
 それとも佐治川でしょうか、
 当時は、今日のような人工的

な立派な堤防はなく、大部分は砂州が堤の役割を果た
 していました。由儀は商用かそれとも縁者の諸用かで
 帰宅が遅くなり、砂川の道を急いでいると、折しも水
 面に夏の月が映え、彼が歩むと月も連れだつて動いて
 行く「おお、お月さんも一緒に歩いてくれるのか」と、
 心を和ませていると言ったところでしょうか。
 『東西四歌仙』が編まれたのは文化九年とありますか
 ら、由儀を始め高山寺句碑の人々は、文化文政期に成
 松近辺で暮らしていた俳人たちと言うことになるうか
 と思われれます。

三 上山成績と西尾武陵

上山家は、丹波市柏原町大新屋で代々庄屋を勤め、
 旗本佐野氏（三五〇〇石、知行地相模国二ヶ村・下野

国四ヶ村・丹波国三ヶ村）の丹波における知行所（大
 新屋、鴨野、稻継半分）支配の代行を任されています。
 上山家文書によると、宝永元年（一七〇四）第六代
 勘兵衛の時、領主佐野直行により名字帯刀を許された
 とあり、同家は百姓身分でありながら佐野家（在地栃
 木県佐野市）の家臣の扱いを受けています。

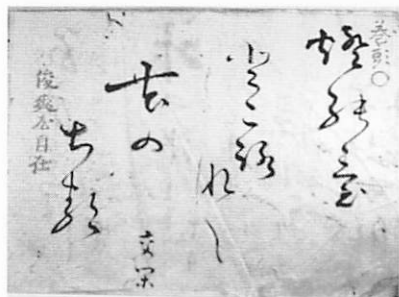
成績は、孝之進と称し雅号を交閑といっています。文政
 十年（一八二七）丹波三ヶ村収納取立方、翌十一年に
 は名字帯刀御免の上三ヶ村取締役を拝命し、嘉永三年
 （一八五〇）八月佐野時行大坂川口御船手勤役の際に
 は、川口勤番を命じられ参勤交代の西国諸侯と応接し
 ています。同家文書には諸侯の挨拶状が数多く残って
 います。また、彼は村政や佐野氏の家臣としての公務
 の傍ら、近隣の俳句仲間と俳諧を興行し句集も遺して
 います。

その一つに、表「日吉山王権現社祭禮 奉灯復奉額」、
 その裏「四季類題」と題する句集があり、俳友ムラ花
 蔭、流水、洞庭、タシ花楽、若梅、ホツホ元居と七名
 で詠み溜めた発句一三一六句を用紙表裏に各四句ずつ
 無名で清書し、判者に南亭を招聘し、この中から秀句
 三十六句を撰してもらい、歌仙一卷としています。

西尾武陵の書齋を「南亭」といいます。彼は、この多くの句の中で秀句と判じたものに朱で鈎印をつけ、その大部分の句に添削を加えています。

例えば、二十七番めの洞庭の句「草の菴霞那から耳暮に希利」は「草の菴霞那から耳日能く類」として歌仙の一句に入れています。また、彼自身も「月夜かと思へは庭の桜哉」と詠じ奉納しています。

巻頭には交閑の句「燈の置ところ那し花のち類」を置き、巻軸には流水の「傘ささはふとこ路寒起夕かか南」の句で一巻を閉じ、両句ともに「俊爽尤自在」の朱印を与えています。「感じたままをすつきりと表現



この歌仙の十一番めの句に「ゆたゝと見由るハ夜の柳か那ホツホ元居」(高山寺句碑建立衆の一人)とあり、柏原町の母坪に俳人元居が居たことが判明します。

成松には、由儀を先達

として母坪の元居他七名の俳人集団があつた事が分かります。この頃になると、農村地域でも識字率が上がり庄屋等上層の者だけでなく中流農民の中にも文字の読み書きが出来る人が増え、その地の蕉門俳家の師匠を中心に俳句を嗜む人々の纏まりが生まれ、その結果として市内各地に芭蕉句碑が建立されたものと思われる。

武陵は 文政七申年（一八二四）仲夏と記した『人名録』と、それ以前の交遊を記した『名録帖』を遺しています。その中から丹波市内の人に限って整理したものが次の表になります。

[illegible]

年（一八一八）三月一六日付の江森月居の書簡に「如月五日之貴状今日相達　先以御安泰御起居抔喜候　先頃和田の南老帰国付一書ことつて候」とあり、山南町和田の南老は、武陵の師月居と交流があり、南老を師とする俳句仲間が和田にもあつた事が窺えます。

(雅号竹声)宛て蕪村書簡に、「しかれば御屏風いまだ揮毫不仕候 段々延引に 及び候段御申訳も無之仕合に御座候 今しばらく待 可被下候……」とあり、氷上町谷村の有田竹声が与謝蕪村に屏風画を依頼していたのを「いまだ揮毫仕まつらず候 延引に及び候段申し訳これ無く……」と詫びています。

谷村には竹声、和田では南老、野村は感山、市島町上田には竹菴、大新屋は交閑、成松は由儀をそれぞれ師とし、俳諧に勤しむ集団が活躍していたことも分かります。

四 師弟を超えた交遊

上山家には、武陵の書簡が四通残っています。

文化十二年(一八一五)八月二十日交閑宛てに「近々上京二而御立寄可被下候 久々二而積る御物語申上度相楽罷居候……」とあります。

交閑は、先刻武陵に京都に行くことを知らせていたのでしよう。彼は、佐野家家老伊藤佐五兵衛の求めに応じ、佐野家所領丹波三ヶ村の年貢米売捌を京都の札差近江屋甚兵衛に請け負わせています。佐野家が金策に困った時などは、年貢米を担保に金子調達の相談を



再三近甚に持ちかけています。

文化十二年八月二十日は、現太陽暦では、九月二十二日に当たります。この年の貢米はまだ未収納のため、交閑は交渉に上京したのかも知れません。この時代柏原大新屋から京へは、篠山街道を通り、老ノ坂を越え、西京区水掛宿で一泊し町に入り、下りは、京から篠山で一泊して、鐘ヶ坂を越えて帰宅するのが普通の行程のようでした。

武陵は、「特に拙者宅に泊まるように、積もる話も申し上げたい、楽しみに待っている」と勧めています。さて、交閑は泊まらせて貰ったのでしょうか。この間の事情が分かる文化十二年九月六日の書状が遺されています。これを読み下すことにします。(写真の武陵書簡参照)

追日秋氣いよいよ増し候ところお揃いますます多様ござ成され恙なく喜び奉り候 誠に過日はお尋ね成しくだされ物語を得 殊にお土産に預かりいろいろ御懇篤のいたり万々多謝奉り候 かしながら御早々何の風情もござなく残心に存じ奉り候且又 この間は御使

右貴評くださるべく候以上

簡くだされ候ところ いでたち節取り紛れ罷りありお
酬いなさず失礼にまかり過ごし候 しかるにおもひ仰
せられ子供衆の儀 則同家方へ申し聞き候ところご相
談に及びたく旨申し候に付きその旨この間のお使いへ
申し上げ候ところ今日親父孫三郎殿お出でて則与七
方へお引き合わせ申し候定めてご相談あい調い申すべ
く存じ奉り候なお委細は御同人よりお聞きくださるべ
く候

一

御発句三章何れもめでたく承り申し候 就中 松
二日秋の夕 何の音聞くともなし夜寒一入感賞いたし
申し候 何の音 ものゝ音となされてしかるべきかと
愚意仕り候

一 悪草仰せ聞かされ この節認め合い候ものこれな
く短冊二葉呈し申し候 外に粗摺りもの一つ呈し候お
差し留めくださるべく候

右お酬いまでにかくの如くにござ候 不一

菊月六日

武陵

交閑詞伯

美しや夜の冥さと鹿の声

秋の日におくれしよこに草枕

名月のやすみ處か峯の松

書状前半に「過日ハ御尋成被下得物語 殊二預御土
産段々御懇篤之到……」とあり「併御早々何之風情無
御座残心奉存候」とありますから、交閑は京の帰り武
陵を尋ね一夜ゆつくり積もる話をしたのではないでし
ょうか。

その時、貰い子の事に話題が移り、後日武陵の世話
で孫二郎を与七方へ引き合わせています。穿った見方
をすれば、孫二郎は交閑の縁者で与七は武陵の縁者で
あったのではないのでしょうか。この書簡の奥には、
武陵最近の句作か、美しや、秋の日、名月のやすみ處
の三吟が据えられ交閑の批評をもとめています。この
時代、俳家の書簡の殆どがこのスタイルを慣習として
います。

鐘ヶ坂を隔て柏原に交閑、大山に武陵と言う蕉門俳
家があり、文化文政期互いに句作を交わし親密な交遊
を深めていた事はあまり知られていません。高山寺の
句碑は、郷土の先人との縁を結び、古文書解読の妙味
の一端を修得させてくれるものになりました。

(柏原高校 昭和28年卒)



令和6年度「ふるさとの会」報告

新会長に石橋順子さんを選出 郷友会初の女性会長に
今年も楽しく和やかな「ふるさとの会」が開催できました。

令和6年度の「ふるさとの会」は11月24日（日）11時より、昨年まで開催してきた学士会館が建替えの為、新たな会場として東京上野の精養軒で開催されました。

第一部の講演会では、兵庫県人会会長 第88代警視總監でもある池田克彦氏に講演をお願いし、「今と昔、どちらが安全か」「リーダーに求められるもの」等、氏の経験から得られた貴重な、またかみ砕いた楽しくわかりやすいお話をいただきました。（98頁参照）

第二部の総会では、今総会で退任となる岸本勲会長より会務報告と在任中の皆様からのご協力に対してのお礼と、新執行部へのバトンタッチの挨拶をされました。引き続き、谷口副会長（会計担当）より会計報告、監査報告、続いて岡副会長より、今年が当会役員の改選時であり、また会長以下執行部も高齢となり、会の若返りを図りたく、理事会で検討して、新役員の案を会場に諮り、総会参加者の大きな拍手で了承されました。

続いて石橋新会長の挨拶があり、「理事会のオンライン化など電子化を進めること」「若い会員の増加を図るための高校卒業生への勧誘を図ること」などの抱負が述べられました。また、最近の動向として会誌「山ざる」の電子化が完了し、郷友会のホームページで過去に発行されたものまで閲覧可能になったことが紹介されました。

そのあと副会長3名（原谷、安井、村上）の紹介、サプライズで新会長、副会長より前会長、副会長に花

束の贈呈があり、和やかな雰囲気の中、総会が終了しました。

第三部の懇親会は御来賓で「ふるさと会」での講演も頂いた、カーネギーメロン大学教授の金出武雄先生、兵庫県人会副会長の北畑隆生氏よりお祝いの言葉を頂きました。

兵庫県東京事務所所長の



今後元彦氏に今話題の兵庫県知事選挙の結果などをお話し頂くとともに乾杯の発声も頂き、宴会がスタートしました。宴席は出身町ごとのテーブルに着席し、昔なじみの人との会話や郷里の出来事を話し合うなど、和気あいあいの宴会になりました。

また、御来賓のご挨拶で、神戸新聞社東京支社長の今井和尚氏、丹波新聞社相談役の小田晋作氏より過日の丹波市長選の結果や故郷の近況報告もお話頂きました。

何時もながらあつという間に予定時間が終わってしまふという楽しいひと時を過ごし、恒例のお楽しみ抽選会は参加者全員にチャンスがあり、空くじ無しで、「丹波やながわ」様始め多くのお店、工場から提供いただいた名物やお菓子などがそれぞれ全員に渡り、たくさんお土産を手を持ち帰ることが出来ました。

総会の締めくくりは氷上町出身本城英明さんの指揮で「故郷（ふるさと）」の大合唱になり大いに盛り上がりしました。

和やかな会も来年また元気に会えることをお約束し閉会となりました。

（村上 督）

◆お楽しみ抽選会に景品をご提供いただいた皆様

丹波乳業(株) 吉田拓洋様 紙パック牛乳 55パック、ヨーグルトセット 3セット

(株) 村上養鶏場 村上康充様 せせらぎ10個入り10パック

(株) 婦木農場 婦木克則様 お米3kg3袋、自家製

チーズ詰合せ1セット

丹波ふるさと振興(株) 柳川拓三様 丹波黒豆おか

き55袋

(株) ゆめの樹 野上野 上山茂人様 黒豆・金山寺み

そ 各5個

(株) やながわ 柳川拓三様 焼きたてどら福55個、

丹波黒煮豆と和洋菓子詰合せ2セット

◎令和6年度「ふるさとの会」出席者

(順不同・敬称略)

池田 克彦 (講師) 兵庫県人会会長 第88代警視總監

今後 元彦 兵庫県事務所所長

北畑 隆生 兵庫県人会副会長

金出 武雄 カーネギーメロン大学教授

織田 信孝 織田家19代当主

小田 晋作 丹波新聞社相談役

今井 和尚 神戸新聞社東京支社長

会 員

市島町

荒木司郎 荒木輝雄 石橋順子

関多加子 高見秀史 西山貞夫

丸川宥次郎 有川寛子 山本喜則

柏原町 足立和子 池畑廣士郎 岡 吉明

可児豊子 木下正勝 コスタンティニーニ・ヒロコ

徳田八郎衛

春日町 大城戸しず代 大城戸立子 近藤利春

柳川拓三

山南町 形田恒夫 久保良雄 下井源治郎 野垣

有 原谷洋美 藤井栄蔵 藤原ひさ子 村上督

氷上町 足立謙悟 安達健一郎 井上巖 上高子

上野 忠明 大賀勝恵 岸本敏子 岸本勲

坂上 勝朗 谷口浩章 徳舛雅孝 廣瀬佳智

本城英明 安井孝之

兵庫県人会会長 元第88代警視總監
池田克彦氏講演

「正義と力」



講師紹介 1953年神戸市生まれ。1976年京都大学法学部卒業後、警察庁入庁。警視庁広報課長、警視庁警備第一課長、岩手県警本部長、警察庁警備部長、埼玉県警本部長、警察庁警備局長等を経て2010年第88代警視總監に就任。退官後の2012年原子力規制庁初代長官。

2019年（公財）日本道路交通情報センター理事長。主な著書『知恵の話（わ）』（立花書房）『蘊蓄雑学説教の辞典』（時事通信社）『警視總監のとおきの雑学手帳』（幻冬舎）など多数。

配布資料の骨子

一、昔と今とどちらが安全か。

（一）交通事故

- ・死者は昭和45年10765人、令和5年2678人
- ・子供の死者は昭和40年代2000人以上。令和5年40人

（二）犯罪

- ・安全神話時代（昭和40年代後半）認知件数約200万件

- ・安全神話崩壊時代（平成14年頃）認知件数約300万件

- ・昨年（令和5年）認知件数約70万件

- ・故意の犯罪による死者 昭和50年代約1500人 今約800人

（三）なぜ犯罪は減ったのか

二、リーダーに求められるもの

（一）幹部四分類で考える

（二）聞き上手の勧め

（三）事に当たって逃げないこと

（四）評論家になるな

配布されたこの資料に基づき、判り易くかつユーモアも交えて世相や犯罪現状を講演して頂き、的を射た質問者5名には著書を贈呈されました。

当日質問の出来なかった参加者が、後日池田氏に手紙を差し出したところ、丁寧な返事と一緒に2冊の著書が同封されていた、と心温まる交流エピソードが生

まれたことを知り、池田克彦氏の温かい人柄が垣間見える逸話を紹介します。

（「山ざる」編集部）

* *

池田克彦氏の講演とふるさと会

大城戸しず代（台東区）

上野精養軒で開催のふるさと会の案内が届きました。講演者は第88代警視總監の池田克彦氏とのこと。会場は我が家の近くで、しかも警察小説好きの私としてはぜひお話を聞きたく、又高校の同級生や同郷の方とも会える楽しみもあり娘も誘って出かけました。

講演会後に質疑応答の時間も設けられていましたが、聞き役のみになってしまいました。帰宅してから娘が「池田さんのお好きな警察小説があるとすればなんですか、とお聞きすれば良かったのに残念だった」と言うのを聞き、思いきってお手紙を出しました。

手紙の内容は「講演の話で日本の警察は犯罪の取り締まりだけでなく抑止にも力を入れている事。又、新聞・テレビのニュースが全てを語っているのではない事など心に残りました」。さらに講演の中で丹波篠山、黒井城、明智光秀、八上城（編集部注・応仁の乱の後



に波多野清秀が旧多紀郡朝治山に築城した城」も出ていましたので「私事です（母（故人）の従妹が波多野家へ嫁いでおり『子どもが居ないので、代々伝わっていた品々を篠山市に渡すことにした。最後だから見に来て欲しい』と言われ、親戚の人と行ってきたよう

です。又、八上城の近くで従妹会も楽しんで居たとも書っておりました」と、もう随分と以前の余計な事も書き添えたりしました。

そうしますと、たいへんご丁寧なお返事と共に『説教の事典』というご自身の著書と『新聞掲載コラムのまとめ』を送って下さり、たいへん感激しました。題名から堅苦しい本なのではと想像しましたが意外にも誰かに話してあげたいような話題や日常生活に役立つような話などワクワクと読ませて頂きました。

さらに驚いたことは、池田氏が学生時代に吉本興業

の舞台をよく見に行っておられ、入社した（と思う）友人が居たとかのエピソードでした。又、小説家の堂場瞬一氏（読売新聞社の記者をされていた方）との対談の箇所には付箋が貼られており、お氣遣いにも感じ入りました。もう一つの『コラムのまとめ』は家族の体調不良もありまだ読んでいませんが時間を見つけて楽しませて頂きたいと思っております。今回のふるさと会は思い出に残る一日となりました。

（柏原高校昭和43年卒）



撮影・岡 吉明

会 計 報 告 書

(2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日)

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	1,999,244	郵便貯金 182,986	出 版 費	758,959	『山ざる』55号
		定額貯金 800,000	冊 子 送 料	217,560	『山ざる』発送費
		振替貯金 1,016,258	通信・印刷費	125,101	総会・役員会案内等
年 会 費	375,000	186名	消耗・備品費	107,043	事務品・広告費・慶弔費
総 会 費	364,000	46名	総 会 費	505,870	総会関係支払
会 議 費	80,450	35名	会 議 費	99,438	役員会・編集会議等
寄 付 金	258,000	78名	振込手数料		
広 告 料	545,000	39件	繰 越 金	1,846,502	郵便貯金 25,924
冊 子 代	40,578				定額貯金 800,000
そ の 他	201	利子			振替貯金 1,020,578
合 計	3,660,473		合 計	3,660,473	

以上

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

2025年 7月13日

会計監査

山本喜則 (印)

林 進 (林)

祝寿の方々ご紹介

郷友会では毎年の総会で80歳を迎えられる会員の祝寿のお祝いをしています。今年、その対象者となられる27名に以下の項目でアンケートをお願いしましたところ、6名の方々に回答をいただきました。

(誕生日順)

- ① 生年月日
- ② ご出身地
- ③ 上京の年月日
- ④ 上京の動機
- ⑤ これまでに最も印象に残ることは
- ⑥ 祝寿を迎えてひと言

対象年（昭和20年・乙酉・1945年）昭和21年・丙戌1946年3月）とはどんな年？

第二次世界大戦が継続したままで新年を迎えた。年始めは特に寒く、食糧不足、物質不足に加えて寒さにも悩まされた。アメリカ爆撃戦闘機B29による空

襲は都市部から地方都市部へと拡大して、空襲を受けたところは、焼け野原となってしまった。8月6日には広島、8月9日には長崎にそれぞれ原子爆弾が投下された。8月15日の玉音放送で国民は日本が降伏し戦争が終わったことを知った。9月2日アメリカ軍艦ミズリ号で降伏文書の調印式が行われた。日本は連合国軍最高司令部の占領下に入る。終戦後間もなく「光は新宿より」というキャッチコピーを掲げた闇市（ヤミ市）「新宿マーケット」が開かれ、東京

新宿から闇市（ヤミ市）がスタートして全国的に広がりをみせる。10月11日に公開された映画「そよかぜ」の主題歌・挿入歌として唄われた「りんごの唄」は、NHKラジオ番組「希望音楽会」12月10日公開放送で並木路子が歌って初めて全国に流れ戦後間もない日本で人々に希望と勇気を与えた歌として爆発的に流行し、国民的な大ヒットとなった。

闇（やみ）市場の値段 白米 一升70円（53銭）・みそ一貫目40円（2円）・牛肉百匁22円（3円）・清酒2級一升350円（8銭）ビール大瓶1本20円（2円85銭）

（一）内は標準価格・百匁は375g・一貫目は3・75kg

祝寿の方々ご紹介

下井源次郎様

- ① 昭和20年4月16日
- ② 山南町五ヶ野
- ③ 昭和43年8月1日
- ④ 大学は横浜でした。田舎に近い関西が本社の会社に就職いたしました。が8月に東京転勤で上京。その後、千葉に転勤になり八千代市に住、現在に至る。
- ⑤ 仕事でいつもの通り道(築地・銀座・最高裁判所・神宮外苑)で偶然にダイアナ妃のパレードを見られた事。
- ⑥ 80才になり田舎の柏陵16回生と年3回のコンペを柏陵同窓会創立130周年迄、元気で続けようと励ましあっております。

足立松子様



- ① 昭和20年4月17日
- ② 氷上町香良
- ③ 昭和44年3月
- ④ 結婚の為
- ⑤ 孫達の誕生
- ⑥ 健康に感謝し、子供達、孫達の成長を楽しませてもらっております。

足立敦子様

- ① 昭和20年6月12日
- ② 柏原町

- ③ 昭和46年10月

④ 結婚

⑤ 58才の時、長男と二男に第一子が誕生した事。4月と11月でどちらも女の子でした。5年間ほど育児の手伝いが出来てしあわせでした。

⑥ 何とかこれまで大病もせず過ごせた事に感謝しております。これからも日々平穩に過ごしていけたらと願っております。

木辻照男様

- ① 昭和20年8月23日
- ② 市島町
- ③ 昭和39年3月31日
- ④ 就職の為
- ⑤ アパレル業界30年、コンビニ

祝寿の方々ご紹介

業界20年、楽しく、うれしかった事、厳しく大変な思いをした事等が、良い思い出として残っています。いい先輩、同僚に恵まれ、今も親しく、お付き合いさせてもらっている事がうれしい事です。

⑥昭和20年終戦の年に生れ、39年アジアで初のオリンピックの年に、上京。昭和100年の年に80才を迎え感慨深いものを感じます。体力の現状維持を心がけ、元気に暮らしていきたいと思っています。

山岸幸子様

①昭和20年12月21日
②丹波市氷上町鴨内

③昭和43年4月1日

④就職のため

⑤80歳という高齢になるまでには、びつくりするような出来事の一つや二つは、否、幾つも皆経験しているのではないだろうか？ 私の場合、今でも忘れられないことの一つは、息子が2、3歳の頃、初めて家族で千葉の海岸へ出かけ、波打ち際で遊んだり、砂山を作ったりして楽しく遊んでいた、ふと気が付くと息子の姿が見えないではないか！大騒ぎしてそこら中を捜し回ったが見当たらない……それほど広い海水浴場ではなかったが、人混みの中を必死で捜し回ったら浜辺の一番端で、楽しそうにシャベルで砂遊びをしていた……どうして2、3歳の

子供がこんな離れた所に一人で来て、泣きもしないで遊んでいたのか不思議でしょうがなかったが、海岸で一瞬でも幼い子供から目を離したわたしは「母親失格」という汚名が心の隅からいつまでも消えない。

⑥約30年間の会社勤めの後は、家事に専念をと思っていたが、たまたまハローワークでホームヘルパー募集中という話を聞き、家事手伝いならできるだろうと軽く考えて応募してみたが、3か月間の厳しい研修後、様々な家庭に派遣されて家事をしながら利用者の方のお話を限られた時間内で聞くのは思った以上にハードだった。取り留めのない内容になってしまったが、80歳とい

祝寿の方々ご紹介

岸本里子様

う高齢になるまでには、もつと色々なことを経験できると思っていたが、意外と早く80歳近くになってしまった。というのが本音で、生来のんびり屋なのでこんな所かなと、ほぼあきらめている。後何年か残された年月で、やり残したことを少しでも片づけられると嬉しいのだが……？

スコに行きました。お台所には洋服ダンスの様な大きな冷蔵庫、食洗機、デイスポーターがあり、別世界に來た様でアメリカつてすごい！と思いました。今年は関西万博の年の55年間で日本の進歩はすごいと思います。

⑥ 80才といってもピンときませんがダンス、麻雀、ボランテイア、歩く会となんとか続けています。ほとんどが私より高齢の方、年を忘れて、細く、長く、頑張りたいと思っています。(麻雀は健康麻雀です)



撮影・岡 吉明

- ①昭和21年1月16日
- ②山南町井原
- ③昭和47年9月
- ④夫の転勤
- ⑤55年前、大阪万博の年に夫の転勤でアメリカサンフランシ

■丹波を描いた写真集

「新発見 丹波ガイド」
新木宏典フォトブック

東京ニユース通信社 定価4000円(税込)

ここで紹介する俳優、新木氏の写真集とインタビュー記事を読む方は、彼は丹波を日本中に広めてくれ、観光アンバサダー（大使）になってしかるべき人物だと納得されるだろう。

彼は個性的なファッションで丹波を訪れ、自然の風景だけでなく神社、仏閣、食事処、酒蔵店、温泉宿、古民家、和洋のスイーツ、工芸展、古武道や新スポーツに挑戦し、名前は知っていても訪れたことのないような個所を瞬時に魅力ある場所にしてしまっている。この写真集を見る多くの人は、丹波で蕎麦やモンブランを食べたくなり、弓道やハングライダーをしたくなるだろう。そしてだれもが、丹波が恐竜の生

息地だけではなく格調高い文化が根付いた地であり、新しいものをも受け入れる斬新的な地だと分かるだろう。現にこの本を片手に丹波を巡る全国の「ファンたち」もいると聞く。

そして極めつけは後半のインタビュー記事である。彼は自分がいかに生きるべきかという人生哲学を持った俳優なのだ。時にストイックに、ある時にはアグレッシブにそして常に前向きに生きようとしている。40歳の若者に読者は生き方を学び勇気ももらうだろう。さらに興味深いのは「荒木宏文」から「新木宏典」に改名した理由だ。30代後半にコロナが流行し、「自分の限界値まで無理を通そう」と思っていた



が出来なかった。だが40代で守りに入れば「下降しか待ってない」だから体が動かなるまで「無理をしてもいい」と再スタートするための改名だった。彼は次のように言う。芸名は「役者としての芸能活動を全力で行うため」、本名は「自分とプライベートを守り、安全に芸能活動に集中するため」。

今後についても「ギリギリまで攻めの姿勢で活動したい」周りに迷惑をかけるかもしれないけれど最後まで全力で行く、「僕の力、才能からして、保守的になっていたら、先はないと思う」。若い新木氏のそんな決意に胸が熱くなる。

最後に彼は「この一冊を手に丹波に遊びに行つて欲しい」と読者に呼びかけながら「自分の地元を堂々と紹介できる……僕はとても幸せです」と高らかに言う。今後の彼の活躍を楽しみに見守って行きたい。

(石橋順子)

■郷土について書かれた本

崇廣館と志士たち

— 崇廣館をめぐる人物群像 —

荻野祐一 著、崇廣館を再建する会発行

「幕末の文化文政時代、財政が苦しい織田藩に信守という困った藩主が登場し、財政を無茶苦茶にしてしまう。堪り兼ねた重臣たちは彼を隠居させ、従弟の信吉を藩主に……一方、のちに丹波聖人と敬われる佐治の儒学者・小島省齋が藩儒として織田藩へ招かれ……」という教育立国・柏原の誕生につながる昔話は、かつては柏原の人なら誰もが諳んじていた。誇りとする藩校・崇廣館は官民で転用されながらも存在し、通った崇廣小学校は旧陣屋。歴史は手近に存在した。

だが旧崇廣館も2007年に解体される。その復元を目指す住民有志が「崇廣館を再建する会」を一昨年に結成し

た。まずは藩校に（1858年）、次いで石生や上滝まで学区とする崇廣館小学校に（1873年）、続いて氷上郡役所になって（1879年）二階建てに改築され、さらに郡立柏原病院に（1908年）、そして米国人宣教師ソントンによる「日本自立聖書義塾（1922年）」となった崇廣館の歴史を伝えようとするのが本書である。

崇廣館で育った「郷里の偉人たち」やソントンの活発な布教活動も詳しく紹介されるが、本書の圧巻は、財政不如意な小藩が雄藩に負けない藩校を官民一体で創設した努力の紹介であるう。

設立は名君・信敬公が18歳で急逝し



崇廣館と志士たち

— 崇廣館をめぐる人物群像 —

てから5年後であつたが、第9代藩主信民は、省齋の強い指導もあつて先君の遺志を成就させた。熊本の宇土藩細川家出身の信敬は12歳で柏原藩を継ぐ。自分自身も向学心に溢れ、その2年後（1849年）、柏原八幡宮の近くに藩校「又新館」を開校している。信敬の死後に廃校となるが、テストベッドの意義はあつたに違いない。それを乗り越えての崇廣館開校であつた。

読みやすい文で知られる荻野祐一丹波新聞社会長が書き下し、かつて崇廣小学校へ通った岩槻邦男会員が序文を寄せている。索引や年表が無いのが惜しまれる。

（徳田八郎衛）

*「崇廣館を再建する会」に在庫が少々あります。ご希望の方は同会の西野博詩さん (kiarui-kourin@ake.ocn.ne.jp) までご連絡を。1000円（送料別）で購入できます。

◆赤井 正洋

未だ体調が悪く（外出時体のふら付き）欠席させて頂きます。

◆浅野 智哉

お世話になります。先輩方のご活躍を拝見しながら、50代の始まりを楽しんで暮らしております。郷友会の皆様のご健勝を心からお祈りしています。

◆蘆田 あつ子

ご案内ありがとうございます。皆様のご健勝とご盛会をお祈り申し上げます。

◆足立 勝幸

別用があり欠席させていただきます。

◆足立 敏昭

齢とともに丹波の地が遠くなっています。ご盛会をお祈り申し上げます。

◆足立 美都子

歩くことがすっかり駄目になり杖を頼りにうろろするだけ、情けないです。短歌だけは何とか続けたいと思っています。毎年行きたいとは思いますが一人ではとても出掛けられません。

◆足立 さつき

お世話になっております。今回も参加できず申し訳ありません。ご盛会をお祈りいたします。

◆荒木 輝雄

「ふるさとの会」の参加、久しぶりかな！ 楽しみにしています。よろしくお願いします。

◆荒木 司郎

いつもお世話になっております。今年も参加出来嬉しく思っております。「山やん」誌楽しみにしています。

◆安達 健一郎

元気に暮らしております。久しぶりに皆様に会えるのを楽しみにしています。

◆飯田 光雄

未だ地元の合唱団で歌っています。当日は演奏会の為欠席いたします。「山ざる」ありがとうございます。

◆池畑 廣士郎

80歳代が最高の青春！

◆石倉 良介

定期検査をやり、歳相応に生きています。

◆井徳 正吾

ごめんなさい、その日、他の集いが入っております。

◆稲岡 俊一

元気に過ごしています。

◆井上 巖

お陰様で元気に暮らしています。5～6 kmのウォーキングを日課にしています。

◆岩槻 邦男

ちようど同じ日に都内の別場所です話をしています。加齢に抗してそれなりに活動しています。ご盛会を祈念します。

◆上田 道代

丹波の小中学校の同窓会と重なってしまいました。今回会長交代で藤原さんはじめ優秀な学年生による、新しいふるさとの会が誕生したことに、大いに期待します。頑張ってください。

◆上野 忠明

岸本会長、永年のご尽力感謝申し上げます。

◆植山 範行

谷さんのご冥福をお祈りします。足腰

が痛くて治療の日々です。

◆内田 泰代

ふるさとへは、年に何度か墓参りで帰省する事は心おむひとときです。丹波の地の自然の中で生まれ、高校生まで暮らした事は、心の糧、できれば余生の暮らしを願うこの頃です。が、：「山さる」を読ませていただきながら、あの頃を思い出しながら思い描くこと多く貴重な冊子です。ありがとうございます。

◆内堀 祥司

体調不良のため欠席いたします。皆様によりしくお伝えください。

◆大賀 勝恵

久しぶりに皆様にお会いできることを楽しみにしています。

◆大城戸 しず代

ふるさとの会に出席させて頂くのは何十年ぶりのような気がします。会場へは歩いて行きますので娘と二人で楽しみにしています。

◆荻野 悦男

今回も欠席で申し訳ありません。ご盛

会をお祈りいたします。

◆形田 恒夫

75歳、サラリーマン継続中、往復4時間の通勤は年齢的に厳しいです。ボランティア（町の除草）は夏の暑さで大変でしたが、週1〜2回（各2時間）頑張りました。近所が美しい街へと変わるのを願っています。

◆小林 和子

いつもお世話になりありがとうございます。所用があり欠席いたしますが、ご盛会をお祈りしています。

◆近藤 利春

退職から4年半。朝、車と庭の掃除、ラジオ体操、近くのバス停を通って森林公園まで散歩ついでのゴミ拾いがルーティンになりました。朝掃除をする。と気持ちよく一日がスタートできます。散歩コースの消防署員も掃除をしてくれているようです、みんなで綺麗にしましょう。

◆坂上 豊

7月に88歳の米寿を迎えました。趣味の開基が生き甲斐の毎日です。暮会所

も3カ所に出掛け対局を楽しみながら指導碁も打っています。金曜日だけが休みで週6日の活動ぶりです。

◆笹倉 鉄平

当日は以前より動かせぬ用事があり参加が叶いません。ご盛会を祈っております。

◆正呂地 悟

83歳を迎えて体力は著しく低下、毎日自宅周辺を歩いています。「ふるさとの会」の発展を祈ります。

◆勢 正彦

茶道行事等の予定が入っており参加できませんが、ご盛会をお祈りしております。

◆勢川 武彦

あと一週間すれば満90歳になります、ここまで来ました事に感謝あるのみです。申し訳ありませんが「ふるさとの会」は欠席です。

◆関 多加子

諏訪も朝夕はすっかり寒くなってきました。今朝も朝夕はストーブをつけています。皆様にも寒暖差の多い時期で

すので、お体を大切にお過ごしください。当日楽しみにしています。

◆高見 秀史

めでたく？88歳を迎えましたが「五感」？のレベルダウンが気になります。

◆竹村 靖

「山ざる」楽しみにしています。

◆竹安 正伸

望郷の念は増々募る今日この頃、「山ざる」により懐かしく楽しく拝読させて頂いています。日頃役員、世話役の皆様感謝致します。小生74歳、未だ元気で元気で働いております。あいにく当日は仕事の為、ふるさとの会は出られません、ご盛会をお祈り申し上げます。

◆田中 さち子

申し訳ありません、先に予定が入っており欠席させて頂きます。

◆谷垣 悦夫

いつもご案内ありがとうございます。先約があり欠席させていただきます。「ふるさと会」の盛会を祈念申し上げます。

げます。

◆垂水 恵光

先般は「山ざる」をご送付いただき有難うございました。今春の本尊開扉期間中は、遠路の所、徳田様にはお参り下さり、数々のご縁に感謝いたします。ほんの微意ですがお振込みいたしました、どうぞご受納ください。薬師寺住職

◆徳田 邦男

「山ざる」会員になり1年が経ちました。不思議な事に、ご存じない方々でも、丹波出身のお名前だけでも、もう身近に感じてしまうのは私だけでしょうか。内容が豊富で、次はと楽しみにしています。

◆十倉 忠司

いつも「山ざる」をありがとうございます。元気に過ごしています。

◆富田 貞子

雑誌「山ざる」ありがとうございました。ここ4年程、10月半ばより11月末まで丹波で暮らしております。故郷で英気を養って力をもらっています。

す。皆様のご健康とご盛会を心よりお祈りしています。

◆西垣 桂

90歳過ぎ、ボーとしてますが、すこぶる元気です。

◆西川 宣孝

故郷が遠くなりつつありますが、丹波の風情を描写した「山ざる」を拝読し元気をもらっています。

◆野村 節三

現在、大船渡市老人クラブ連合会の会長を務め、多忙な毎日を送っています。又コロナ禍で遠出を控えている昨今です。「ふるさと会」のご盛会を祈っています。

◆林 進

毎度お世話になります。当日、地元の小江戸川越マラソンに参加するため欠席となります。無理せずゆつくり駆けて、その後のビールを楽しみます。

◆原 利充

毎年楽しく参加させて頂いていただきましたが、本年につきましては、健康維持のために通っている武道の大会と重なり

ましたので、残念ながら欠席させていただきます。

◆廣瀬 佳智

いつもながら丹波の故事来歴を知り、楽しく読ませていただいております。令和6年55号はさらにパワーアップされており、編集委員の皆様力量に改めて感心したのが、感想です。

◆廣瀬 安伸

いつもお世話になりありがとうございます。今回は家内共々残念ながら欠席させていただきます。皆様のご健康とご盛会を心よりお祈りいたしております。

◆藤田 千治・玲子

参加の皆様によりしくお伝え下さい。

◆藤田 徹

丹波で一人住まいです。世の中に貢献することなく馬齢を重ねておりますが、今年はひ孫を授かり孫、ひ孫12名になり人類繁栄には少し貢献したかもです。会員の皆様のご健勝を祈ります。

◆細木 敦子

楽しみに拝読しています。

◆細見 次郎

83歳の暑くて、長い夏は酷でした。寝る前にいつも思うこと。今日もご飯甘いものを口に入れず過ごせたこと。今、お腹は空っぽ、気持ちいいね。窓を見れば、鳥たち揃って古巣に帰っています。静かなベッド。坂本龍一さんの「秋色のスロー」を低音にして寝ましょう。でもすぐに「東北」の片山九郎右衛門さんの仕舞いを思ってなかなか寝られません。

◆森田 栄子

お忙しい中いつもお世話様です。ご案内ありがとうございます。今回は欠席させていただきますがご盛会をお祈りしています。

◆安本 義正

冠動脈のカテーテル手術を昨秋受け順調に推移しています。毎日仏像彫刻を楽しんでいます。時々地域社会貢献として、健康に関する講演やミニコンサートを続けております。今できることを無理のない範囲で楽しむことを目指しています。

◆山岸 幸子

残念ながら地域の行事と重なり欠席させていただきます。上野精養軒での会が盛会でありますように。

◆山名 昌衛

既に予定が入っており、残念ながら今年も欠席となります。会の盛会を記念します。

◆山本 述子

毎々「山ざる」刊行にご尽力頂き感謝いたしております。今回も「丹波人物伝」孤高の彫し物語、「山ざる」研究、丹波の情熱逞しさを感じつつ興味深く拝読いたしました。

◆横谷 喜代孝

高齢になり、耳、目、足等々悪い所ばかりですが、氣力までは落ち込んではいけなと言ひ聞かせ頑張っております、実年齢よりは10歳くらいは若いつもりで：

◆吉見 圭二

夫圭二は本年1月に逝去いたしました。長年お世話になりました。厚く御礼申し上げます。妻より

2025年度柏陵同窓会東京支部総会・懇親会の開催報告

柏陵同窓会東京支部は7月13日

(日)、2025年度の総会・懇親会をホテルグランドヒル市ヶ谷で開催しました。東京支部会員のほか丹波市長や同窓会本部会長らのご来賓や他支部の皆様など昨年よりも20人近く多い119人が集まりました。減少傾向がみられていた参加人数が久しぶりに増え、賑やかな集まりとなりました。総会準備を幹事学年として担当いただいた29



総会・懇親会風景

いかと推察しております。

総会は過去1年間の物故者6人を追悼する黙祷で始まり、議事に入りました。議事では2024年度の会務、会計、監査について報告され、役員改選の内容と学生会員の会費無料化について審議し、すべて承認されました。

2年に一度の役員改選では前期まで副支部長だった原谷洋美さんら3人の副支部長が退任され、新副支部長として25回の足立由美子さん、関多加子さん、高見美智子さん、28回の十倉直樹さん、渡辺正幸さん、29回の足立和孝さん、荻野禎一さんに就任いただきました。理事では10人の方が退任され、29回から31回までの8人の方が理事に就任されます。理事の人数は2人減りますが、若返りを図りました。新副支部長の渡辺さんには会計を担当いただきます。

学生会員の会費無料化は関東地区の

大学や専門学校などに進学された同窓生の加入を促すためのものです。今春の卒業生には同窓会の支部が東京のほか東海、京滋、阪神、篠山などにもあることを知らせるチラシを配布しました。それを受けて、若い同窓生に支部に加入してもらう働きかけを進める所存です。

第2部の柏陵セミナーでは29回の高橋典子さんに「どろんこキヤラバン☆たんばの活動」福島の子どもたちへ。丹波にできること」と題してご講演をいただきました。次ページをご覧ください。

第3部の懇親会では阪神、東海、京滋、篠山の各支部長が乾杯の発声や校歌・応援歌の指揮などをしていただき、会を盛り上げて下さいました。

来年の総会・懇親会は7月20日(月、海の日)に「アルカディア市ヶ谷私学会館」で開く予定です。多くの方のご参加を楽しみにしております。

(柏陵同窓会東京支部長 安井孝之)

「同級生最高！」 幹事学年制度万歳

今年令和7年を昭和に換算すると、丁度昭和100年になるそうです。自分の年齢も再確認しやすい年です。その区切りの良い年に、我がふるさと丹波市は7月30日に日本歴代最高気温となる41・2℃を記録しました。残念ながら8月5日に伊勢崎市に記録更新されましたが、何であれ日本一とは凄い事です。

そんな猛暑の初めに令和7年度の総



講師の高橋典子さん

会に続く、柏陵セミナーと懇親会は昭和52年卒業の29回生が幹事学年として担当させて頂きました。

柏陵セミナーは高橋典子さんの「 दौरानこキヤラバン☆たんばの活動」福島のこともちへ、丹波にできること。」と題し『ミッシェン子どもたちを救え』と熱く話され、福島の子どもたちへの真摯な思いが伝わりました。コロナ禍で中断を余儀なくされるも、現在まで継続されている思いの強さに心打たれました。

東京支部29回生6名の理事が一年程前から頻回にZoomミーティングをし、時には都内で顔を合わせ旧交を深め、楽しみながら準備しました。他校では類を見ないこのユニークなシステムと要所所で安井支部長はじめ支部幹部の皆様の丁寧なご指導に改めて感謝いたします。

セミナー講師の選定や交渉に奔走してくれた荻野君、素敵なセミナーのパンフレットを準備してくれた五十嵐さ

ん、名簿管理等卓越した事務能力を発揮してくれた徳田君、煩雑な受付や会計を仕切ってくれた竹下君、小林君、更には当日早くから参加し録画等お世話になった吉竹、藤本、小谷、杉浦各君に感謝です。

懇親会では関東氷上郷友会会長の石橋順子さんがご挨拶され、恥ずかしながら長年理解できていなかった柏陵同窓会との関係が明確になりました。今後も幅広い出会いやご縁を求めて積極的に参加したいと思います。終了後は徳田、小林両君の骨折りで29回生だけの慰労会を含めた二次会を行いました。高校時代は、一言も話したこともない同級生とも半世紀ほどタイムスリップし大いに盛り上がり、最後は「同級生最高」と叫びながら、再会を約束しました。日常の仕事から離れ、かつての同級生と相談しながら同窓会の準備をするという楽しく貴重な体験をさせて頂き、有り難うございました。

(29回生幹事学年代表 足立和孝)

関東氷上郷友会の会員募集活動 地元高校卒業生に募集チラシ配布

ご卒業おめでとうございます。

新しい世界に羽ばたこうとされている皆さんの門出をお祝ひいたします。大空へ飛び立とうとしている、この飛行機は1931年に青森県三沢市を飛び立ち、米国へ向かったMiss Vendo 1号の復元機です。世界初の太平洋無着陸横断に成功し、世界を驚かせました。

皆さんに贈りたいメッセージがあります。

「高く飛べ。まっすぐに飛べ。ゆっくり飛べ。」

小説家の下村湖人が著書「青年の思索のために」の中で、当時の飛行家が「長距離飛行の秘訣として常に守っていたといわれる言葉」として書き記したものです。目標に向かって真正面に挑戦して、うまくいかなくても決して焦ることはありません。ゆっくり歩を

進めていけばいいのです。ご健闘、ご活躍を祈っています。



2025年2月、丹波市の県立柏原高等学校と県立氷上高等学校の卒業生に、このメッセージを添えた関東氷上郷友会・会員募集チラシを配布した。チラシには郷友会の紹介と「ふるさとの会」、「山ざる」の説明を加え、入会案内を付けた。募集活動の背景には少

子化に加え、個人情報保護法もある。同窓会名簿に現住所を載せず、連絡できない卒業生も多い。

この状況下で、一人でも多くの会員候補者に関東氷上郷友会を知ってもらうため、石橋新会長が丹波市内の県立高校の校長先生と連絡し、チラシ配布の了解を得た。安井副会長が2月に帰郷し、柏原高校と氷上高校の校長先生と面談し、協力をお願いした。卒業生

関東氷上郷友会 会員募集中



高く飛べ。
まっすぐに飛べ。
ゆっくり飛べ。
「青年の思索のために」より

※世界初の太平洋無着陸横断飛行から制覇者となった251名に
乗機・3次空母艦内F3C-100 Vendo 1号機（複製機）

ご卒業おめでとうございます。

新しい世界に羽ばたこうとされている皆さんの門出をお祝ひいたします。大空へ飛び立とうとしている。この飛行機は1931年に青森県三沢市を飛び立ち、米国へ向かったMiss Vendo 1号の復元機です。世界初の太平洋無着陸横断に成功し、世界を驚かせました。

皆さんに贈りたいメッセージがあります。

「高く飛べ。まっすぐに飛べ。ゆっくり飛べ。」

小説家の下村湖人が著書「青年の思索のために」の中で、当時の飛行家が「長距離飛行の秘訣として常に守っていたといわれる言葉」として書き記したものです。目標に向かって真正面に挑戦して、うまくいかなくても決して焦ることはありません。ゆっくり歩を進めていけばいいのです。ご健闘、ご活躍を祈っています。

■関東氷上郷友会

1996年（明治29年）に丹波から関東に出てきた若者をサポートするために創設されました。現在の会員は約1000人。年会費は2,000円が、無料です。ホームページは <http://www.kaisyo.or.jp/hikari> QRコード

■「ふるさと」の会・関東

毎年1月に「ふるさと」の会を開催。同郷の老若男女が交流する会員同士の情報交換の場になっています。

■会報誌「山ざる」発行（年1回）

関東で活躍する先輩のインタビューなどが掲載されています。ホームページで全文を読むことができます。※本誌は「山ざる」55号（2024年11月発行）

■入会申し込みは、QRコードから関東方面にお住まいの方は、ぜひご入会ください。

関東氷上郷友会の入会申し込み <https://forma.office.com/jR9Qn5f5e4s>

高校卒業生へのメッセージを添えた関東氷上郷友会・会員募集チラシ 2025年2月配布

近藤利春
には将来、関東圏に移住することがあったなら、丹波の里山で育った仲間がいることを思い出し、ただけがあればありがたい。



江月庵で上演された能

備えた文化体験施設。一棟貸しの宿泊施設（最大10名まで）もある。江月庵という名には「水面に映る月のような静けさ」と

丹波市に常設能舞台オープン 「丹波みわかれ能舞台 江月庵」

丹波市に常設の能舞台「丹波みわかれ能舞台 江月庵」が7月にオープンした。2014年に丹波に移住した能楽小鼓方大倉流の上田敦史さんが代表を務める「伝楽舎」が建設し、運営する。かつて「丹波猿楽」が隆盛を誇った丹波の地で、新作の能や狂言なども演じる発信拠点にしていくという。

江月庵（こうげつあん）は氷上町石生の水分け公園そばに建てられ、最大70名が入場できる能舞台と茶室を兼ね

美しさに包まれる庵」という意味が込められている。

上田さんが丹波に移住したきっかけは、大学時代に神戸で阪神・淡路大震災を被災したこと。都市の脆さと自然の脅威を目の当たりにし、「大地とつながり、地に足のついた暮らしこそが、これからの時代を生き抜く力になるのではないか」と思いを募らせたからだ。今では丹波で畑を耕しながら、能楽師としての活動をする「半農半能」という暮らし方を実践している。

丹波に移り、「新丹波猿楽座」という能楽普及団体を立ち上げ、新作の能や狂言の創作に励む。丹波の戦国武将、赤井直正を題材にした『直正』を始めとし、丹波竜を題材とし、子どもたちが主役となる『ちーたん丹波竜』など10作以上の新作をつくっている。

上田さんは丹波を拠点にしながら、他地域でも新作の能や狂言の制作・上演に取り組み、全国各地から制作依頼が舞い込んでいるという。地域の歴史、

文化を踏まえた古典芸能を甦らせ、新たな地域創生への手がかりを模索する試みが広がっている。

江月庵では小中学校生を対象にしたワークショップで謡や舞、お囃子を体験し、日本古来のリズムや言葉の美しさを体験する機会もつくる考えだ。また丹波の四季折々の食材を使った料理を提供し、丹波の魅力を伝えるため、地元の飲食業者とも連携している。

上田さんはこう抱負を述べている。
「百年後、まだ見ぬ誰かがふとこの地を訪れたとき、『ここに来れば大切なものに出会えるかもしれない』と期待してもらえよう、これからも丹波の地で文化の種を蒔き、育て続けていきます」（安井孝之）

伝楽舎 丹波市氷上町石生1138-2

Tel. 0795-7115204



❖ 本誌にご協力有難うございます

 YOKOHAMA

タイヤは、
雨で選ぼ。

BluEarth
AE-01Fから

BluEarth-GTに替えると

周の目に
約 **20%短く**
止まれる!

※詳しくはカタログ・HPをご覧ください。



ADVAN
Sport
V90



ADVAN
dB



ADVAN
FLEVA



BluEarth-GT



BluEarth-RV



BluEarth-RV



BluEarth-XT

横浜ゴム株式会社 ☎0120-667-520 | www.y-yokohama.com/product/tire/

月に一度は空気圧の点検を。

詳しくはこちら



肉の丹波屋



創業 50 余年

神戸牛・但馬牛神戸市場での名誉賞 3 回

最優秀賞牛 連続 26 年販売実績店

(令和 7 年現在)

世界的に有名な神戸ビーフを取り扱っております。
神戸ビーフは但馬牛から厳しい基準をクリアしたのが神戸ビーフです。
その柔らかさと風味豊かな味わいで、多くの方々に愛されています。
店主自ら厳選した、神戸ビーフのみを提供しております。

(株)肉の丹波屋ホームページより

<https://1129tanbaya.com>

15,000 円(税別)以上お買い上げいただくと

送料無料にさせていただきます。

* 備考欄に「山ざる」とご記入をお願いいたします。



Instagram

神戸牛登録指定店

肉の丹波屋

丹波市柏原町南多田 472-1

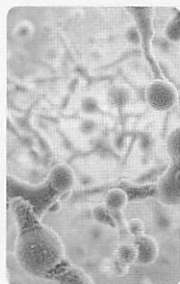
Tel 0795-72-1129

Fax 0795-70-2901

細胞が目覚め、最先端の再生医療

幹細胞 × 免疫細胞で、あなた本来の力を取り戻す

～がん予防・免疫強化・慢性疾患・アンチエイジングに～

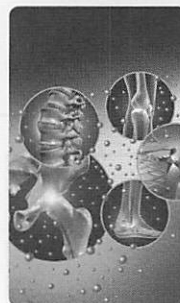


◆ 免疫細胞治療 (Immunotherapy) —

—がん予防、免疫力強化、ウイルス感染対策に

取り扱う免疫細胞：

- NK細胞（ナチュラルキラー細胞）
- $\alpha\beta$ T細胞（がん細胞への特異的攻撃）
- $\gamma\delta$ T細胞（迅速な免疫応答、感染予防）
- NKT細胞活性化樹状細胞（抗腫瘍免疫の司令塔）



◆ 幹細胞治療 (Stem Cell Therapy) —

—組織再生・抗炎症・若返り・慢性疲労や関節疾患の改善に

取り扱う幹細胞：

- 間葉系幹細胞 (MSC)
(抗炎症作用、損傷組織の修復、自己再生の促進)
- 幹細胞培養上清液
(サイトカイン・成長因子などを豊富に含み、肌再生や疲労回復に)
- 抗炎症性幹細胞生成物質点滴
(全身の慢性炎症を抑えることで体質改善や免疫調整に効果)

当院が選ばれる理由

- ✓ 安全性：自分自身の細胞を使用し、副作用のリスクが低い
- ✓ 効果実感：体の内側から修復・再生し、美しさと健康をサポート
- ✓ 医師によるカウンセリング：専門医が一人ひとりに合った治療をご提案

〒130-0002

東京都墨田区業平2-14-9

☎ 03-3625-0080

熊谷整形外科

内科・整形外科・皮膚科・再生医療

院長：藤本 和幸

柏原高校・昭和52年卒業

NPO法人アジアの新しい風 名誉顧問
<http://www.npo-asia.org>

上 高 子 (氷上町出身)

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414
TEL / FAX 03-5426-6714
e-mail takako-ue@t05.itscom.net

世界が時代の変革期を迎えていることをひしひしと感じます。「アジアの新しい風」は設立22周年を迎えるNPO法人で、アジアの大学で日本語を学ぶ学生たちを支援しています。彼らとのコミュニケーションを通して、多文化共生の理念を学び、紛争解決の姿勢・態度を獲得していきましょう。詳しくはホームページをご覧ください、ぜひ入会のご検討をお願いします。同郷の会員は現在15名です。

電子書籍も出版しています

「兵庫・丹波発 田舎のおもしろ記事百選」vol.1

田舎ならではの伝説からほっこりする話、おもしろ写真まで、2018~2020年によく見られた記事を中心に100記事をセレクトしました。丹波新聞ファンの方はもちろんのこと、田舎が好きな人にもぜひ読んでいただきたい一冊です。

Amazonのkindle版(電子書籍)から購入可能です。



丹波新聞社

E-mail tanba@tanba.jp

〒669-3309 丹波市柏原町柏原201
tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956

丹波新聞

検索

ご購入はコチラから⇒



あなたの町の「石屋さん」
そんな石屋をめざしています！！

墓石・霊園・建築石材・造園石材

(株) 丹波総合石材

代表取締役 堀 公二 柏高 昭和 36 年卒

いしやは ここよ



 **0120-1480-54**

事務所 〒669-3311 丹波市柏原町母坪425

工場 〒669-3314 丹波市柏原町拳田13-1

TEL 0795-72-3032

FAX 0795-72-4343

<http://www.tanba-sekizai.com>

今、求められている

新しいスタイルの物流トータルサービスをあなたに

情報誌・SP販促物などの梱包・発送管理、DM発送
データ入力等の情報処理、コールセンター、
事務局代行、在庫管理など一連業務を代行いたします

——— いつでもよりよいサービスを ———



株式会社ベターサービス

代表取締役 絹川 正 (山南町池谷)

本社：〒262-0003 千葉市花見川区宇那谷町 1501-2

TEL：043-257-0414 FAX：043-257-2865

<http://www.betterservice.co.jp>

e-mail：kinugawat@betterservice.co.jp

関西丹波市郷友会会報

たんば 第10号



(11月発行予定)

関西丹波市郷友会会報
第10号 2020.11.1

関西

丹波市郷友会

会長	公江 茂		
副会長	大槻佐知子	田 晴行	
	坂谷 高義		
常任理事	足立 栄逸	池畑廣士郎	
	磯尾 隆司	大西 伸弘	
	岸田 康博	清水 昭景	
	田中なほみ	仁藤 欽嗣	
	山口 直樹	山口 洋子	
	山名 純吾	大木 玲子	
	近藤 紀子	岸田 隆博	
編集長	岸田 隆博		

ホームページ

<https://goyukai.net/>



郵送料のみご負担にて配布致します。

[申し込み先] 関西丹波市郷友会

縁尋機妙 多逢聖因(えんじんきみょう たほうしょういん)



良い縁がさらに良い縁を尋ねて発展していく様は誠に妙なるものがある。いい人に交わっていると良い結果に恵まれる。という意味だそうです。

昨年8月、縁あって「本郷はかねやすまでは江戸の内」と詠われた、かねやすビルの1階に「丹波やながわ 東京春日店」をオープンしました。13代目の兼康様は丹波氏(たんばうじ)の直系で、室町時代に丹波(現在の福知山市今安)に実在した丹波兼康が祖先と考えられています。春日局に導かれ春日通りに出店してから6年、奇しくも没400年の節目の年に、新たなご縁の舞台で丹波ブランドの魅力発信に努めてまいります。会員の皆様も機会があれば、是非お立ち寄りくださいませ。



丹波やながわ

東京春日店
TEL 03-3868-5610

都営地下鉄 大江戸線
「本郷三丁目」

〒113-0033
東京都文京区
本郷2丁目40-11
かねやすビル1階

東京メトロ丸ノ内線
「本郷三丁目」



丹波やながわ
東京春日店
公式 LINE

株式会社やながわ 兵庫県丹波市春日町野上野 209-1

希望と
うるおいのある
まちづくり



代表理事組合長 藤原 昌和

〒669-3461 兵庫県丹波市氷上町市辺440
TEL 0795-82-0170 FAX 0795-82-3658
URL <https://ja-tanbahikami.or.jp/>
E-mail thk.info@jamail.hyogo.jp



JA 丹波ひかみ
ホームページ



JA 丹波ひかみ
公式LINE

心の通う目のホームドクターとして最高水準の眼科医療を提供します

医療法人社団 順孝会



あだち眼科

Adachi eye clinic

理事長・医学博士 足立 和孝

眼科専門医 順天堂大学眼科非常勤講師
順天堂大学医学部卒 柏原高校・昭和52年卒業



〒347-0015 埼玉県加須市南大桑1620-1

電話 0480-65-5988 相談専用フリーダイヤル 0120-55-3385

<http://adachi-eye-clinic.com/>

広告、パッケージ、
ロゴ、Webデザイン
企画・撮影・デザイン制作。
Peg

株式会社ペグ

代表取締役 松本祥一（柏高H1卒）

〒104-0045

東京都中央区築地 3-5-13 北村ビル4F

03-6228-4186



郷友の皆様へお願い

▼同じふるさとをもつ者の親しさは、親兄弟にも似て快
よく、その気がねのない交りは、互いに清新なはげみ
を呼びおこします。そんな仲間のひろがりをも、この小
誌は求めつづけます。

▼この雑誌は毎号全会員に贈ります。同郷者の全員が会
員ですから、登録のない方や住所変更等がありました
らぜひお知らせください。

▼関東水上郷友会は、すべて有志のボランティア活動に
よって運営されています。『山ざる』誌や通信費等の資
金源も、有志の寄付、協賛広告料、郷友会会費等によつ
て支えられています。

▼広告料は名刺広告五千円、一／三頁広告一万円、半頁
広告一万五千円、全頁広告三万円です。何卒ご協力お
願い致します。

▼年会費の二〇〇〇円は会の運営を支える重要な資源で
す。同封振込用紙にてお振込みくださいますようお願い
上げます。

▼これだけ充実した会誌をもつ同郷会はないというらやま
しがられるたびに、“丹波のきずな”の強さを思います。

（山ざる編集部）

イベント企画 有価証券取引 人事コンサル
夢企画工房 プロスタッフサービス

代表 林 孝 男

東京都中央区日本橋人形町3-5-8
日本橋センチュリー21
<http://www.prostaffsvs.com>



丹波ふる里せんべい

小谷製菓



丹波市市島町上牧 663-1

TEL : 0795-85-0678

FAX : 0795-85-2512



kotaniseika.com



ユーロボックス
EuroBox
万年筆と寫眞のある書齋

万年筆の販売・修理・買取・委託販売
時給万年筆の鑑定・買取

東京都中央区銀座 1-9-8
奥野ビル 407

TEL : 03-3538-8388



euro-box.com



EuroBox©

創業 100 年以上の老舗和洋菓子店



丹波菓子

hiro 正栄



Instagram



丹波菓子 Hiro 正栄

丹波市柏原町田路 114-5

TEL:0795-73-0730

FAX:0795-82-0019

新郷店：丹波市氷上町新郷 1458

代表 進藤 敏郎



原谷 洋美

藤原 ひさ子



現場を歩き、現場で考える

Gemba Lab

代表・ジャーナリスト 安井 孝之

(日本記者クラブ会員、東洋大学社会学部非常勤講師)

Gemba Lab 株式会社

〒278-0031 千葉県野田市中根 218-10

Tel:090-1114-8071 e-mail: yasui@gembalab.jp



神奈川県立高校英語科講師
英検一級、全国通訳案内士（英語）

石橋順子

E-mail: ykmarch@ab.cyberhome.ne.jp

PCC大洋

岡吉明

〒351-0014

朝霞市膝折町四一四一三〇
TEL 〇四八-四六〇-一六〇一
FAX 〇四八-四六〇-二三九七
<http://www.pcc-taiyo.co.jp>

木呂子惠美子

坂上明

坂上勝朗

坂上豊

仲 一 聰

鶴 田 ゆ き 子

高 見 秀 史

いい眠りのためのNPO法人..
SASネットメールマガジン
magazine@sas-j.org をご覧ください。

日本舞踊 西 崎 祥
端 唄 根 岸 妙

〒224-0032 横浜市中区茅ヶ崎中央五六一九一七二二
電話 〇九〇-九九七七一七七九三

谷 口 浩 章

大 江 田 秀 一

株式会社 埼玉りそな銀行 桶川支店
支店長

〒363-0013 埼玉県桶川市東一-1-1十八
TEL 〇四八-七七三-一四八一
FAX 〇四八-七七三-九五四二一
<http://www.resona-gr.co.jp>

林

進

株式会社

メイク

代表取締役

広

瀬

寿

和

〒160-0003

東京都新宿区本塩町一四―一第二田中ビル
電話 〇三―三三三五四―〇二二一
FAX 〇三―三三三五四―三三一

西

山

裕

三

〒669-4302

兵庫県丹波市市島町

中竹田一七―一

エネクスフリースト株式会社
関東支店 支店長

百

瀬

友

章

〒346-0003

埼玉県久喜市久喜中央一―一二十
久喜駅前西口再開発ビル五階五〇九号
電話 〇四八〇―二九―一〇六〇

青葉山

真照寺

(都立八王子霊園隣り)

八王子

青葉霊苑

墓地分譲 案内中

和合廟(永代供養墓)受付中

住職

堀

井

隆

川

〒193-0821

東京都八王子市川町四九三―二
電話 〇四二―六五二―二〇一一
FAX 〇四二―六五二―二〇三三

集 編 後 記

★最近の世相は腹立たしいことばかりで、「我がままもいい加減にして」と独り言で怒りをぶちまけているが、「まめの歯ぎしり」という

文言が盛んに浮かんでくる。そのあとに来る諦めの境地が怖い。せめて「同感！」という同士が欲しい、一人でも多く。(上)

★早春の「湯島の梅祭り」に丹波からも出店され郷友会でも法被を着てお手伝いをした。その時丹波の「鶏足禅寺」の御朱印が欲しいと言う男性と観光大使新木氏の「推し活」の母娘に出会った。丹波三玉以外で丹波に行きたい人たちがいることが新鮮だった。(石橋)

★インフォメーション欄のように、郷友会会員募集チラシを安井さん支援により作成しました。依頼され、「青年の思索のために」と太平洋無着陸横断のビートル号が思い浮かび、20代の頃の自分へのメッセージになりました。若者に響くか未知ですが、たまには青臭いのも良いのでは？ (近藤)

★「特急を逃がした時は柏原教会墓地へ行く」と本誌に記しましたが、小南山へも行きます。かつては神南備山(かなびやま)と称し「ときはなる かなびの山の 榊葉をさしてぞ祈る 万代のため」と詠まれた山なのに地元でも忘却されています。(徳田)

★丹波柏原が日本一の高温地点になったこの夏、全員の若人のガイドヘルパーをした。真っ直ぐ伸びた若竹のような青年は、コンビニは特有の匂いで、池の畔は魚の跳ねる音で判ると言う。見ているはずが実は何も見ていないと気が付いた酷暑の五日間だった。(原谷)

★マイギャラリー欄に昨年急逝された柏陵東京支部長の故・谷敬三さんの絵画を掲載させて頂きました。長らく描画を続けておられた折、是非「山さる」に約束しておりましたが、思いもよらず急逝され、作品集からその一部を掲載させて頂きました。(岡)

★本誌で昨年、深尾須磨子が取り上げられました。私の父方の祖母は京都師範の卒業です。深尾須磨子とは同期であると言っていました。わたしが、子供の頃に、深尾須磨子が出演しているテレビを見ながら青春時代を懐かしんでいた祖母の姿を想い出します。(本城)

★埼玉県三芳町の農園にある木の下で吹き渡る風の音を聞きながらコスタンティーニさんの話を聞いた。こんな人が丹波から世界に雄飛し、日本に戻ってから活躍されているのを知って、丹波もまんざら捨てたものではないと思つた。(長澤)

★女性特集やインタビューに登場いただいた丹波出身の女性たちの自由でしなやかな

生き方に大いに刺激を受けました。いろんな苦勞はあつたでしょうが、男性もまたもつと自由にしなやかに生きれば社会は変わると思っています。(安井)

◆◆◆
弊誌「丹波通信」に長くご寄稿いただいた荻野祐さんが8月12日にお亡くなりになりました。病氣療養中にもかかわらず6月に送ってくださった今号の原稿が遺稿となりました。38号以降に掲載された合計16本の原稿はいずれも深い取材に裏打ちされた丹波への愛が満ちた内容でした。ご冥福をお祈りいたします。

山ざる 第56号 定価500円

令和七年十一月一日発行

〈編集委員〉 井徳正吾 石橋順子 上高子
岡吉明 近藤利春 徳田八郎衛
長澤孝昭 原谷洋美 藤原ひさ子
本城英明 安井孝之 山口敏之

発行者 関東水郷友会会長岸本 勲

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町4-4-30

関東水郷友会事務局(岡吉明)

☎〇四八(四六〇)一六〇一

編集部 yamazuhensyu@bun@gmail.com

製作 株式会社二玄社

編集協力 ダイワコムズ

来る人に知らずと、

住む人にうるおいを与え、

ふるさとのおばあちゃんが

出迎えてくれるようば

温もりいっぱい
の地域

おばあちゃん
の里

2025 年
全国道の駅
シンポジウム
11月1日(土)
丹波の森公苑
開催

丹波の
「ちいき百貨店」

オリジナルジェラート

丹波大納言小豆発祥の地

丹波黒大豆

丹波栗

丹波大納言小豆

国土交通省選定 重点「道の駅」

丹波おばあちゃん
の里

〒669-4131

兵庫県丹波市春日町七日市 710

TEL 0795-70-3001

<https://tamba-obasato.co.jp/>

ホーム
ページは
コチラ▶





附録DVD: コンピュータ上で全頁閲覧可能!

B5判変型 (260×190mm)・上製布貼表紙・函入・総3056頁 ● **52,800円** (税込)

書体字典の最高峰。未曾有の21万字収録!

大書源

[全三巻+索引冊]
DVD、書道史年表附録

二玄社編集部 編

殷の甲骨・金文から清末の斉白石まで、あらゆる時代の様々な書体に加え、飛鳥から平安に至る日本の名跡も収録。21万を超える史上最多の字例を収めた書体字典の決定版。附録のDVDに全頁のデータを完備。



きれいな文字の書きかた [書き込み式練習帳]

宮澤正明 著

B5判・160頁 ● 2750円 (税込)

書写教科書の執筆者として、定評ある著者の手書き文字を手本に、なぞり書きを交えながら実際に鉛筆やペンで反復練習。ひらがな・漢字のおさらいから、ハガキ・手紙の書き方まで、整った「きれいな文字」を身につけるための書き込み式練習帳。



大人が学ぶ小学校の漢字 [なぞり書き練習帳]

宮澤正明 著

B5判・164頁 ● 3080円 (税込)

教育漢字1026字について楷書・行書・草書の三書体をマスター。小学校レベルの漢字を練習するだけで、キレイなくずし字が気軽に身に付く練習帳。全ての文字に筆順を示したほか、行・草書には、くずし方のポイントも解説。

株式会社二玄社 代表取締役 渡邊也寸美



二玄社

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-2-1 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 <http://nigensha.co.jp>